

第3章 防火防災訓練に関するアンケートとその分析

第1節 アンケートの実施

1 アンケートの目的と実施方法

(1) 目的

防火防災訓練に関する住民の意識構造を解明し、働きかけ方法の検討、効果的な訓練内容作成の参考とすることを目的とした。

(2) アンケート手法

web アンケート（楽天リサーチ）で実施した。

(3) 対象

前章のデプスインタビューの結果から、ライフステージにより防災や防火防災訓練への考え方が異なることが分かった。それを反映するために、表 3-1-1 で示す通りにライフステージを定めて、それぞれから 400 標本を集めることとした。アンケート結果は合計で 1,600 標本を回収し、全て有効回答であった。

表 3-1-1 アンケート標本の割り振り

ライフステージ種別		男性	女性	計
ライフステージⅠ (LSⅠ) 独身または、単独もしくは夫婦 のみの世帯の方 (60 歳未満)		200	200	400
	特別区	138	138	276
	多摩地区	62	62	124
ライフステージⅡ (LSⅡ) 中学生までの子と同居している 方 (60 歳未満)		200	200	400
	特別区	138	138	276
	多摩地区	62	62	124
ライフステージⅢ (LSⅢ) 子と同居している方 (中学生ま での子と同居している方は除 く) (60 歳未満)		200	200	400
	特別区	138	138	276
	多摩地区	62	62	124
ライフステージⅣ (LSⅣ) 60 歳以上の方		200	200	400
	特別区	138	138	276
	多摩地区	62	62	124
計		800	800	1,600

(4) 実施日

平成 27 年 10 月 13 日（火）から 10 月 16 日（金）で実施した。

2 アンケートの設問と設問の意図

アンケートの設問について、以下に示す。その後、各設問を設定した意図について示す。アンケートの各設問における狙いや仮説については斜体で記載した。

*は仮説を表す。

X1.あなたの性別を選んでください。 【男性・女性】

性別の違いによる傾向を量る。

*男性と女性では不安と思う災害や被災リスクなどの捉え方が違うのではないかと。

X2.あなたの年齢を記入してください。 【 歳】

SC1.あなたの居住地を選んでください。 【千代田区・中央区・・・奥多摩町】

SC2.あなたが同居している家族を以下から選んでください。(複数選択可)

世帯構成の違いによる傾向を量る。

*単身世帯や老人世帯など、世帯の構成によって意識が違うのではないかと。

	該当する	該当しない
1.単身世帯	1	0
2.配偶者	1	0
3.未就学の子供(孫も含む)	1	0
4.小学生の子供(孫も含む)	1	0
5.中学生の子供(孫も含む)	1	0
6.高校生の子供(孫も含む)	1	0
7.短大・大学生・専門学生の子供(孫も含む)	1	0
8.社会人の子供(孫も含む)	1	0
9.自分の母	1	0
10.自分の父	1	0
11.義母	1	0
12.義父	1	0
13.祖父	1	0
14.祖母	1	0
15.兄弟	1	0
16.姉妹	1	0
17.その他の親族	1	0

SC3.あなたが現在同居しているご家族の人数を教えてください。

	1人	2人	3人	4人以上
1.未就学児の子供(孫も含む)	1	2	3	4
2.小学生の子供(孫も含む)	1	2	3	4
3.中学生の子供(孫も含む)	1	2	3	4
4.高校生の子供(孫も含む)	1	2	3	4
5.短大・大学生・専門学校生の子供(孫も含む)	1	2	3	4
6.社会人の子供(孫も含む)	1	2	3	4
7.兄弟	1	2	3	4

8.姉妹	1	2	3	4
9.その他の親族	1	2	3	4

SC4.あなたの同居家族の年齢を記入してください。※前問で、同居しているご家族が「4人以上」とお答えになった方は、「4人目」までの年齢をお答えください。

本人の年齢等からセグメントの仮説であるライフステージの設定に参考とするため。

*SC3 世帯構成と合わせて分析を行う。

*小さな子供がいる世帯や高齢者がいる世帯では意識が違うのではないか。

子供の学校段階の違いによる親の意識の違いを図る。

*子供の学校段階、年齢の違いにより、親が子供を守ろうとする意識に違いがあるのではないか。

	1人目	2人目	3人目	4人目
配偶者	歳			
未就学の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
小学生の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
中学生の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
高校生の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
短大・大学生・専門学生の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
社会人の子供（孫も含む）	歳	歳	歳	歳
自分の母	歳			
自分の父	歳			
義母	歳			
義父	歳			
祖父	歳			
祖母	歳			
兄弟	歳	歳	歳	歳
姉妹	歳	歳	歳	歳
その他の親族	歳	歳	歳	歳

Q1.防災についてお伺いします。あなたが自宅で実施している災害対策について、当てはまる番号を全て選択してください。（複数回答可）

災害への不安感や防災の関心と実際に自宅で行っている対策との関係を探る。

*関心が高いものの、実際に対策を行っていない人は、やり方がわからないからか。

*実際に対策を行っている人は、義務感や必要性の理解が高いのではないか。

	当てはまる	当てはまらない
1.非常食、非常用の飲料水を準備している	1	0
2.非常持ち出し袋を準備している	1	0
3.寝室に、懐中電灯を準備している	1	0
4.寝室に、はきものを準備している	1	0

5.避難場所の確認をおこなっている	1	0
6.家族との連絡方法を確認している	1	0
7.家具類の転倒・落下・移動防止対策を実施している	1	0
8.ガラス飛散防止フィルムを使用している	1	0
9.防災品を使用している	1	0
10.自宅の耐震診断を実施した	1	0
11.地域の危険度を調べた	1	0
12.その他	1	0
13.何もしていない	1	0

Q2.あなたやあなたの身近な人で下記の項目の災害で被災（建物や家具の被害、けがなど）された方はいらっしゃいますか。以下、それぞれの項目について、当てはまる番号を全て選択してください。（複数選択可）

*本人や身近な人に災害経験がある場合、防火防災訓練の必要性を理解しているのではないか。

	あなた自 身	家族	親戚	知人友人	いないわ からない
1.地震により被災したことがある	1	2	3	4	5
2.台風により被災したことがある	1	2	3	4	5
3.土砂災害により被災したことがある	1	2	3	4	5
4.津波により被災したことがある	1	2	3	4	5
5.水害（建物浸水等）で被災したことがある	1	2	3	4	5
6.火災を経験したことがある	1	2	3	4	5
7.その他の災害を経験したことがある	1	2	3	4	5

Q3.あなたは下記の単語について知っていますか。最も近いと思う番号をそれぞれ一つお選びください。

*防災の知識を多く持っている人は、防火防災訓練の必要性の理解も高いのではないか。

*防災の知識があるからといって実際の防災行動に反映されないという可能性もある。防災の知識に合わせて何らかの因子が必要ということも考えられることから、その因子について探る。

	知っている	知らない
1.共助	1	0
2.防火水槽	1	0
3.帰宅困難者	1	0

4.液状化現象	1	0
5.スタンドパイプ	1	0
6.家具の転倒・落下・移動防止対策	1	0
7.長周期地震動	1	0
8.消防用軽可搬ポンプ	1	0
9.AED	1	0
10.マグニチュード	1	0

Q4.あなたお住まいの市区町村の過去の災害について自分で調べたり、人から聞いたことはありますか。当てはまる番号を全て選択してください。(複数回答可)

*防災への関心が高く能動的に情報収集をしている人は、防火防災訓練の必要性の理解も高いのではないか。

	当てはまる	当てはまらない
1.インターネット等で調べたことがある	1	0
2.書籍で調べたことがある	1	0
3.地域の集まりや市区で行うイベントを聞きに行ったことがある	1	0
4.町会や自治会の人に聞いた	1	0
5.消防団や自主防災組織の人に聞いた	1	0
6.地域内で被災経験のある人に聞いた	1	0
7.市区役所や消防署の職員から聞いた	1	0
8.学校で先生などから聞いた	1	0
9.行政の広報誌などの配布物で調べた	1	0
10.調べたり、人に聞いたりしたことはない	1	0

Q5.あなたのご自宅の周辺地域(概ね500mの範囲内)における地震時の建物の倒壊と火災の危険性はどのくらいだと思いますか。最も近いと思う番号をそれぞれ一つ選択してください。

	安全だと思 う	やや安全だ と思う	普通だと思 う	やや危険だ と思う	危険だと思 う
1.地震時の建物の倒壊	1	2	3	4	5
2.地震時の火災	1	2	3	4	5

Q6.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きた時、あなたは、東京のどこかで次のことが起こる可能性があると思いますか。当てはまると思う番号どちらかを一つ選択してください。

*地震が発生した際に東京でどのような被害が発生するか(一般的な災害リスク認知)と、Q8地震が発生する可能性(発生確率のリスク認知)と、Q9地震が発生した際に自身にどの程度の被害が及ぶか(被災リスク認知)を比較する。

	起きると思う	起きないと思う
1.死者が発生する	1	0
2.住宅が倒壊する	1	0
3.家具等が倒れて、けがをする人が発生する	1	0
4.けが人が発生するが救急車が来ない	1	0
5.建物が倒壊し、道路がふさがれてしまう	1	0
6.建物が倒壊し、人が閉じ込められたり生き埋めになる	1	0
7.火災が発生する	1	0
8.大規模な火災が発生する	1	0
9.消防車が足りなくなるくらいの多数の災害が発生する	1	0
10.避難所で生活する人が多数発生する	1	0

Q7.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が発生し以下のことが身の回りで発生したとします。以下のことはそれぞれ不安または心配に感じますか。それぞれもっとも当てはまると思う番号を一つ選択してください。

東京で大規模な地震が発生した時にどのようなことが不安だと思うか。

*セグメントによって不安だと思う災害（「当事者感」）が違うのではないか。

*Q6の東京で災害が発生すると考えているのに不安ではないと考えている回答者は、どのような傾向があるのか（Q8で地震が発生しないと思っている、Q37回答番号4自分は大丈夫だと思っている、Q12訓練習熟度が高い等）。

	すごく不安である	結構不安である	ある程度不安である	多少不安である	全く不安ではない
1.大規模な火災	5	4	3	2	1
2.建物の倒壊	5	4	3	2	1
3.倒壊した建物などによる閉じ込め	5	4	3	2	1
4.通信・電気・ガス・水道などのライフラインが停止	5	4	3	2	1
5.避難場所への行き方が分からない	5	4	3	2	1
6.けが人が多数発生し、救急車や病院の対応が間に合わなくなる	5	4	3	2	1
7.自宅内で家具が転倒したり、ガラスが割れ飛び散る	5	4	3	2	1
8.電話網が輻輳（回線がパンクすること）して、119番通報が繋がらないこと	5	4	3	2	1

Q8.あなたのお住まいの市区町村で、以下の揺れを生じさせる地震がいつごろ発生すると思いますか。それぞれもっとも当てはまる番号を一つ選択してください。

どの程度の地震がその地域に住んでいる間に起きると思っているか。

*地震が起きないと思っている人はどのような傾向があるのか。

	いつ起きてもおかしくない	5年以内	10年以内	30年以内	31年以上
1.震度5弱	5	4	3	2	1
2.震度5強	5	4	3	2	1
3.震度6弱	5	4	3	2	1
4.震度6強	5	4	3	2	1
5.震度7	5	4	3	2	1

Q9.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きた時、あなたは、ご自宅やご近所で次のことが起こる可能性があると思いますか。下記の項目について最も近いと思う一つ番号を選んでください。

自宅周辺で地震が起きた場合、どのような被害が自分や自宅に及ぶと認識しているか。

*当事者感がどの程度あるのかを探る。

*地震発生リスクや被災リスクが高いと考えているのに、訓練の参加も含めた防災行動が消極的な回答者は、どのような阻害要因が高いのか。

	必ず起き と思う	起きる可 能性が結 構高いと 思う	起きる可 能性があ る程度高 いと思う	起きる可 能性が低 いと思う	起きない と思う
1.あなた自身がけがをする	5	4	3	2	1
2.家族がけがをする	5	4	3	2	1
3.友人や知人がけがをする	5	4	3	2	1
4.たくさんのけが人が発生 する	5	4	3	2	1
5.救急車を呼んだがいつま で待っても来ない	5	4	3	2	1
6.近所の病院が被災してい る	5	4	3	2	1
7.ご自宅が倒壊する	5	4	3	2	1
8.自宅内の家具が倒れたり、 物が落ちてきたりする	5	4	3	2	1
9.倒れた家具などによりけ がをする	5	4	3	2	1
10.家屋の倒壊が発生する	5	4	3	2	1
11.建物などの倒壊により道 路がふさがれる	5	4	3	2	1
12.家屋の倒壊により脱出で きない人が発生する	5	4	3	2	1
13.いたる所で建物が倒壊し 脱出できない人が複数いる	5	4	3	2	1

14.ご自宅が火事になる	5	4	3	2	1
15.近所で火事が発生する	5	4	3	2	1
16.火災が複数発生する	5	4	3	2	1
17.10棟以上燃えるような大火災が発生する	5	4	3	2	1
18.消防隊を呼んだがいつまで待っても来ない	5	4	3	2	1
19.119番通報が繋がらない	5	4	3	2	1
20.避難所での生活を余儀なくされる	5	4	3	2	1

Q10.あなたが身に付けておきたいと思う防災に関する技術・知識は次のうちどれですか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。

*セグメントによって身に着けたい知識・技術は違うのではないかな。

*セグメント毎の働きかけや訓練内容を検討する際に使用する。

	必ず身に 着けてお きたい	できれば 身に着け ておきた い	ある程度 身に着け ておきた い	多少身に 着けてお きたい	身に着け ておきた いと思 わない
1.必要な備蓄品についての知識	5	4	3	2	1
2.地震により火災が起きた時の対応	5	4	3	2	1
3.閉じ込められたり、下敷きになった人の救出方法	5	4	3	2	1
4.けがや、やけどの応急手当の具体的な方法	5	4	3	2	1
5.心肺蘇生の方法や AED の使い方	5	4	3	2	1
6.家具の転倒・落下・移動防止対策の具体的な方法	5	4	3	2	1
7.緊急地震速報を受けた時や、地震の揺れを感じた時の身の安全の回り方	5	4	3	2	1
8.避難場所までの安全な避難の方法	5	4	3	2	1
9.119番通報の具体的なやり取りの方法	5	4	3	2	1
10.地震発生から時間の流れに沿って何が起こるか	5	4	3	2	1

Q11.防火防災訓練についてお伺いします。(学校が実施する避難訓練や、職場が実施する火災を想定した自衛消防訓練は除きます。) あなたは地域で行われる防火防災訓練に対しどのようなイメージをお持ちですか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。

セグメントごとに防火防災訓練に対しどのようなイメージを持っているかを探る。

*防火防災訓練のイメージと Q13 の参加の有無を比較し、防火防災訓練に参加しない人は、どのような印象を持っているのかなど、助長要因・阻害要因を探る。

	とても 思う	結構 思う	ある程 度そう 思う	多少 そう 思う	全く そう 思わ ない
1.自分や家族を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
2.地域を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
3.住民にとっての義務だ	5	4	3	2	1
4.楽しいものだ	5	4	3	2	1
5.面倒くさいものだ	5	4	3	2	1
6.つまらないものだ	5	4	3	2	1
7.意味のないものだ	5	4	3	2	1
8.疲れるものだ	5	4	3	2	1
9.参加してもしょうがないものだ	5	4	3	2	1
10.毎回同じようなことしかやっていない	5	4	3	2	1
11.「訓練」という名前が、厳しい気がする	5	4	3	2	1
12.非常食や炊き出しが食べられる	5	4	3	2	1
13.防災用品などが貰える	5	4	3	2	1
14.防火防災訓練を実施することで、実際の災害時に役に立つと思う	5	4	3	2	1

Q12.あなたは地震が発生した時の行動についてどの程度できると思いますか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。設問の行動がわからない場合は番号1を選択してください。

*訓練の習熟度やQ13 訓練参加回数から自己効力感を量る。

*自己効力感が高い人は、Q17 回答番号12 訓練に参加する必要がないと考えているのはいか。

	絶対でき ると思う	結構でき ると思う	ある程度 できると 思う	多少でき ると思う	知らない・ できると は思わな い
1.地震の揺れを感じた時に身の安全を図ること	5	4	3	2	1
2.地震時の出火を防止（火の元を確認）すること	5	4	3	2	1
3.消火器を使った消火活動	5	4	3	2	1
4.スタンドパイプを使用した消火活動	5	4	3	2	1
5.消防用軽可搬ポンプを使用した消火活動	5	4	3	2	1
6.倒壊した家や倒れた家具等により閉じ込められた人や下敷きになった人を救助する活動	5	4	3	2	1
7.避難場所まで安全に避難すること	5	4	3	2	1
8.AED を使った心肺蘇生法（人工呼吸と心臓マッサージ）	5	4	3	2	1
9.けがややけどの応急手当	5	4	3	2	1
10.消防や警察に通報すること	5	4	3	2	1

Q13.あなたは地域で行われる防火防災訓練に参加したことがありますか。当てはまると思う番号を一つ選択してください。（学校が実施する避難訓練や、職場が実施する火災を想定した自衛消防訓練は除きます。）

訓練参加の有無、訓練参加回数を計る。

*訓練参加の有無と様々な要因を比較し、助長要因と阻害要因を探る。

*回答番号1、2では今後の参加意思を探る。

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | 一度も参加したことはないし、今後も参加したいとは思わない |
| 2 | 一度も参加したことはないが、機会があれば参加してみたい |
| 3 | 5年以内に一度だけ参加したことがある |
| 4 | 5年以内に2～3回参加したことがある |
| 5 | 5年以内に4回以上参加したことがある |
| 6 | 5年より以前に参加したことがある |

Q14.あなたは防火防災訓練の開催をどのような手段で知りましたか。以下の項目から、当てはまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他（ ）内に内容を

具体的にご記入ください。(複数選択可)

防火防災訓練の情報をどのように入手しているのかについて聞く。

*Q36 の地域のイベント情報と防火防災訓練情報の入手手段に乖離がみられた場合には、効果的な防火防災訓練の周知方法が行われていない可能性がある。

	当てはまる	当てはまらない
1.どの様に知ったか覚えていない	1	0
2.回覧板を見て知った	1	0
3.町内またはマンションの掲示板を見て知った	1	0
4.市区町村の広報紙を見て知った	1	0
5.地域の会合で聞いて知った	1	0
6.知人・友人に教えてもらった	1	0
7.市区役所の掲示板を見て知った	1	0
8.インターネットで知った	1	0
9.マンション管理組合からのお知らせで知った	1	0
10.消防署からのお知らせで知った	1	0
11.幼稚園、保育園や学童保育のお知らせで知った	1	0
12.学校からのお知らせで知った	1	0
13.消防団や自主防災組織の人に教えてもらった	1	0
14.自分で調べた	1	0
15.その他	1	0
16.情報が手に入らない	1	0

Q15.あなたが地域の防火防災訓練に参加した理由は何ですか。以下の項目から当てはまると思う番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他()内に内容を具体的にご記入ください。(複数選択可)

*各セグメントで参加した理由の傾向が違う場合、その理由がそのセグメントに対する効果的な働きかけの方法になると考えられる。

	当てはまる	当てはまらない
1.自分の身を守るために必要だと思ったから	1	0
2.家族を守るために必要だと思ったから	1	0
3.知人や友人を守るために必要だと思ったから	1	0
4.自分の家を守るために必要だと思ったから	1	0
5.地域を守るために必要だと思ったから	1	0
6.地域で役に立ちたいと思うから	1	0
7.他人には迷惑を掛けたくないと思うから	1	0
8.地域の子供を守るのは大人の務めだと思うから	1	0
9.行政は当てにならないと思うから	1	0
10.近所で助け合うのは当たり前だと思うから	1	0

11.近所の行事には、参加したいと思うから	1	0
12.近所の付き合い上、参加しなければならないから	1	0
13.地震に備えるのは、住民の義務だと思うから	1	0
14.炊き出しが食べられたり、防災用品が貰えると思ったから	1	0
15.消防車やはしご車などを見たり、体験で乗ったりできるから	1	0
16.知らないことや、やったことのないことに興味があったから	1	0
17.他のイベントに参加したら、ついでに防火防災訓練があったから	1	0
18.その他	1	0

Q16.あなたが参加したことがある防火防災訓練はどのような場所で実施されましたか。下記の項目から当てはまる番号を全て選択してください。(複数選択可)

*セグメントにより参加したことがある防火防災訓練の場所に差異があった場合、その場所で行うことが防火防災訓練の効果的な働きかけとなる可能性がある。

*家から 1.近い公園と2.遠い公園で差がなかった場合、防災訓練の不参加理由 Q17 回答番号 6 実施場所が遠い場所というのが阻害要因としてはあまり効いていない可能性がある。

	当てはまる	当てはまらない
1.家から近い公園、広場、運動場など	1	0
2.家から遠い公園、広場、運動場など	1	0
3.近所のまちなか	1	0
4.駐車場やエントランスホールなどのマンションの敷地内	1	0
5.駅前の広場	1	0
6.消防署・消防出張所など	1	0
7.市区役所の施設	1	0
8.学校	1	0
9.児童館等の子供向けの施設	1	0

Q17.あなたが防火防災訓練しなかったのはどのような理由ですか。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。(複数選択可)

防火防災訓練参加の阻害要因について探る。

*セグメントごとに防火防災訓練の阻害要因が違うのではないか。

	当てはまる	当てはまらない
1.都合(時間)が合わなかったから	1	0
2.都合(曜日)が合わなかったから	1	0
3.一緒に行ってくれる人がいなかったから	1	0
4.災害の対応は消防や自衛隊などのプロに任せるべきだと思うから	1	0
5.目の離せない小さな子がいたから	1	0
6.実施場所が遠いので、参加しようと思わなかったから	1	0

7.自分には関係ないと思うから	1	0
8.訓練していても意味がないと思うから	1	0
9.できることをできる範囲でやればよいと思うから	1	0
10.ほかの人たちがやっているので大丈夫だと思うから	1	0
11.訓練にわざわざ出かけるのが面倒だから	1	0
12.訓練の内容は十分知っており、必要ないと思うから	1	0
13.体を動かすのが面倒だから	1	0
14.普段親しくない人と一緒に何かをするのが嫌だから	1	0
15.世代の違う人たちと何かを一緒にするのは嫌だから	1	0
16.地域の人たちの集まりに、入っていくのは嫌だから	1	0
17.防火防災訓練があることを知らなかった	1	0
18.病気等で体が悪く参加できないから	1	0
19.屋外で行われる行事には参加したくないから	1	0
20.参加する理由がなかったから（参加する気にならなかったから）	1	0

Q18.時間、曜日が合わなかったのはどのような用事があったためですか。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他（ ）内に内容を具体的に記入ください。（複数選択可）

	当てはまる	当てはまらない
1.仕事のため	1	0
2.家族の都合	1	0
3.趣味のため	1	0
4.その他	1	0

Q19.どの曜日のどの時間帯に防火防災訓練が開催されれば、参加することができそうですか。下記の項目で参加できる組み合わせをそれぞれ選択してください。
参加したことが無い人にとって、どの時間帯ならば参加することができるか探る。

	平日	土曜日	日曜日	祝祭日
1.午前中（9～12時までの間）	1	2	3	4
2.お昼ごろ（12～13時までの間）	1	2	3	4
3.午後（13～17時までの間）	1	2	3	4
4.終日（9～17時までの間）	1	2	3	4
5.夜間（17～22時までの間）	1	2	3	4

Q20.今後参加してみたいと思う防火防災訓練はありますか。以下の項目から当てはまる番号を全てでも選択してください。（複数選択可）

実際に防火防災訓練を行っている写真を見せたうえで、参加してみたい防火防災訓練を聞く。

*防火防災訓練と聞いて、学校や職場で行われる訓練をイメージしている人が多いのではない
か（例えば建物外への避難や建物内での消火器の位置を確認する等）。

*実際に行われている放水訓練など写真を見せうえで聞くことにより、Q17 で今後も参加し
たいとは思わないという人が「参加したい」という回答に変化した場合、訓練の具体的なイ
メージがないこと、または誤った訓練イメージが参加の阻害要因になっていたと考えられる。

	当てはまる	当てはまらない
1.地震の揺れを体感し、身の安全を図る身体防護訓練	1	0
2.消火器による初期消火訓練	1	0
3.消防用軽可搬ポンプやスタンドパイプを用いた放水訓練	1	0
4.倒壊した建物やブロック塀などで、閉じ込められた人を 救出する訓練	1	0
5.心肺蘇生の方法やAEDの使い方を学ぶ応急救護訓練	1	0
6.防災マップを作るなど地域の危険性を具体的に学ぶワー クショップ形式の訓練	1	0
7.落ち着いて119番通報するための通報訓練	1	0
8.避難場所までの避難経路を確認する訓練	1	0
9.地震時に自分や家族にどのようなことが起こるかを学ぶ 訓練	1	0
10.自力で避難することが困難な人を避難させる訓練	1	0
11.地震が発生した時に必要となる物を学ぶ訓練	1	0
12.家の中の安全対策について具体的に学ぶ訓練	1	0
13.どれも参加したいと思わない	1	0

Q21.あなたが参加しやすいと思う防火防災訓練の実施方法はありますか。以下の項目から当て
はまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他（ ）内に内容を
具体的にご記入ください。（複数選択可）

*参加しやすい防火防災訓練を聞き、効果的な訓練内容作成の参考とする。

	当てはまる	当てはまらない
1.子供も参加する訓練	1	0
2.地域のお祭りや運動会など、他の行事に合わせて実施する 訓練	1	0
3.30分程度の短時間で要点を絞った訓練	1	0
4.競技性やゲーム性など取り入れた参加者が楽しみながら 行える訓練	1	0
5.防災用品や防災マップなど参加者がモノづくりをする訓 練	1	0
6.どの様な内容を行うのか事前にわかる訓練	1	0
7.1人でも気軽に参加できる訓練	1	0
8.上達・習熟度が分かる訓練	1	0

9.少人数のグループでも行える訓練	1	0
10.その他	1	0

Q22.あなたが参加している地域コミュニティはありますか。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。(複数選択可)

回答者がどういった地域コミュニティに属しているか探る。

	当てはまる	当てはまらない
1.子育て支援サークル等	1	0
2.幼稚園・学校の保護者同士のグループなど(PTA、おやじの会など)	1	0
3.あなたが参加しているスポーツスクール(サークル)	1	0
4.あなたが参加しているカルチャースクール(サークル)	1	0
5.子供が参加しているスポーツスクール(サークル)	1	0
6.子供が参加しているカルチャースクール(サークル)	1	0
7.上記以外のサークルなど	1	0
8.参加していない	1	0

Q23.あなたが参加している地域コミュニティの場で、防災について学ぶ機会があったらどう思いますか。以下の項目から当てはまる番号を1つ選んでください。

*地域コミュニティへのアプローチをした場合の、防火防災訓練参加可能性を探る。

1 学びたい
2 学んでもよい
3 学びたいとは思わない
4 学びたくない

Q24.どのような防火防災訓練が必要だと思えますか。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他()内に内容を具体的にご記入ください。(複数選択可)

	当てはまる	当てはまらない
1.子供と一緒に参加できる親子向けの訓練	1	0
2.子供が楽しめる訓練	1	0
3.地域に新たに引っ越してきた人向けの訓練	1	0
4.高齢者向けの訓練	1	0
5.地震時に支援が必要な人に対する支援方法を学ぶ訓練	1	0
6.仕事で自宅を不在にすることが多い人向けの訓練	1	0
7.マンションの居住者向けの訓練	1	0
8.駅前の広場などで行う訓練	1	0
9.実際のまちなかで行う訓練	1	0
10.その他	1	0

Q25.あなたの就業形態で下記の中から最も当てはまる番号を一つ選択してください。

【1.会社員 2.公務員 3.自営業 4.無職 5.アルバイト 6.契約社員 7.学生 8.その他】

職業形態の違いによる傾向を量る。主として、会社員などの正規社員、アルバイト、無職等による差異の影響を見る。

*無職の人は可処分時間が多いため、防火防災訓練参加の意識が違うのではないか。

Q26.あなたのお仕事がある日を教えてください。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。(複数回答可)

仕事に就いている人への設問とした。普段、どれくらいの時間的余裕があるか探る。

	当てはまる	当てはまらない
1.月曜日	1	0
2.火曜日	1	0
3.水曜日	1	0
4.木曜日	1	0
5.金曜日	1	0
6.土曜日	1	0
7.日曜日	1	0
8.変則勤務(週休2日)	1	0
9.変則勤務(週休1日)	1	0
10.変則勤務・その他	1	0

Q27.あなたの職場までの通勤時間(分)を教えてください。【 分】

Q28.あなたの1日の平均的な労働時間(残業なども含む)を教えてください。【 時間】

Q29.あなたの平均的な帰宅時刻を一つだけ選択してください。

【1.16~18時 2.18~20時 3.20~22時 4.22~0時

5.0~4時 6.4~8時 7.8時~12時 8.12時~16時】

Q30.現在お住まいの住所の郵便番号を教えてください。

郵便番号から居住地(地域危険度等)による傾向を量る。

回答者の居住地で実際に防火防災訓練が行われているかどうか。

*地域では訓練が行われているが、知らない回答者が多くいるのではないか。

*傾向がはっきりする場合、GIS上に回答を落とし込み、地域による意識の違いを視覚化する。

Q31.現在お住まいの地域(概ね半径1~2km程度の範囲)に住んでいる居住期間を教えてください。(1年未満の場合は、0年で回答してください。)【 年】

居住期間とQ32回答番号6の現在の地域に住み続ける予定と合わせて地域への帰属意識を量

る。

*居住期間が長いほど帰属意識が強く、地域を守ろうとする意識が高いのではないか。

Q32.あなたご自身のことについて伺います。以下それぞれの項目について、当てはまる番号を選択してください。

回答番号1、2では婚姻・子供の有無によってライフステージの設定を行う。子どもがいる回答者に対しては子どもの学校段階を聞く。

*子供の学齢、年齢の違いにより、親の子供を守ろうとする意識が違うのではないか。

*回答番号3、4、5については居住環境の違いを量る。5のマンションに住んでいる回答者に対してはQ33でマンションの規模（階層数）等を聞く。

*居住環境によって、リスク認知や必要だと思う防災対策が違うのではないか。

*回答番号6の地域に住み続ける意思では、Q31の居住期間と合わせて地域への帰属意識を量る。

*地域への帰属意識の違いにより、地域を守ろうとする意識が違うのではないか。

	当てはまる	当てはまらない
1.あなたは、現在結婚されていますか	1	0
2.あなた自身に子供はいらっしゃいますか	1	0
3.あなたがお住まいの家は持ち家ですか	1	0
4.あなたがお住まいの家は一戸建てですか	1	0
5.あなたがお住まいの家は共同住宅ですか	1	0
6.現在の地域に10年以上住み続ける予定はありますか	1	0
7.近所に親戚の中学生以下の子供または孫などが住んでいますか	1	0

Q33.[Q32.5で当てはまるを選択した人] 現在住んでいる共同住宅の総戸数はいくつですか。また、何階建てで何階に居住していますか。分からない方はおよその数で回答してください。

【1.総戸数 戸 2.共同住宅の階層 階建 3.住んでいる階 階】

Q32 回答番号5で共同住宅に住んでいると回答した回答者に対し、マンションの規模の違いによる意識の違いを量る。

*同じマンションであっても、規模によってコミュニティ意識やリスク認知が違うのではないか。

Q34.同居する家族に災害時に安全な場所に避難するなどの行動に支援が必要な方がいらっしゃいますか。(高齢者、障がい者、乳幼児等) 【1.いる 0.いない】

家族に要配慮者がいる場合の意識の違いを量る。

*家族に要配慮者がいる場合は、リスク認知が違うのではないか。

Q35.現在お住まいの地域で町会・自治会に加入しているかを教えてください。また、役職等がある場合はその役職等も教えてください。

【1.加入している 2.加入していて役職がある 3.加入していない】

町会・自治会への参加の有無、役職の有無による違いを量る。

*町会・自治会に参加していない場合、地域の情報収集手段及び情報量の違いがあり、結果として防火防災訓練の情報が入らないのではないか。

*町会・自治会内で役職がある場合、訓練参加率や防災意識が高くなるのではないか。

Q36.あなたが普段地域のイベント等の情報を手に入れる手段を以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他（ ）内に内容を具体的に記入ください。（複数回答可）

働きかけ時に効果的な広報媒体を調べる。

*町会・自治会への加入の有無、世代によって情報の入手手段が違うのではないか。

*地域情報が欠如しているセグメントがあるのではないか

	当てはまる	当てはまらない
1.街なかの掲示板・ポスター	1	0
2.マンションの掲示板・ポスター	1	0
3.地域のチラシ	1	0
4.市区町村の広報紙	1	0
5.市区町村のメールマガジン	1	0
6.知人友人の口コミ	1	0
7.回覧板	1	0
8.マンション管理組合	1	0
9.町会・自治会の会合	1	0
10.学校（PTA 含む）	1	0
11.幼稚園、保育所、学童保育	1	0
12.公民館、児童館	1	0
13.TV、ラジオ、新聞などのマスメディア	1	0
14.インターネット、SNS	1	0
15.地域協議会や商店会組合等の町会・自治会を除く地域の集まり	1	0
16.NPO 団体、生涯学習団体、地域ボランティア団体	1	0
17.その他	1	0
18.情報が手に入らない	1	0

Q37.以下のそれぞれの項目について、あなたが当てはまると思う項目の番号を一つ選択してください。

参加の助長要因、阻害要因となると考えられる普段の生活様式や意識を探る。

*子育てや介護、共働きで忙しい人は防災への関心が低く、参加率が低いのではないか。

*体の調子が悪い人は防火防災訓練に参加できないのではないか。

*地域に知人友人が多く、付き合いでイベントに参加する人は、防火防災訓練参加の意識が高いのではないか。

	極めて 当ては まる	結構 当ては まる	ある程 度当て はまる	多少 当ては まる	全く 当ては まらない
1.子育てで忙しい	5	4	3	2	1
2.介護をしていて忙しい	5	4	3	2	1
3.体の調子が悪く、病気がちである	5	4	3	2	1
4.災害があっても我が家は大丈夫だと思 う	5	4	3	2	1
5.近所の付き合いでイベントに参加する ことがある	5	4	3	2	1
6.家族を守りたいという意識が強い	5	4	3	2	1
7.非常時には地域や他人のために役に立 ちたいと思う	5	4	3	2	1
8.いま住んでいる地域に知人、友人が多 い	5	4	3	2	1
9.防災への関心は高い方だと思う	5	4	3	2	1
10.災害への不安は高い方だと思う	5	4	3	2	1
11.共働きなので普段ゆっくりする時間 がない	5	4	3	2	1
12.何かあった時に家族には迷惑をかけ たくない	5	4	3	2	1
13.すぐ助けに来てくれる人が近くに住 んでいる	5	4	3	2	1
14.何かあっても自分一人ならどうにか なると思う	5	4	3	2	1
15.中学生以下の親戚の子供や孫の面倒 をよく見ることもある	5	4	3	2	1
16.地域において、災害時に親が帰宅でき ない子供を預かるといった、災害時に「助 ける、助けられる（助け合いを自然にす る）関係」にある人がいる	5	4	3	2	1
17.隣近所の家とは仲がいいと思う	5	4	3	2	1
18.近所の人と関わるのはわずらわしい	5	4	3	2	1
19.周りの人に支えられて生きています と思う	5	4	3	2	1
20.ボランティアなど社会貢献に興味 がある	5	4	3	2	1

Q38.あなたご自身のことについてお伺いします。以下それぞれの項目について、当てはまる番号を一つ選択してください。

*回答者の性格的特性が訓練参加の有無に与える影響があるのではないか。

	極めて 当ては まる	結構当 てはま る	ある程 度当て はまる	多少当 てはま る	全く当 てはま らない
1.些細なことでも、あれこれ心配するほうである	5	4	3	2	1
2.イヤなことがあっても、深刻にならないほうだ	5	4	3	2	1
3.小さなことでもいい加減には出来ない性分である	5	4	3	2	1
4.計画やスケジュールは綿密に立てるほうである	5	4	3	2	1
5.人に使われるより、人を使うほうが性にあっている	5	4	3	2	1
6.注目を集めるために、目立つ言動をとることが多い	5	4	3	2	1
7.決めたことは実行するほうだ	5	4	3	2	1
8.一度「こうだ」と思ったら、反対されても変えないことが多い	5	4	3	2	1
9.相手にあわせて愛想良く振るまうほうだ	5	4	3	2	1
10.周囲の人の態度や気持ちの動きには敏感である	5	4	3	2	1
11.自分の性格は明るいほうだと思う	5	4	3	2	1
12.初対面の人でもすぐ打ち解けるタイプである	5	4	3	2	1
13.どんな人の言うことにも耳を傾けるほうだ	5	4	3	2	1
14.自分はどちらかという和我慢強いほうだ	5	4	3	2	1
15.自分がそう思わなくても誰かが言ったことに従うほうだ	5	4	3	2	1
16.責任をとることは正直、重荷に感じる	5	4	3	2	1

第2節 単純集計結果

単純集計結果について、以下に示す。

1 防災全般に関する質問

Q1 自宅の災害対策・複数回答可

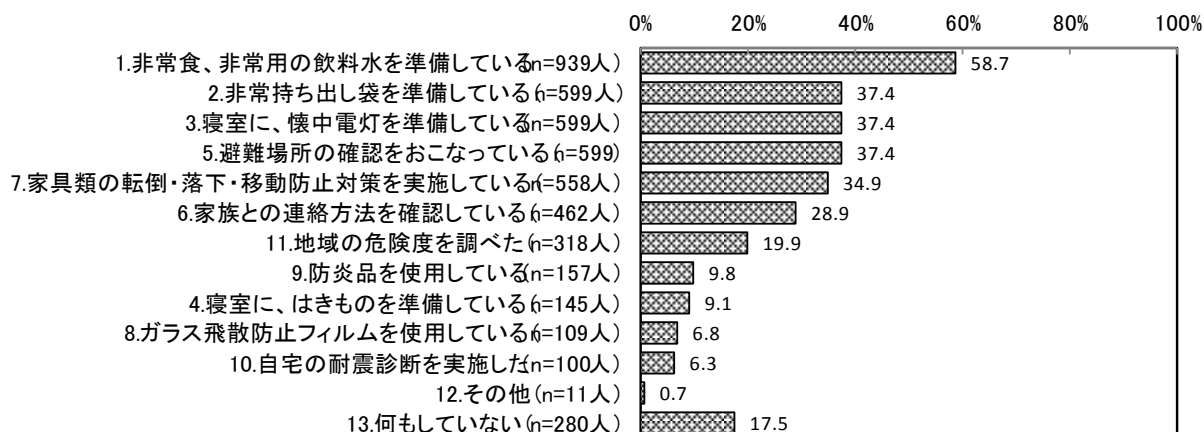


図 3-2-1 自宅で実施している災害対策

非常食、非常用飲料水を準備しているという人は 58.7% (939 人) であり、半数以上の方が飲食に関しては準備している。何も対策をしていないという人は、17.5% (280 人) おり、82.5% (1,320 人) が何かしらの災害対策を行っているという結果であった。

Q2 回答者と周囲の人の災害経験

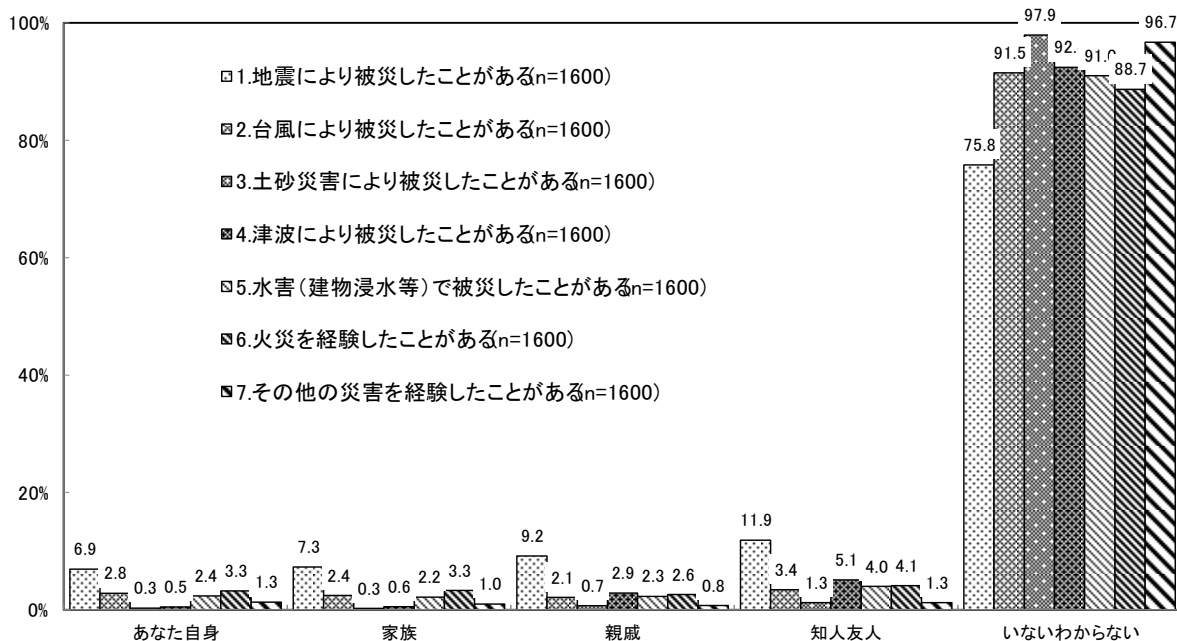


図 3-2-2 回答者及び周囲の人の経験した災害

回答者のほとんどが、自分もしくは周囲の人に被災経験者がいない若しくは

わからないという結果であり、災害に遭遇した経験が少ない結果であった。

Q3 防災用語の知識

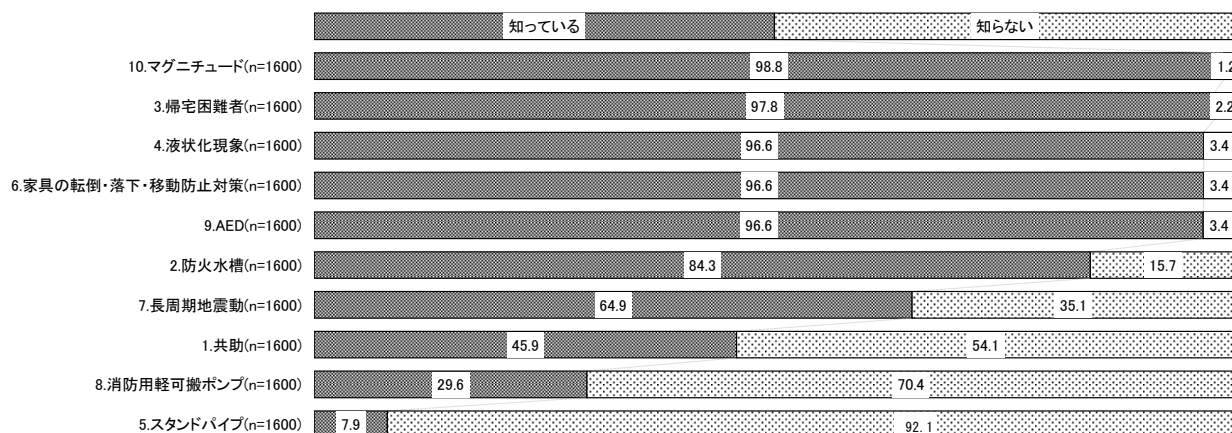


図 3-2-3 回答者の防災用語の知識の有無

防災用語については、スタンドパイプ、消防用軽可搬ポンプといった消火資器材に関して特に低い結果となった。次いで、共助、長周期地震動といった用語に関しても半数程度の人しか知らないという結果であった。

Q4 災害知識に関する能動的行動・複数選択可

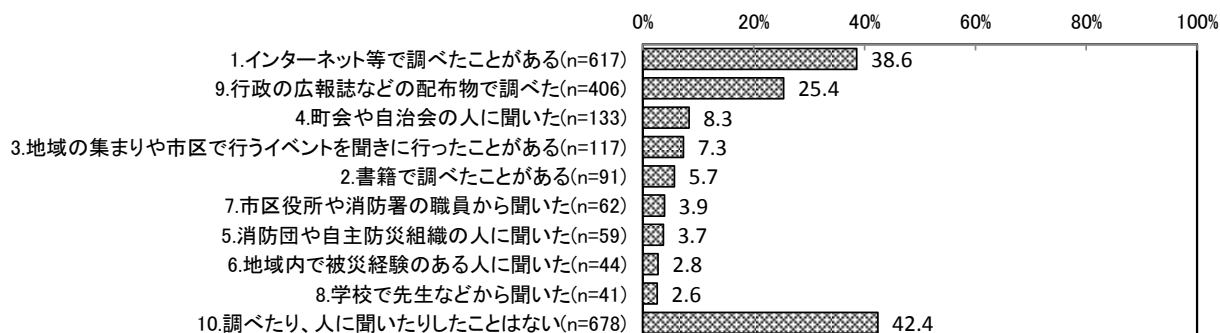


図 3-2-4 防災知識取得に関する行動

災害知識に取得に関する能動的行動に関しては、インターネットが 38.6% (617 人) であり、次いで、広報紙などの配布物で調べたという人が 25.4% (406 人) という結果であった。しかし、調べたりしたことがないという人が 42.4% (678 人) おり、半数近い人が災害知識を自ら学ぶことへの消極的であることが窺えた。

Q5 自身の周辺の危険性の認識

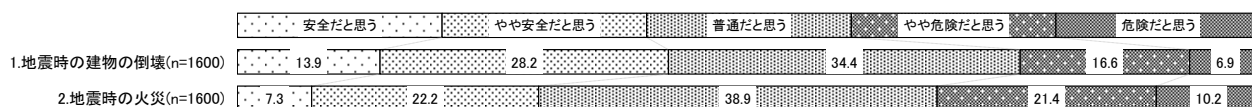


図 3-2-5 自宅周辺の危険性の認識について

回答者自身の周辺の危険性の認識については、倒壊については安全と考えている方が若干多い結果であった。火災に関しては、安全、危険どちらもほぼ同じ割合であった。

Q6 東京での被害発生リスク

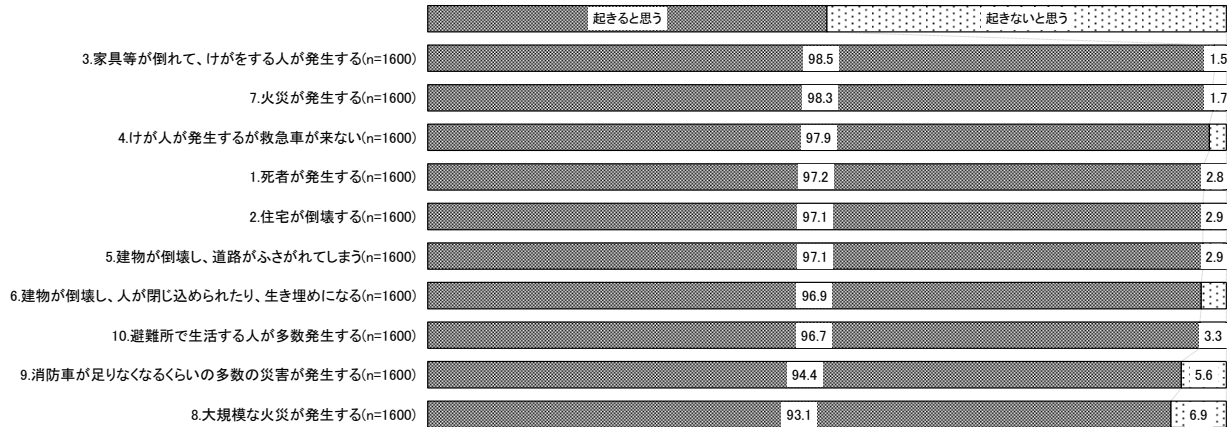


図 3-2-6 東京における被害発生リスクの認識

回答者のほとんどが、地震が発生した場合に東京のどこかでは被害が発生する可能性があるとして認識していた。

Q7 地震への不安

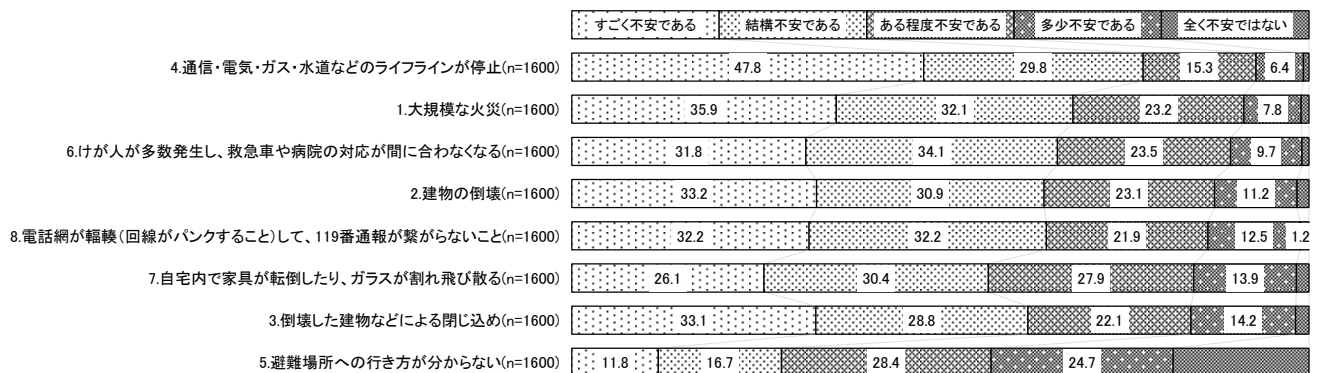


図 3-2-7 地震への不安

地震が発生した場合の不安な要素に関しては、ライフラインに関することを特に不安に感じている結果であった。一方で、避難場所への行き方が分からないということに関する不安は、他の要素と比べると高くはなかった。

Q8 地震発生リスクの認知

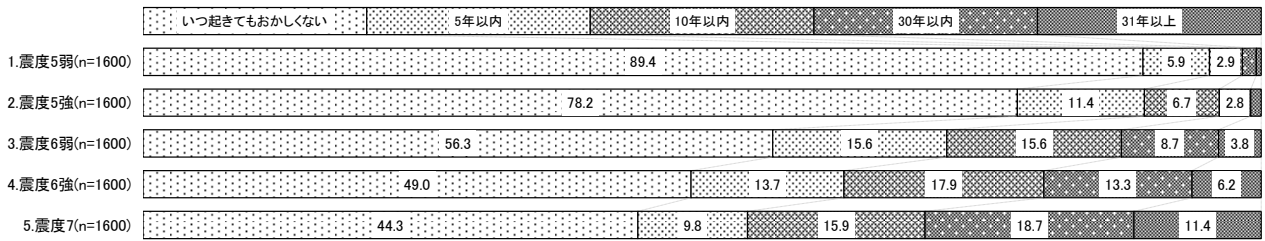


図 3-2-8 地震の強さの違いにおけるリスク認知

地震の発生リスクに関しては、地震の揺れの強さが小さいほど多くの方がいつ起きてもおかしくないと感じていた。

なお、地震の強さが大きくなるにつれて、発生するリスクは低く感じている。

Q9 被災するリスクの認知

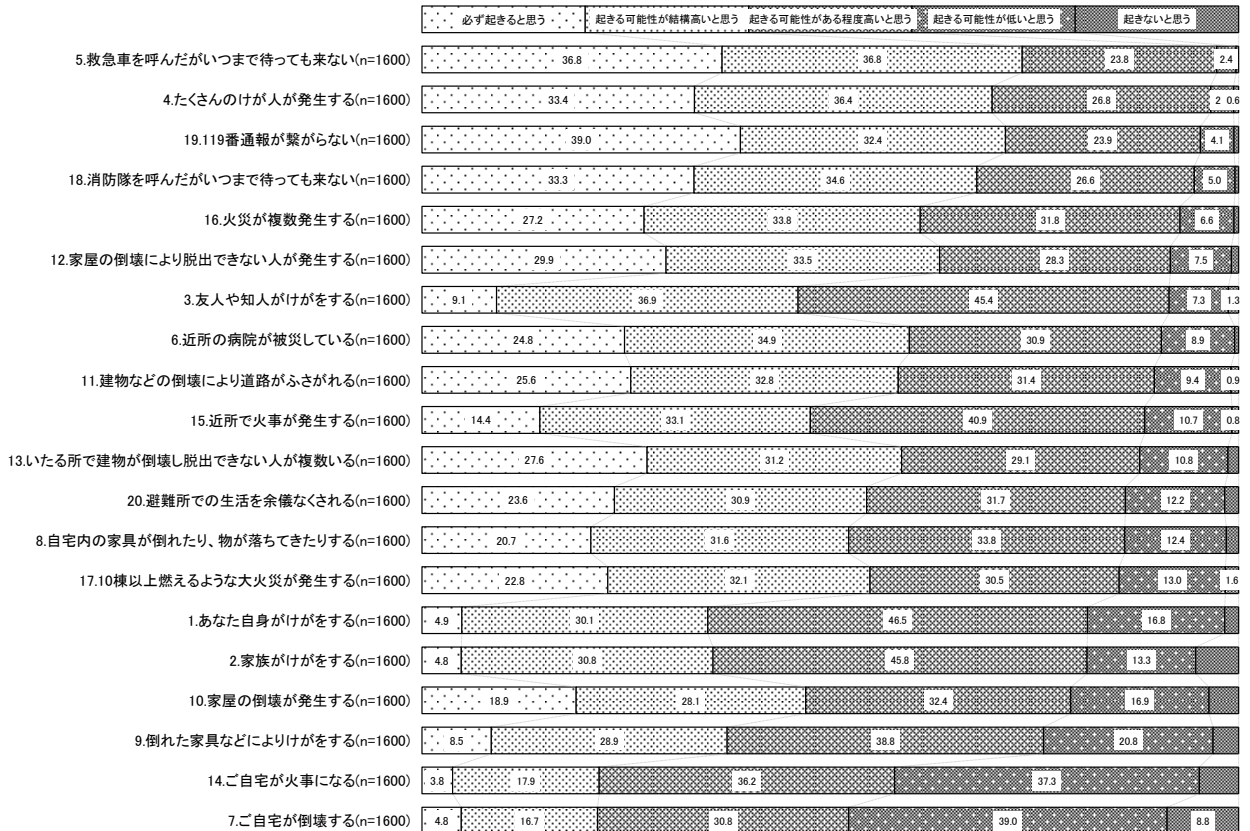


図 3-2-9 地震が起きた際に発生懸念している被害

回答者の多くが、自分自身もしくは周囲の人に直接的な被害を受けることの可能性は少ないと認識している。他の大勢の人が関わってくる要素に関しては起きる可能性が高いと認識しており、当事者感が低いことが窺える。

Q10 身に着けたい技術・知識

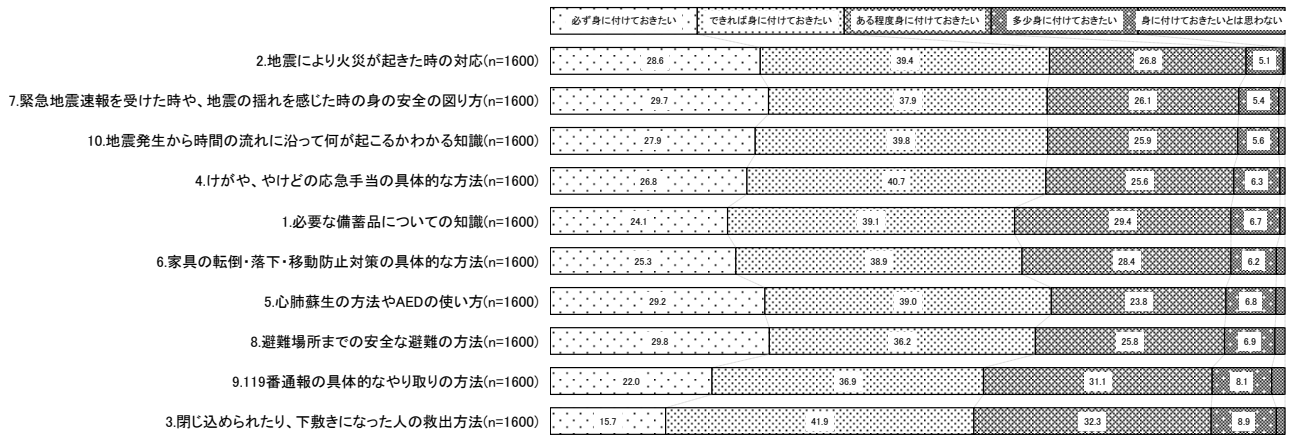


図 3-2-10 身に着けたい防災技術・知識

どの回答項目に関しても回答結果は顕著な差異はみられなかった。どの知識・技術に関しても身に付けておきたいとは思わないという回答は少なかった。

2 防火防災訓練について

Q11 防火防災訓練のイメージ

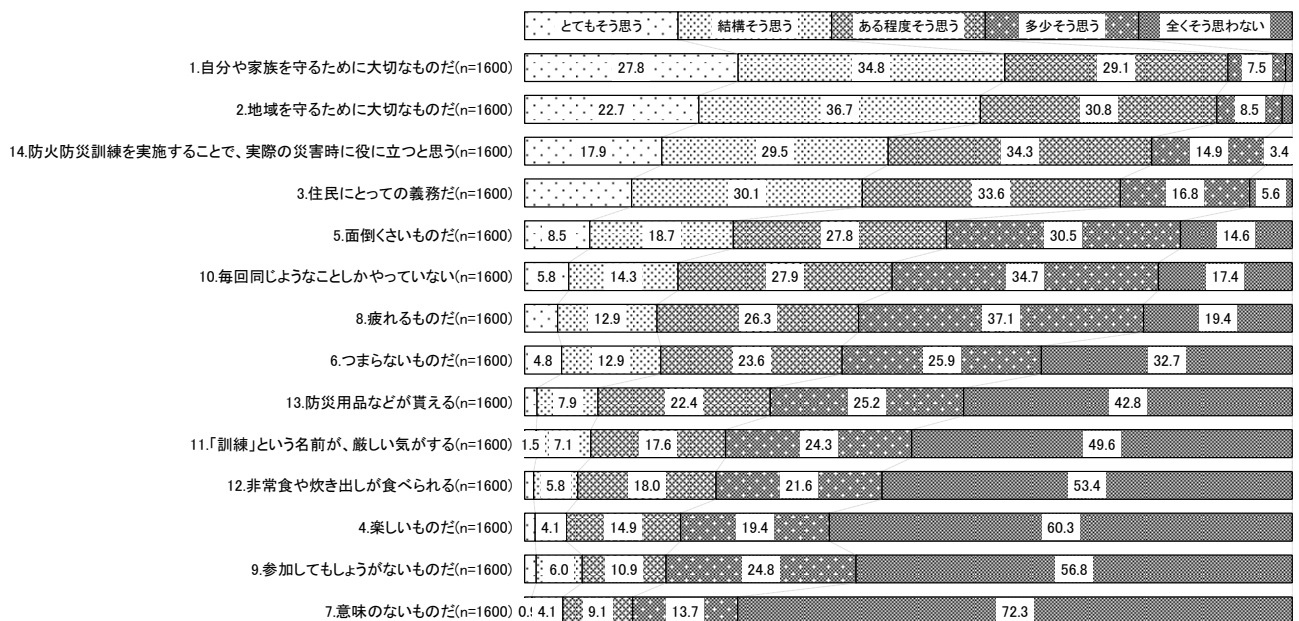


図 3-2-11 防火防災訓練のイメージ

防火防災訓練に関するイメージに関しては、意味のないもの、参加してもしょうがないといった、防火防災訓練自体を否定するような項目に対する回答者の割合は低く、防火防災訓練は必要なものであり、大切だと考えている回答者が多くいることが分かった。

Q12 対応習熟度

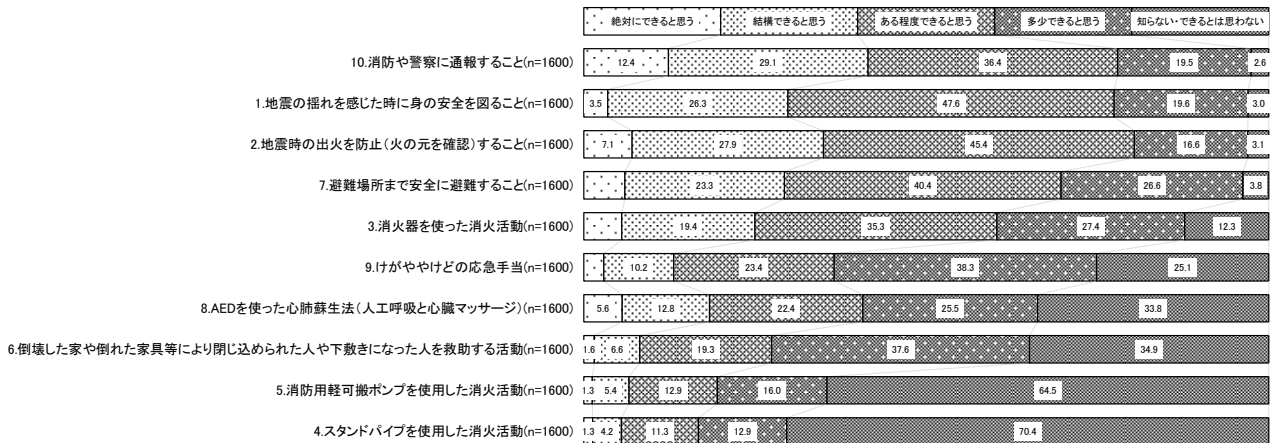


図 3-2-12 地震が起きた際の対応方法の習熟度

Q 3 防災知識に関する知識と同様に、スタンドパイプや消防用軽可搬ポンプの操作に関しては、自信がある人は少ないことが窺えた。

Q13 防火防災訓練参加の有無

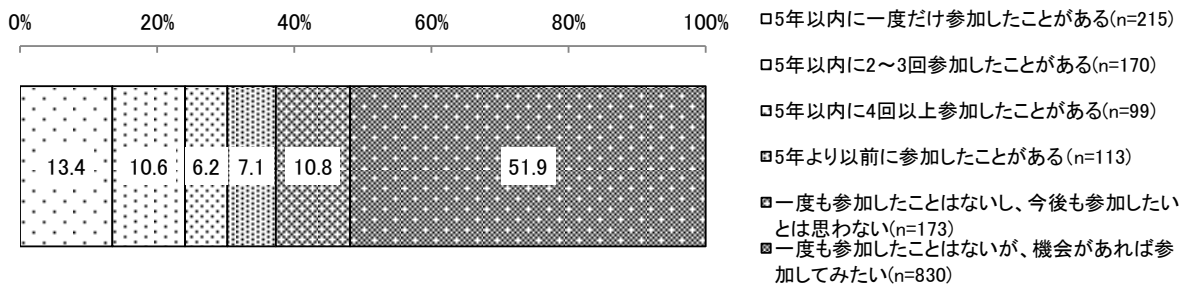


図 3-2-13 訓練参加状況

一度も参加したことはないが、機会があれば参加してみたい人 51.9% (830 人) と一度も参加したことはないし、今後も参加したいとは思わない人 10.8% (173 人) を合わせた一度も訓練に参加したことのない人が 62.7% (1,003 人) おり、半数以上が防火防災訓練の参加経験がない。しかし、参加したことがない人たちのうち 82.8% (830 人) は機会があれば参加したいと回答しており、参加したことがない人でも、多くの人は参加意欲があることが窺えた。

Q14 防火防災訓練情報の入手手段・複数回答可

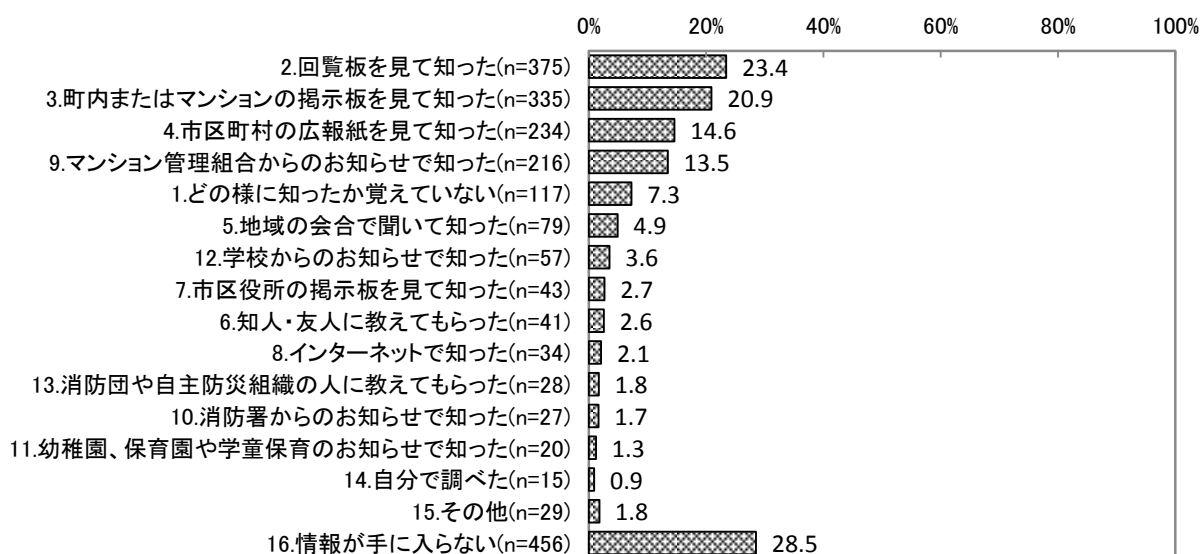


図 3-2-14 防火防災訓練情報の取得

防火防災訓練情報の入手は回覧板や掲示板、広報紙といった、コミュニティから発信されている情報で得ている場合が多いことが窺えた。しかし、自分で調べたという人が 0.9% (15 人) と少なく、防火防災訓練の情報に関しては受動的にしか伝わっていないことが窺えた。

Q15 防火防災訓練に参加した理由 (N = 597)

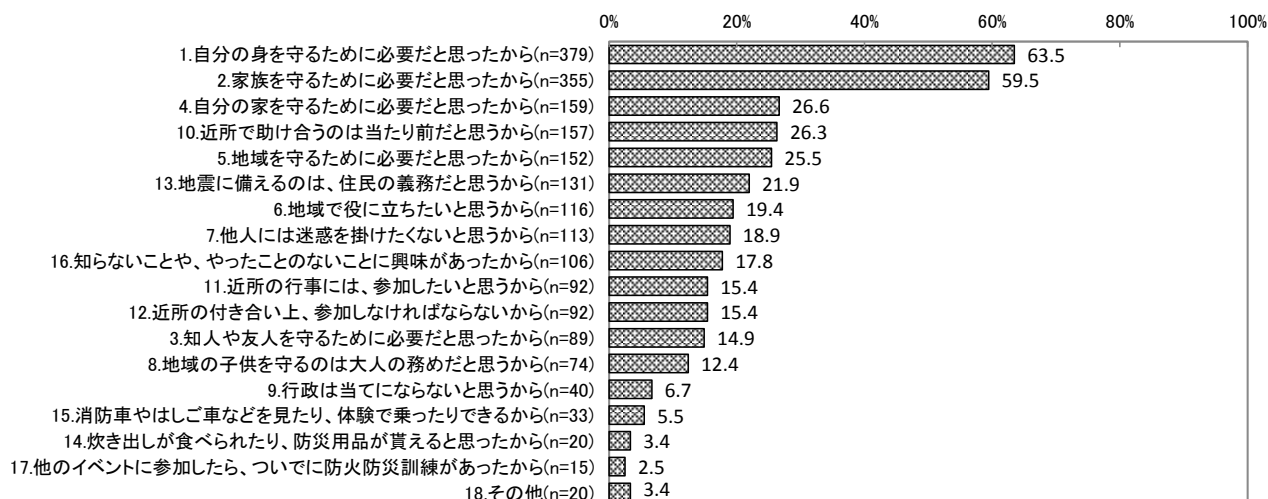


図 3-2-15 防火防災訓練参加の理由

本設問は、参加した経験がある人を対象に回答してもらった。自分や家族を守るために参加したという理由が多かった。はしご車体験や炊き出しが食べられるといったエンターテイメント性を含む回答は少なく、自分自身を守るために防火防災訓練は、大切であると感じてもらうことが参加者を増やしていくためには重要であることが示唆された。

Q16 過去に参加したことがある防火防災訓練の場所・複数選択可（N=597）

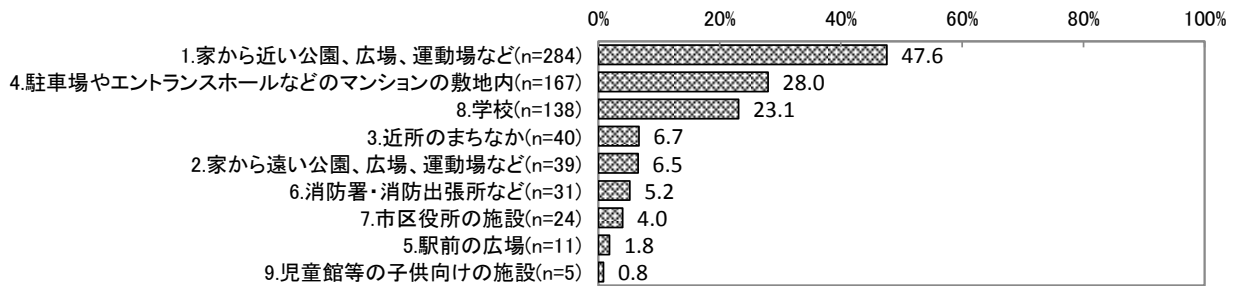


図 3-2-16 過去の防火防災訓練の参加場所

本設問も参加した経験がある人を対象に回答してもらった。防火防災訓練に参加した方達の参加場所は、家から近い公園、広場、運動場が47.6%（284人）と多く、次いで、マンションの敷地内の28.0%（167人）であった。家から遠い公園での参加は6.5%（39人）となっており、自身の身近な場所で開催される防火防災訓練の方が参加しやすい傾向があることが分かった。

Q17 防火防災訓練に参加しなかった理由（N=1,003）

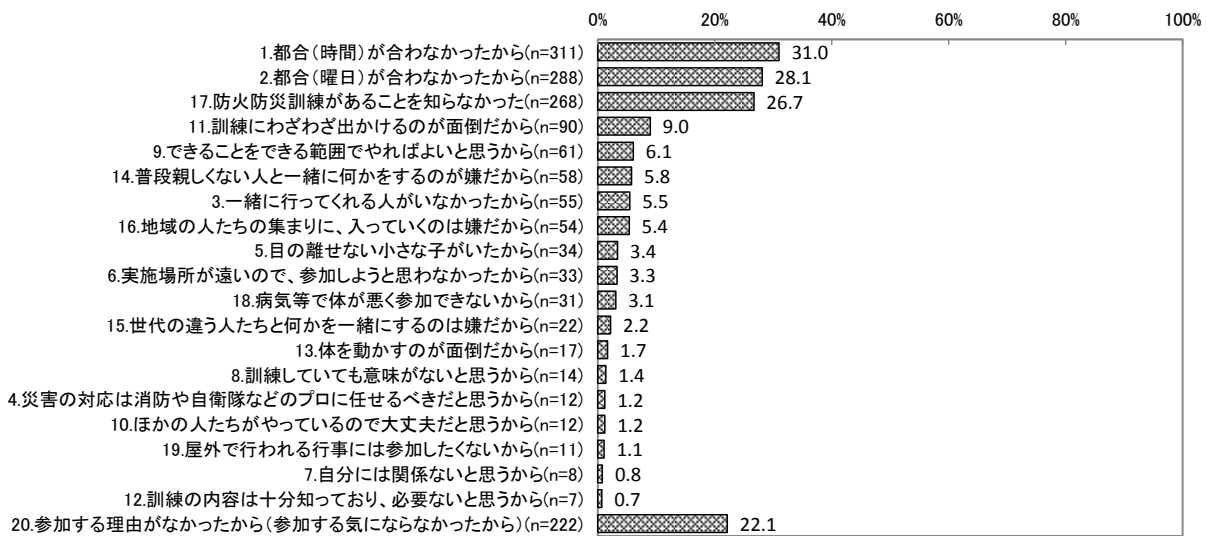


図 3-2-17 防火防災訓練未参加の理由

本設問は、防火防災訓練に参加した経験がない人を対象に回答してもらった。防火防災訓練に参加しなかった理由としては、都合が合わない（時間、曜日）という理由が多かった。しかし、防火防災訓練があることが知らなかったという回答も都合が合わないという理由と同程度の回答数である。時間帯や広報の仕方を検討すると参加者が増える可能性が示唆された。

また、参加する意義を感じていない人が22.1%（222人）おり、防火防災訓練に参加する必要性を訴求していくことが重要であると示唆された。

Q18 都合が合わなかった人の防火防災訓練に参加しなかった理由 (N=392)

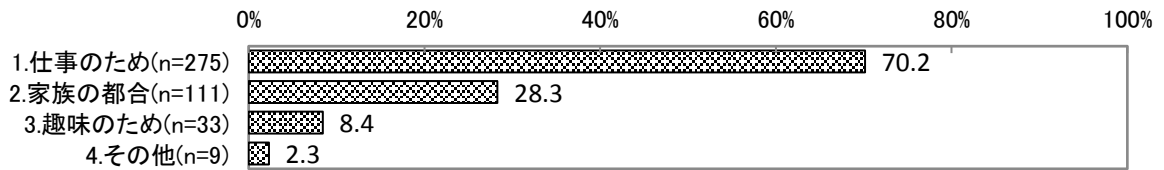


図 3-2-18 都合が合わなかった人の訓練に参加しなかった理由

本設問は、Q17の参加したことがない理由で都合が合わないと回答した人を対象に回答してもらった。都合が合わない理由で最も多いのが仕事であった。例えば、短時間で終了するといった、仕事で忙しい人のための防火防災訓練を工夫して開催することで参加する人数が増える可能性がある。

Q19 防火防災訓練参加可能時間帯・複数選択可

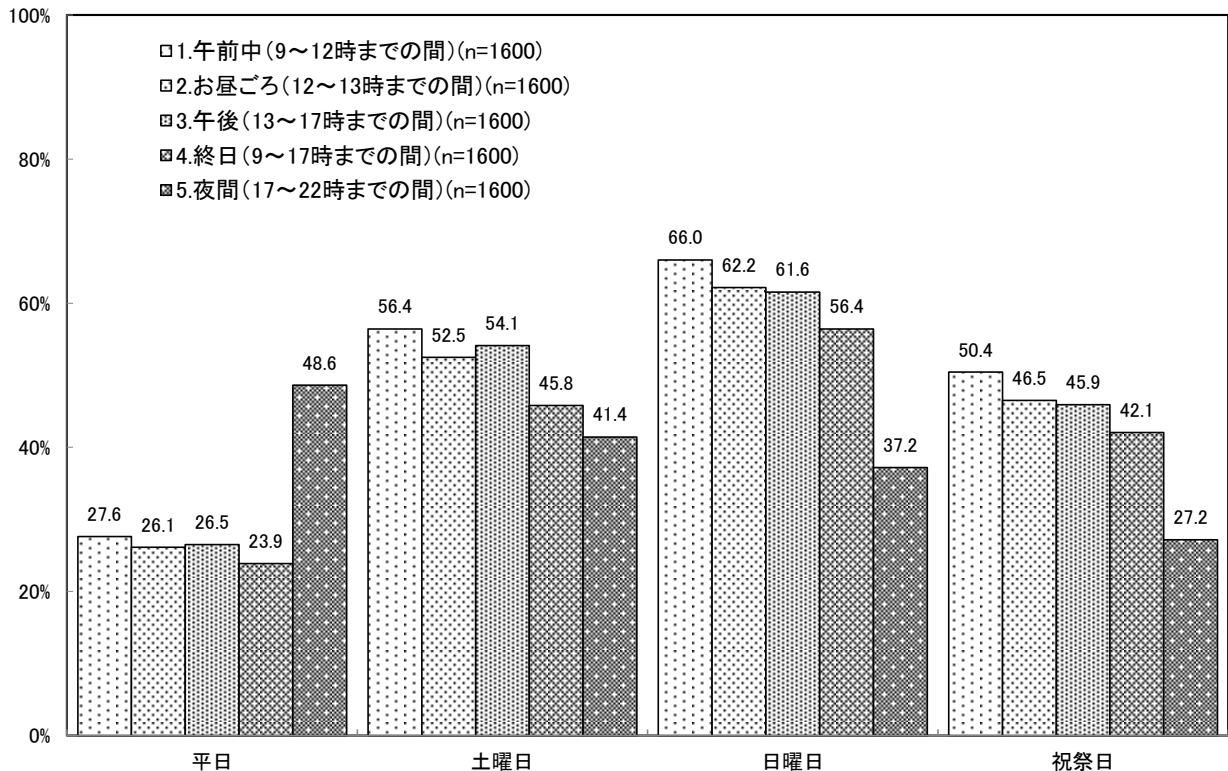


図 3-2-19 防火防災訓練参加可能時間

訓練参加可能時間に関しては、平日にあっては夜間が多く、休日に関しては日中が多いことが示された。訓練に参加するならば、平日は仕事が終わってから、休日は明るい時間帯に訓練を行いたいという傾向があると窺えた。

Q20 今後参加してみたいと思う防火防災訓練・複数選択可

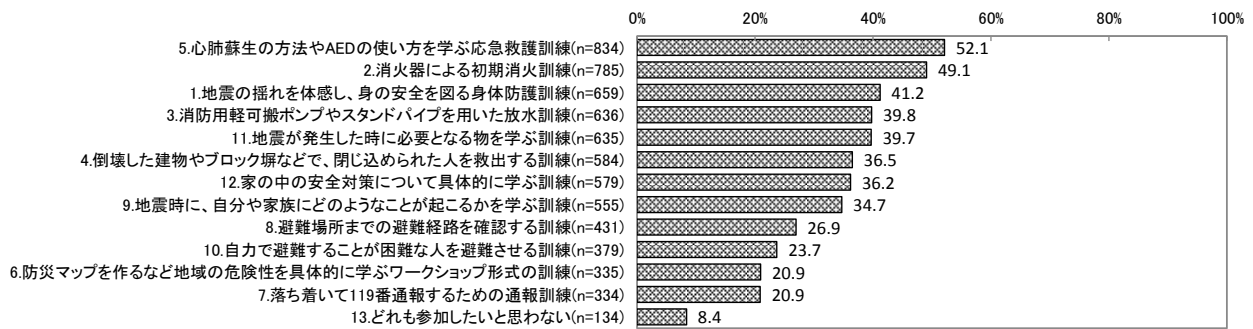


図 3-2-20 今後参加したい防火防災訓練

回答者のニーズとして、AEDの使い方や消火器等の消火器具を使った防火防災訓練が他よりも高い結果であった。全般的に資器材を活用した技術的な訓練にニーズがあることが窺えた。

Q21 参加しやすい防火防災訓練のやり方・複数選択可

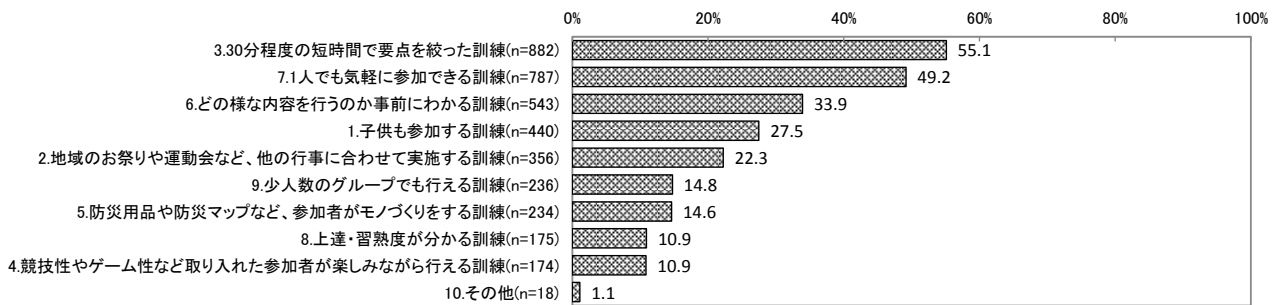


図 3-2-21 参加しやすい防火防災訓練

回答者の多くが、短時間で参加できる訓練や1人でも気軽に参加できる訓練について回答しており、気軽さが参加に対して重要な要素であることが窺える。上達、習熟度がわかる訓練や競技制やゲーム性といった訓練は訓練参加に関する要素としては低かった。

Q22 P62 に記載

Q23 地域コミュニティとの接触で防災の学ぶ機会について (N=363、Q22の回答者のうち地域コミュニティに参加していない人以外に対する設問)

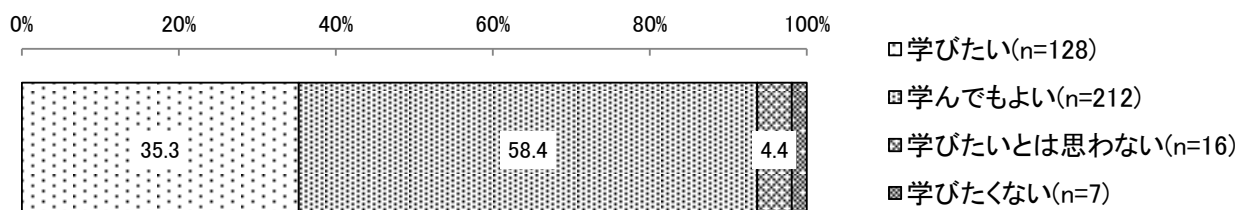


図 3-2-22 参加している地域コミュニティにおける防災学習の機会について

参加している地域コミュニティで防災を学ぶ機会があれば学びたい、学んでもよいと考えている人が 93.7% (340 人) であり、地域コミュニティに関連しての防災について学ぶ機会を持つことは肯定的なことが窺えた。

Q24 対象向けの防火防災訓練・複数選択可

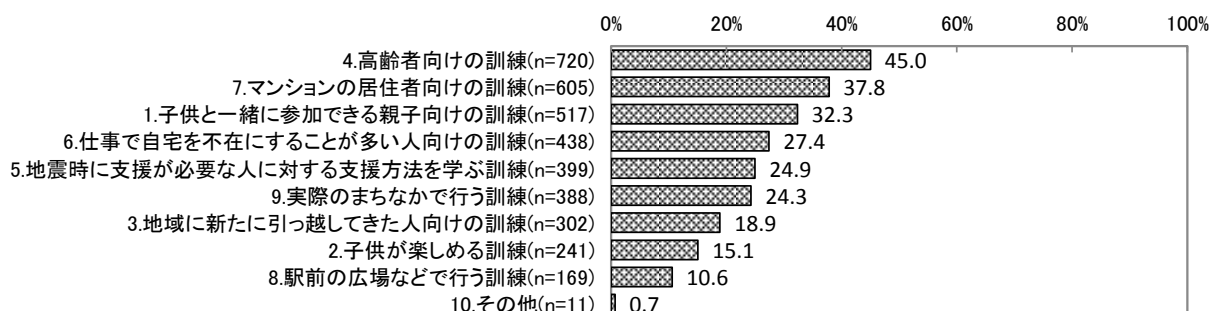


図 3-2-23 訓練回答者

必要性を感じている防火防災訓練については、高齢者向けの訓練が 45.0% (720 人)、次いで、マンションの居住者向けの訓練が 37.8% (605 人) となっており、回答者の多い順の 5 項目に関しては、生活環境に即した結果が反映されていることが窺えた。

3 個人属性に関する質問

X1 回答者の性別についての設問

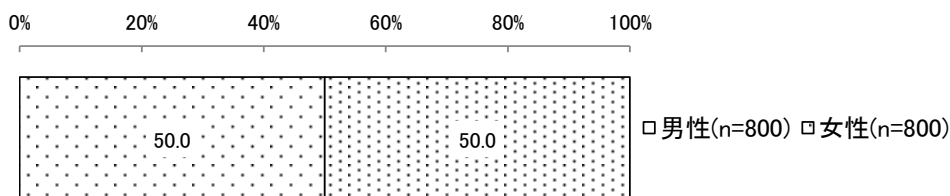


図 3-2-24 回答者の性別割合

X2 年齢構成

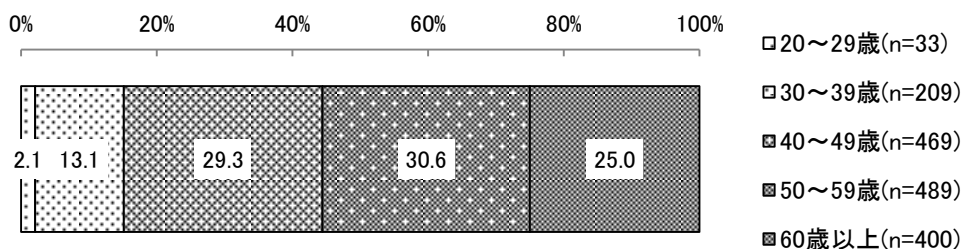


図 3-2-25 回答者の年齢構成

Q22 参加している地域コミュニティ・複数選択可

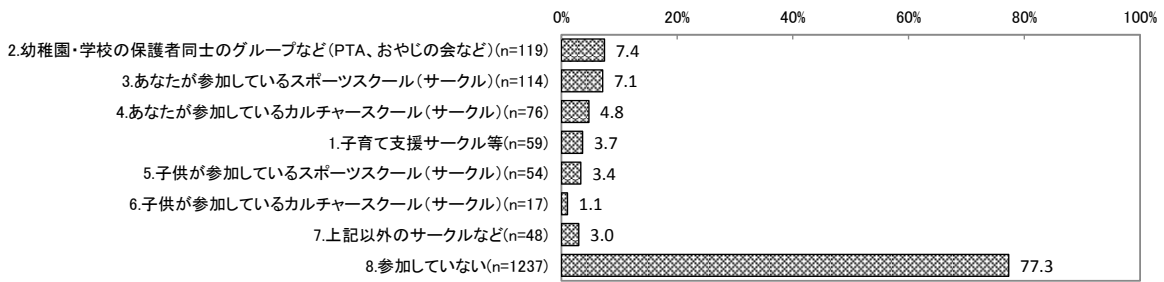


図 3-2-26 回答者が参加している地域コミュニティ

Q25 回答者の職業についての設問

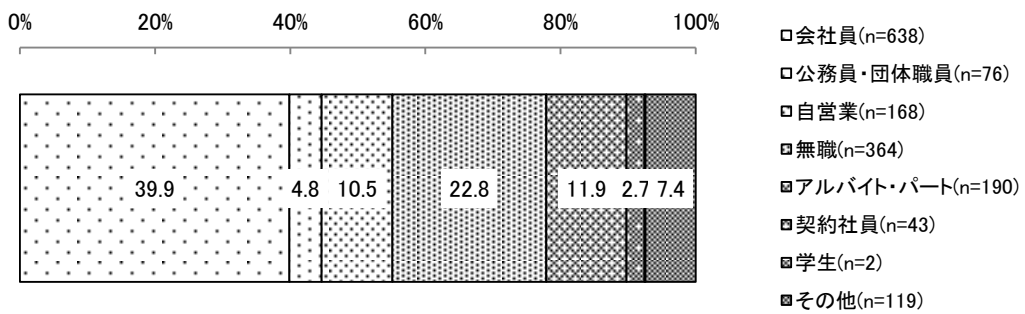


図 3-2-27 回答者の職業構成

Q26 回答者の勤務日 (N=1,115)

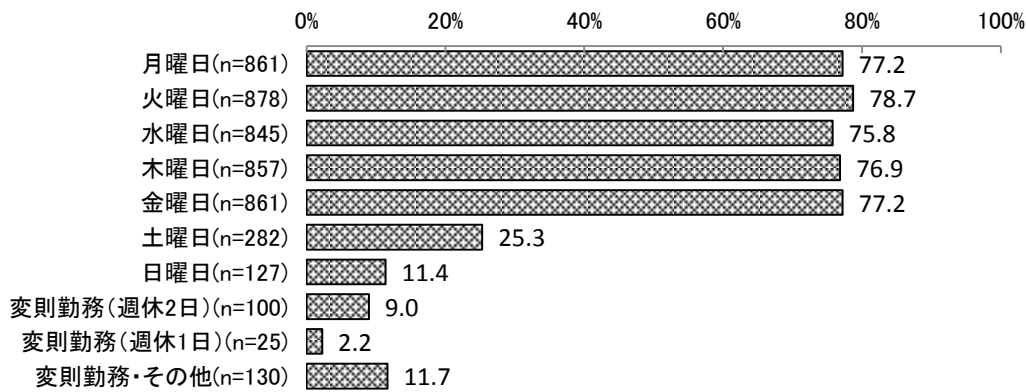


図 3-2-28 就業している回答者の勤務日

Q27 回答者の居住地についての設問・通勤時間 (N=1,115)

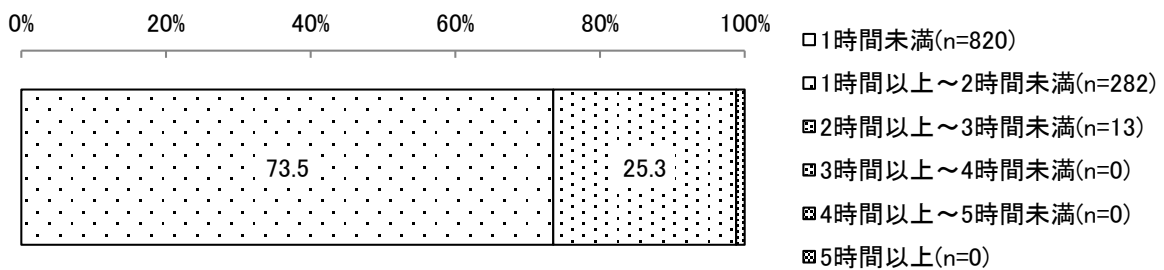


図 3-2-29 就業している回答者の勤務場所への通勤時間

Q28 一日の平均的な労働時間・記述式 (N=1,109)

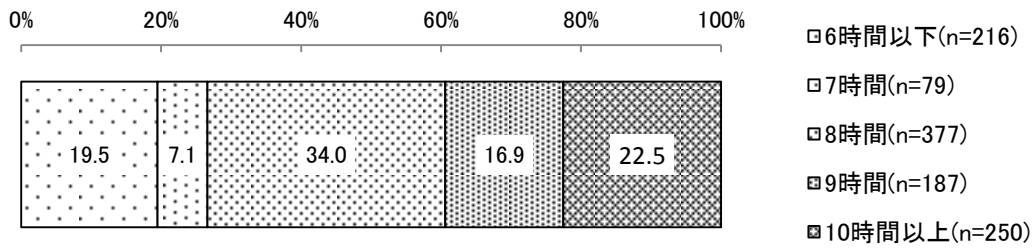


図 3-2-30 回答者の就業場所への通勤時間

Q29 平均的な帰宅時間 (N=1,115)

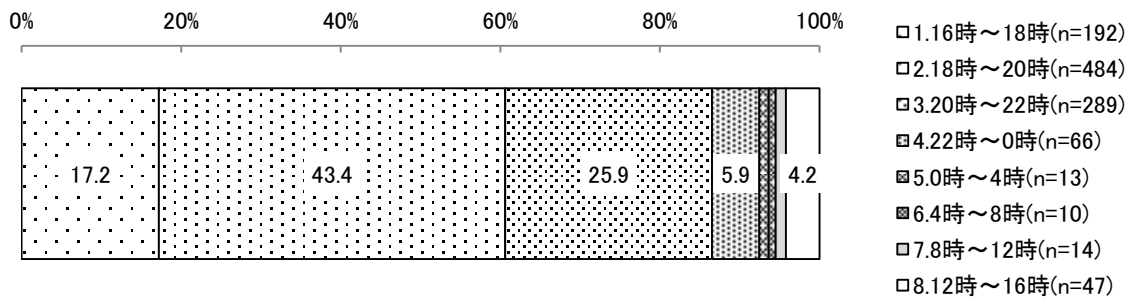


図 3-2-31 就業している回答者の帰宅時間

Q30 居住期間についての設問・記述式

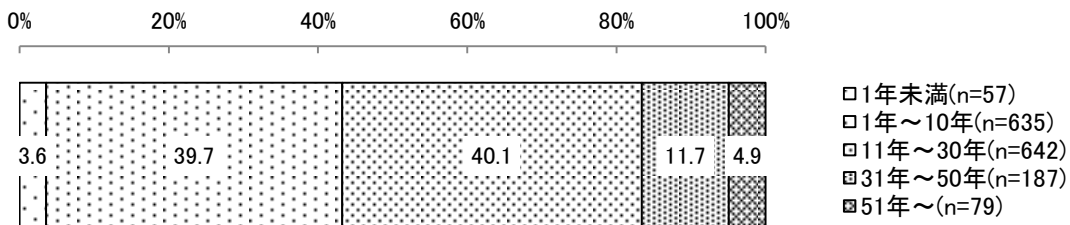


図 3-2-32 現在居住地の居住期間

SC2、SC3、SC4、Q32 世帯構成についての設問

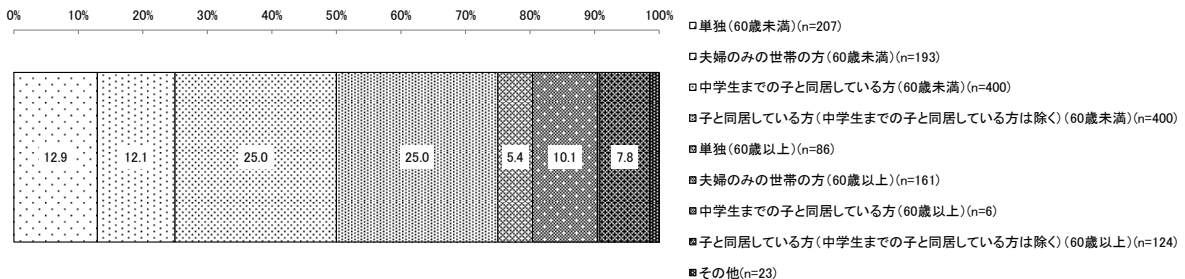


図 3-2-33 回答者の世帯構成

Q31 居住形態、住み続ける意志、守る存在の有無

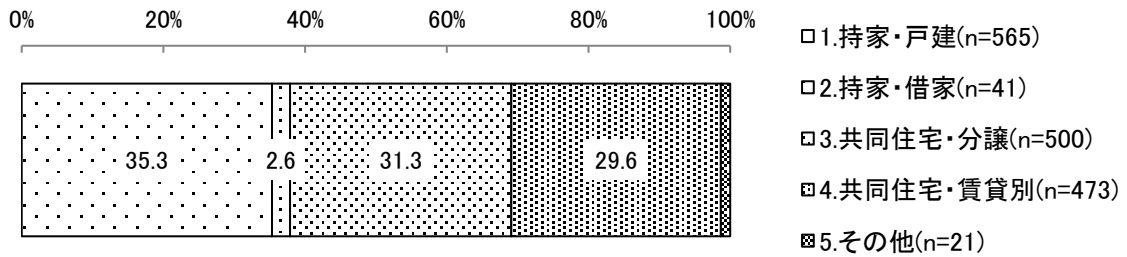


図 3-2-34 回答者の居住形態

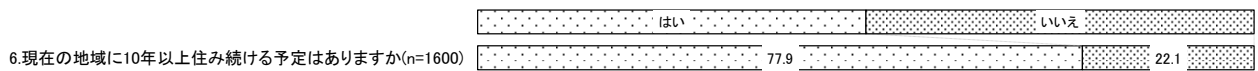


図 3-2-35 回答者の現在地域に住み続ける意志

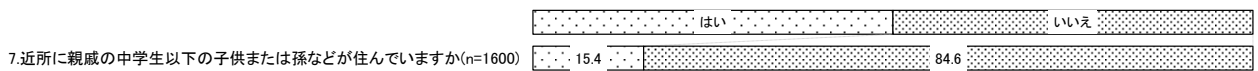


図 3-2-36 回答者の近辺に守る存在（子供または孫）の有無

Q32 共同住宅の規模（N=973）

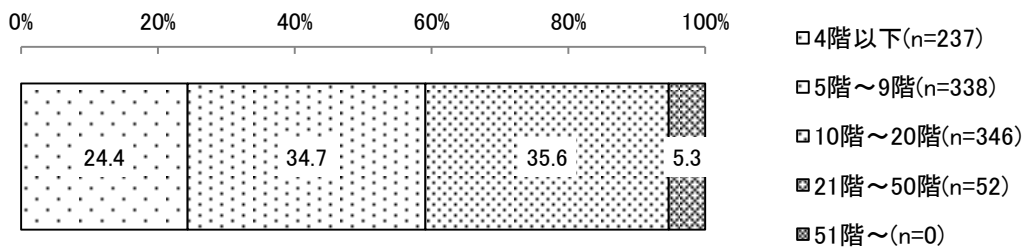


図 3-2-37 回答者の住んでいる共同住宅の階層

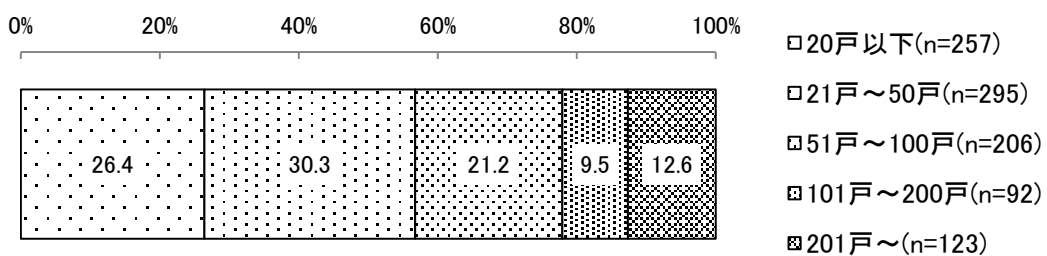


図 3-2-38 回答者の住んでいる共同住宅の総戸数

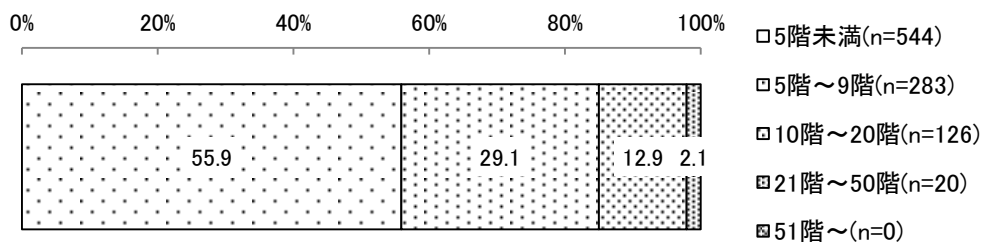


図 3-2-39 共同住宅に住んでいる回答者の居住階

Q33 要支援者の有無

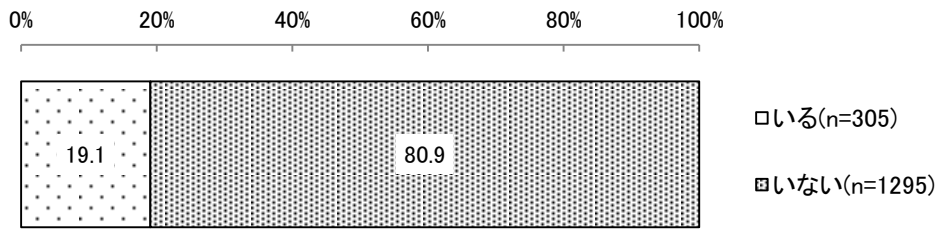


図 3-2-40 回答者の家族に要支援者の有無

Q34 町会・自治会への所属、役職の有無

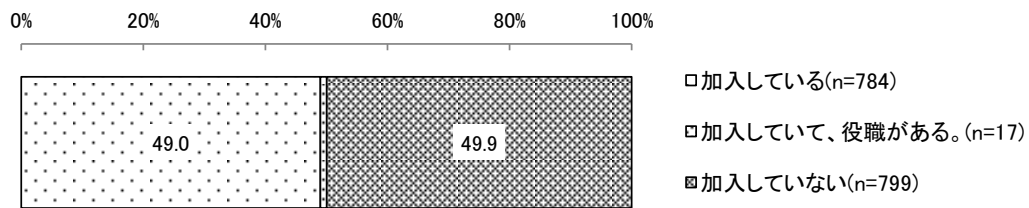


図 3-2-41 回答者の町会・自治会への加入の有無

Q35 地域のイベント情報の入手手段・複数選択可

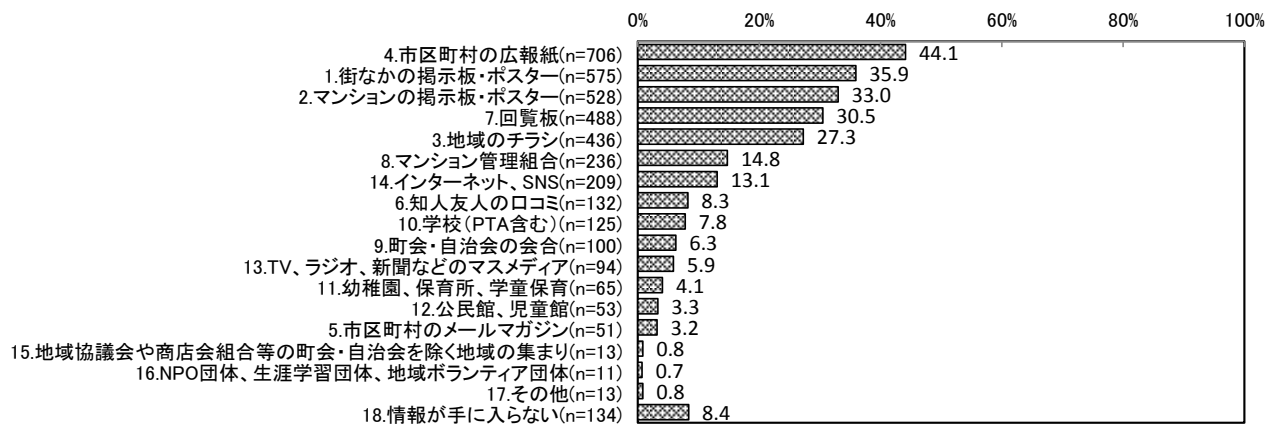


図 3-2-42 地域イベントの入手手段

Q36 時間がない理由、防災への関心・不安など

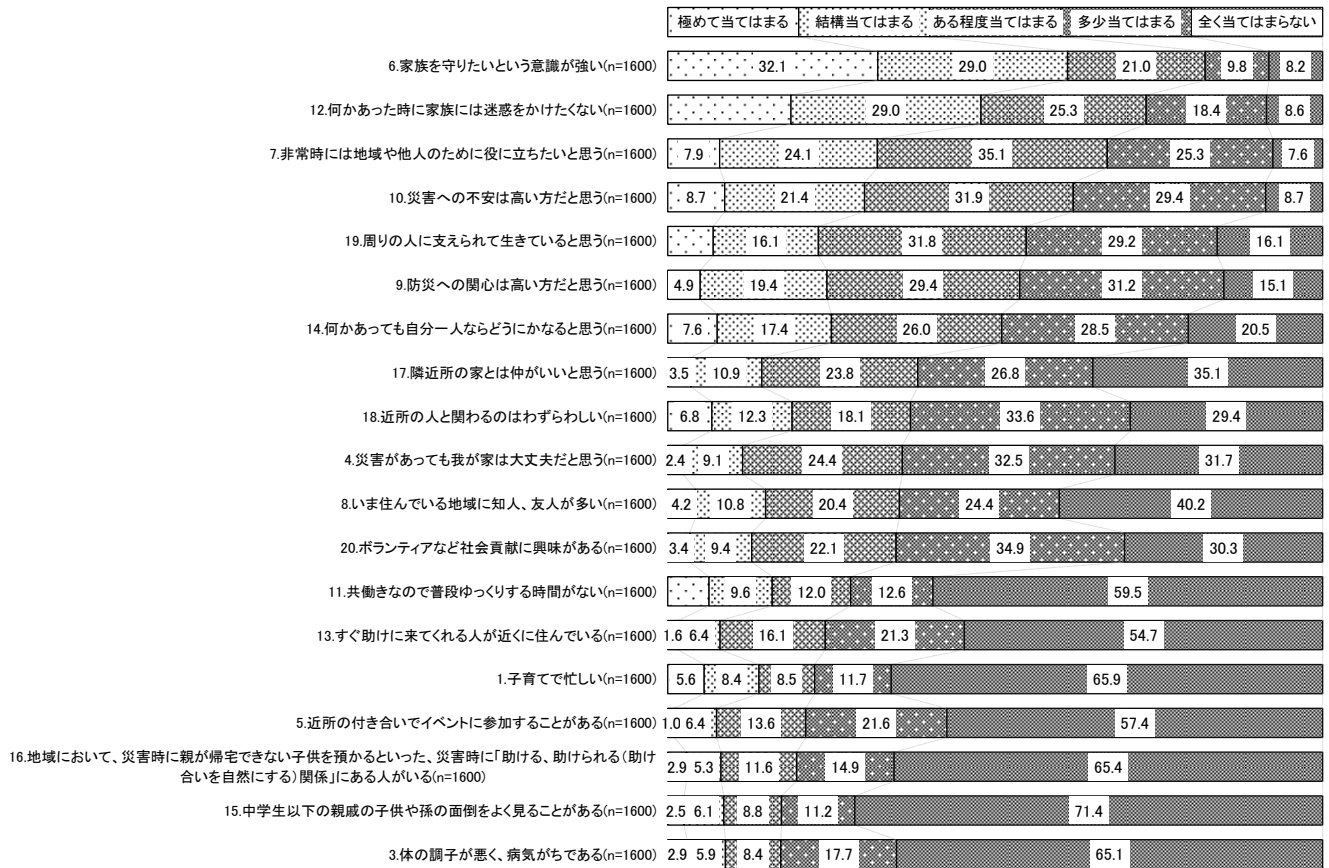


図 3-2-43 生活様式、防災への関心・不安について

Q37 回答者の基本的性格

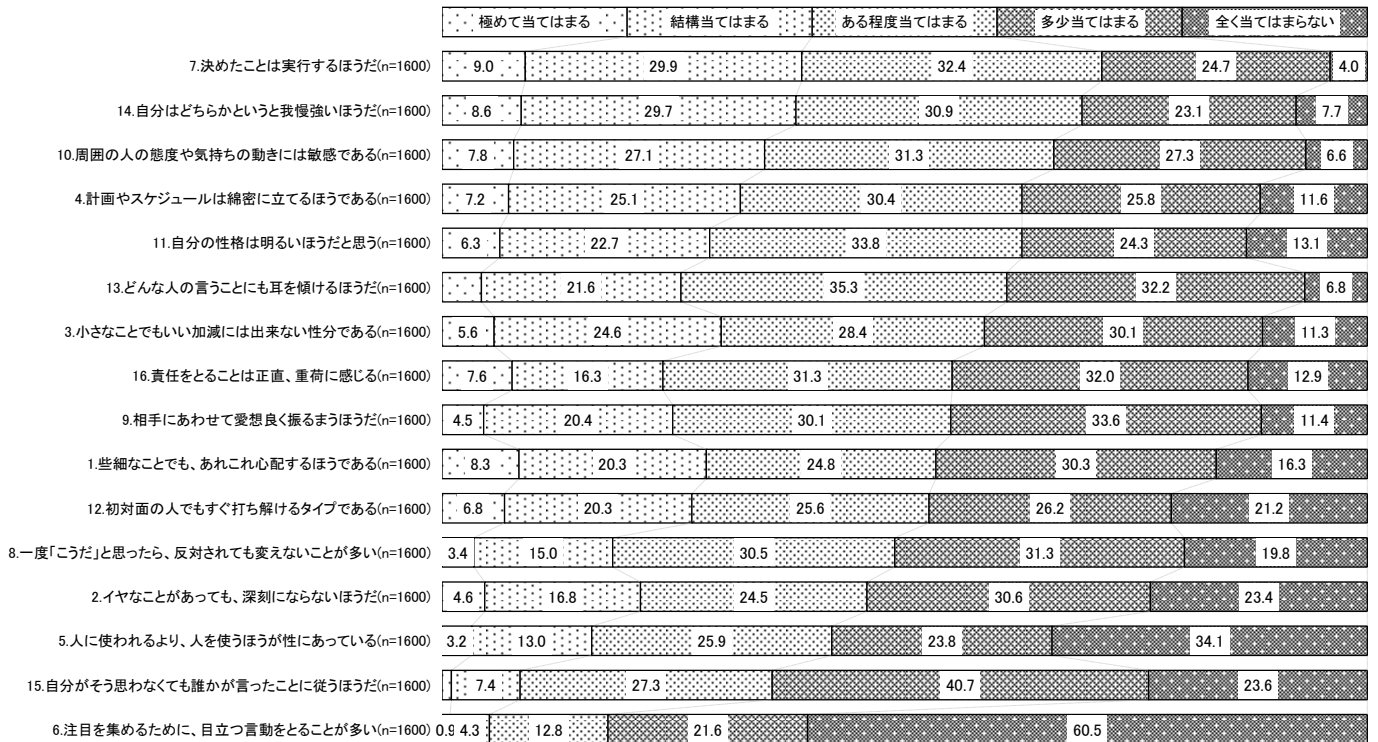


図 3-2-44 回答者の基本的性格

4 第2節のまとめ

アンケート調査の結果、防火防災訓練に一度も参加したことがない人が約 63% おり、そのうち約 83% の人に機会があれば参加したいという、防火防災訓練の参加意向があることがわかった。

未参加の理由を確認すると、都合が合わないが最も多かったが、訓練があることを知らなかったという回答もほぼ同数であった。次いで、訓練を行う意義を感じてないため訓練に参加していない人も 22.1% (222 人) と多いことが確認された。

これらの事から、一度も訓練を受けたことのない人の中には機会があれば訓練を受けてみたいという方々が多くおり、何らかの端緒がつかめると、防火防災訓練に参加してもらえる可能性が窺えた。

また、参加する意義を感じなかったと回答した方も多くいたことから、防火防災訓練に参加する必要性の訴求が重要であることが得られた。

30 分程度の短時間や一人でも参加できる防火防災訓練といったお手軽感も必要であることが把握できた。防火防災訓練で伝えるべきエッセンスを含めながらお手軽感のある防火防災訓練を構築していく必要性も見いだせた。

地震時の被害に関しては、ほとんどの人が東京のどこかで発生すると認識している一方、自分自身や自身の周囲の人に対しての被害を受ける可能性があると考えている人は半数ほどしかいないことが把握できた。

第3節 ライフステージ別集計

本節では、アンケート実施時に設定したライフステージに分けて集計を実施することにより、ライフステージごとの特徴を探ることとした。

1 クロス集計での傾向

アンケートの一部の設問をライフステージ別に各項目と防火防災訓練に参加した経験の有無でクロス集計し、傾向を把握した。ライフステージの分類は表 3-1-1 で示しているとおりでである。

さらに、カイ二乗検定を実施し、ライフステージ別に確認を行った。

なお、5%有意以上を差があると表現した。

また、Q11 のように 5 段階の順序尺度で回答している項目について、カイ二乗検定をした際の期待度数が 5 を下回るものが出てきた時には、隣の順序とまとめて、再度カイ二乗検定を実施する処理を施した（図 3-3-1 参照）。

Q11.1 訓練のイメージ「自分や家族を守るために大切」のライフステージ I での例

観測度数	参加あり	参加なし	合計		期待度数	参加あり	参加なし	合計
とても思う	59	42	101	期待度数 の確認 ↓ 右表より 期待度数が 5未満なので 統合する	とても思う	43.2	57.8	98
結構	55	78	133		結構	56.9	76.1	134
ある程度	48	88	136		ある程度	58.1	77.9	124
多少	8	21	29		多少	12.4	16.6	36
思わない	1	0	1		思わない	0.4	0.6	8
合計	101	299	400		合計	101	299	400

観測度数	参加あり	参加なし	合計		期待度数	参加あり	参加なし	合計
とても思う	59	42	101	統合	とても思う	25.5	75.5	101
結構	55	78	133		結構	33.6	99.4	133
ある程度	48	88	136		ある程度	34.3	101.7	136
多少/思わない	9	21	30		多少/思わない	7.6	22.4	30
合計	101	299	400		合計	101	299	400

図 3-3-1 5 段階順序尺度設問の処理の例

(1) Q1 自宅で実施している災害対策と訓練参加経験

表 3-3-1 では「Q1 自宅で実施している災害対策」についてカイ二乗検定での P 値と有意性の有無、グラフの傾向を一覧として示した。

アンケート結果としては、ライフステージⅢの「寝室に履物を用意している」以外の項目において、対策を実施している方が実施していない方よりも防火防災訓練に参加したことがある割合が高いことが確認された。

結果、「災害に備えてモノを準備すること」や「地域の危険度や避難場所を調べる」ということを実施している人は、未実施の人に比べ、防火防災訓練に参加した経験がある割合が高いと捉えることができた（表 3-3-1、図 3-3-2 参照）。

つまり、事前の準備をしている人ほど、防火防災訓練に参加していると言える。

表 3-3-1 自宅で実施している災害対策と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q1-1	1.非常食、非常用の飲料水を準備している	.021*	*	↗	.000**	**	↗	.065		↗	.050*	*	↗
Q1-2	2.非常持ち出し袋を準備している	.001**	**	↗	.000**	**	↗	.003**	**	↗	.003**	**	↗
Q1-3	3.寝室に、懐中電灯を準備している	.142		↗	.353		↗	.006**	**	↗	.153		↗
Q1-4	4.寝室に、はきものを準備している	.080		↗	.021*	*	↗	.421		↘	.316		↗
Q1-5	5.避難場所の確認をおこなっている	.000**	**	↗	.002**	**	↗	.197		↗	.000**	**	↗
Q1-6	6.家族との連絡方法を確認している	.241		↗	.036*	*	↗	.005**	**	↗	.000**	**	↗
Q1-7	7.家具類の転倒・落下・移動防止対策を実施し	.054		↗	.002**	**	↗	.156		↗	.250		↗
Q1-8	8.ガラス飛散防止フィルムを使用している	.173		↗	.003**	**	↗	.404		↗	.743		↗
Q1-9	9.防災品を使用している	.503		↗	.003**	**	↗	.482		↗	.064		↗
Q1-10	10.自宅の耐震診断を実施した	.055		↗	.000**	**	↗	.179		↗	.279		↗
Q1-11	11.地域の危険度を調べた	.005**	**	↗	.424		↗	.000**	**	↗	.000**	**	↗
Q1-13	13.何もしていない	.036*	*	↘	.001**	**	↘	.020*	*	↘	.001**	**	↘

※ *は 5% 有意、**は 1% 有意を表す。P 値と有意性の斜体は期待度数が 5 未満を示している。
以降、本章では同意で用いる。
全てのライフステージで期待度数が 5 未満であるものが発生している場合は表から省いた
↗ : 該当するほど訓練参加割合が高い
↘ : 該当するほど訓練参加割合が低い
↑ : 全て同じ程度の訓練参加割合
以後の表においても同じ。

Q1-13 何も対策していない

ライフステージⅠ	参加あり	参加なし	合計
当てはまる	16	78	94
	17.0%	83.0%	100.0%
当てはまらない	85	221	306
	27.8%	72.2%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%

ライフステージⅡ	参加あり	参加なし	合計
当てはまる	13	53	66
	19.7%	80.3%	100.0%
当てはまらない	140	194	334
	41.9%	58.1%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%

ライフステージⅢ	参加あり	参加なし	合計
当てはまる	15	38	53
	28.3%	71.7%	100.0%
当てはまらない	157	190	347
	45.2%	54.8%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%

ライフステージⅣ	参加あり	参加なし	合計
当てはまる	16	51	67
	23.9%	76.1%	100.0%
当てはまらない	155	178	333
	46.5%	53.5%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

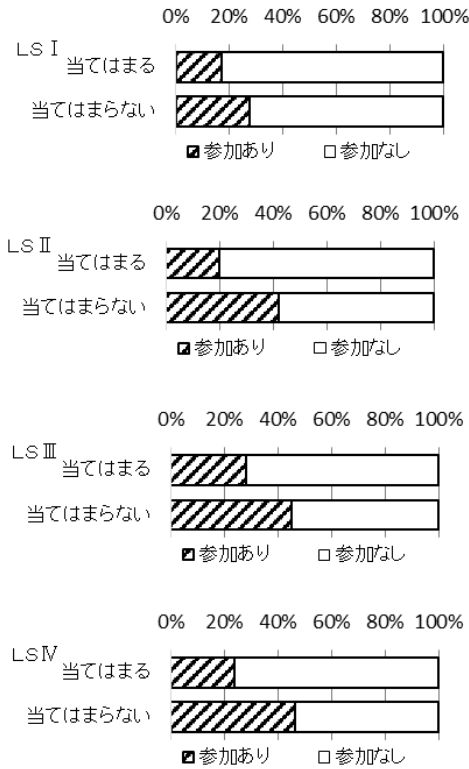


図 3-3-2 何も対策をしていないと訓練参加経験

(2) Q2 被災経験の有無と訓練参加経験

(1)と同様に一覧表を表 3-3-2 に示す。

表 3-3-2 自分や知り合いで被災経験の有無と参加経験一覧

		ライフステージⅠ	ライフステージⅡ	ライフステージⅢ	ライフステージⅣ
Q2.2-5	2.台風により被災した人がいない	.025 *	.003 **	.005 **	.020 *
Q2.3-5	3.土砂災害により被災した人がいない	.184	.009 **	.410	.768
Q2.4-5	4.津波により被災した人がいない	.457	.071	.051	.954
Q2.5-5	5.水害(建物浸水等)で被災した人がいない	.002 **	.005 **	.389	.020 *
Q2.6-5	6.火災を経験した人がいない	.004 **	.001 **	.308	.701
Q2.7-5	7.その他の災害を経験した人がいない	.390	.006 **	.065	.043

自分自身や家族、親戚、知人友人に各種災害で被災した人がいない場合、参加経験が低い傾向がみられた。特に、ライフステージⅡにおいては、多く差があった。一方、ライフステージⅣでは、他のライフステージと比較して、土砂災害や津波、火災については経験と防火防災訓練参加経験に差がなかった。

また、全てのライフステージにおいて、自身も含め周りで台風の被害を受けた人がいない場合、参加経験の割合が低いという差があった(図 3-3-3 参照)。

Q2-2.5 台風により被災した人がいない

ライフステージⅠ	参加あり	参加なし	合計
被災した人なし	87	279	366
	23.8%	76.2%	100.0%
被災した人あり	14	20	34
	41.2%	58.8%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%

ライフステージⅡ	参加あり	参加なし	合計
被災した人なし	133	235	368
	36.1%	63.9%	100.0%
被災した人あり	20	12	32
	62.5%	37.5%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%

ライフステージⅢ	参加あり	参加なし	合計
被災した人なし	154	220	374
	41.2%	58.8%	100.0%
被災した人あり	18	8	26
	69.2%	30.8%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%

ライフステージⅣ	参加あり	参加なし	合計
被災した人なし	145	211	356
	40.7%	59.3%	100.0%
被災した人あり	26	18	44
	59.1%	40.9%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

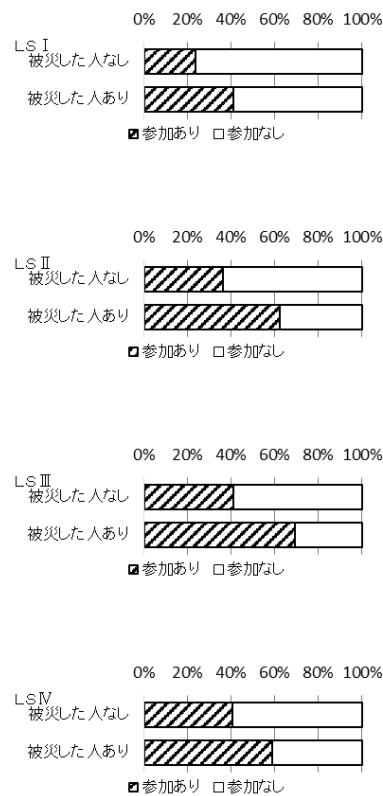


図 3-3-3 台風により被災した経験と参加経験

(3) Q4 過去の災害について調べた経験と訓練参加経験

一覧表を表 3-3-3 に示す。

表 3-3-3 居住地の過去の災害の検索や伝聞と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q4-1	1.インターネット等で調べたことがある	.006	**	↗	.003	**	↗	.004	**	↗	.168		↗
Q4-2	2.書籍で調べたことがある	.002	**	↗	.001	**	↗	.002	**	↗	.372		↗
Q4-3	3.地域の集まりや市区で行うイベントを聞きに行ったことがある	.000	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗
Q4-4	4.町会や自治会の人に聞いた	.000	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗
Q4-5	5.消防団や自主防災組織の人に聞いた	.003	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗	.000	**	↗
Q4-6	6.地域内で被災経験のある人に聞いた	.104		↗	.002	**	↗	.994		↓	.169		↗
Q4-7	7.市区役所や消防署の職員から聞いた	.104		↗	.000	**	↗	.065		↗	.001	**	↗
Q4-8	8.学校で先生などから聞いた	.277		↗	.067		↗	.260		↗	.101		↗
Q4-9	9.行政の広報誌などの配布物で調べた	.457		↗	.058		↗	.015	*	↗	.036	*	↗
Q4-10	10.調べたり、人に聞いたりしたことはない	.000	**	↘	.000	**	↘	.000	**	↘	.000	**	↘

全てのライフステージにおいて、居住している市区町村の過去の災害を調べたことがある、人から聞いたことがあるという方が、参加経験の割合が高いことが確認された。

(4) Q5 自宅周辺地域における地震時の建物の倒壊と火災の危険性の感じ方と訓練参加経験

一覧表を表 3-3-4 に示す。

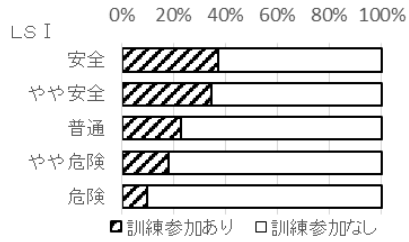
表 3-3-4 自宅周辺地域における地震時の建物の倒壊と火災の危険性の感じ方と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q5.1	1.地震時の建物の倒壊	.007	**	↗	.769		↓	.110		↗	.007	**	↗
Q5.2	2.地震時の火災	.009	**	↗	.020	*	↗	.237		↗	.005	**	↗

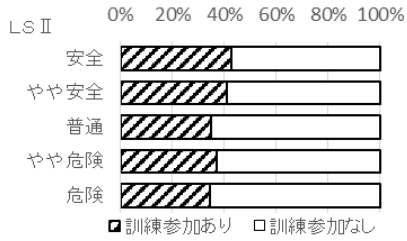
どのライフステージでも、自宅周辺地域における地震時の建物倒壊の危険性と火災の危険性が高いと認知しているほど、訓練参加経験が低いという差があったが、ライフステージⅡでは、建物倒壊の危険性の感じ方と訓練参加経験にはほぼ差がなかった（図 3-3-4、3-3-5 参照）。

Q5-1 自宅周辺地域における地震時の建物倒壊の危険性の感じ方

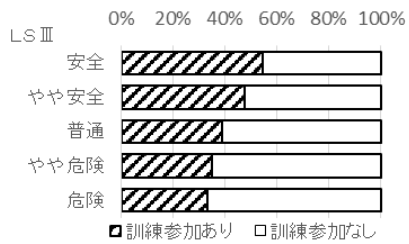
ライフステージⅠ	参加あり	参加なし	合計
安全	17	29	46
	37.0%	63.0%	100.0%
やや安全	33	63	96
	34.4%	65.6%	100.0%
普通	35	120	155
	22.6%	77.4%	100.0%
やや危険	13	59	72
	18.1%	81.9%	100.0%
危険	3	28	31
	9.7%	90.3%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%



ライフステージⅡ	参加あり	参加なし	合計
安全	29	39	68
	42.6%	57.4%	100.0%
やや安全	48	69	117
	41.0%	59.0%	100.0%
普通	42	79	121
	34.7%	65.3%	100.0%
やや危険	23	39	62
	37.1%	62.9%	100.0%
危険	11	21	32
	34.4%	65.6%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%



ライフステージⅢ	参加あり	参加なし	合計
安全	29	24	53
	54.7%	45.3%	100.0%
やや安全	63	69	132
	47.7%	52.3%	100.0%
普通	51	80	131
	38.9%	61.1%	100.0%
やや危険	20	37	57
	35.1%	64.9%	100.0%
危険	9	18	27
	33.3%	66.7%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%



ライフステージⅣ	参加あり	参加なし	合計
安全	28	28	56
	50.0%	50.0%	100.0%
やや安全	57	49	106
	53.8%	46.2%	100.0%
普通	57	86	143
	39.9%	60.1%	100.0%
やや危険	25	49	74
	33.8%	66.2%	100.0%
危険	4	17	21
	19.0%	81.0%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

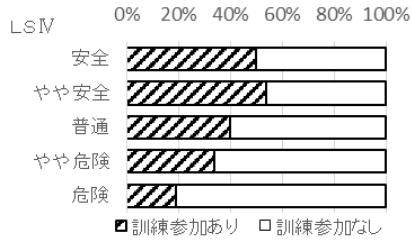


図 3-3-4 自宅周辺地域の地震時の建物倒壊危険性の感じ方と訓練参加経験

Q5-2 自宅周辺地域における火災の危険性の感じ方

ライフステージI	参加あり	参加なし	合計
安全	8	15	23
	34.8%	65.2%	100.0%
やや安全	31	49	80
	38.8%	61.3%	100.0%
普通	33	120	153
	21.6%	78.4%	100.0%
やや危険	23	76	99
	23.2%	76.8%	100.0%
危険	6	39	45
	13.3%	86.7%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%

ライフステージII	参加あり	参加なし	合計
安全	15	21	36
	41.7%	58.3%	100.0%
やや安全	45	39	84
	53.6%	46.4%	100.0%
普通	53	109	162
	32.7%	67.3%	100.0%
やや危険	28	52	80
	35.0%	65.0%	100.0%
危険	12	26	38
	31.6%	68.4%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%

ライフステージIII	参加あり	参加なし	合計
安全	16	12	28
	57.1%	42.9%	100.0%
やや安全	43	57	100
	43.0%	57.0%	100.0%
普通	70	84	154
	45.5%	54.5%	100.0%
やや危険	30	46	76
	39.5%	60.5%	100.0%
危険	13	29	42
	31.0%	69.0%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%

ライフステージIV	参加あり	参加なし	合計
安全	14	15	29
	48.3%	51.7%	100.0%
やや安全	52	39	91
	57.1%	42.9%	100.0%
普通	65	89	154
	42.2%	57.8%	100.0%
やや危険	30	58	88
	34.1%	65.9%	100.0%
危険	10	28	38
	26.3%	73.7%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

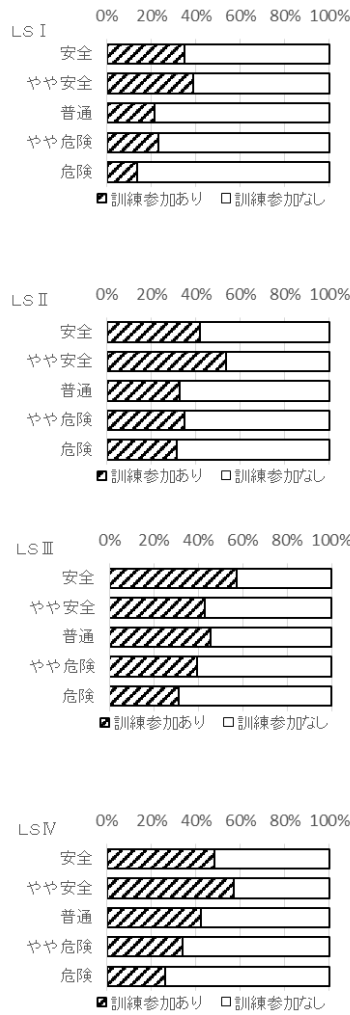


図 3-3-5 自宅周辺地域の地震時の火災の危険性の感じ方と訓練参加経験

(5) Q7 地震が発生し何らかの被害が身の回りで発生した場合の不安感と訓練参加経験

Q7については、カイ二乗検定をした結果、全ての項目で5未満の期待度数が発生したので、「多少不安である」の回答と「全く不安でない」の回答を合わせてクロス集計を行った。一覧表を表3-3-5に示す。

表 3-3-5 不安感と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q7.1	1.大規模な火災	.138		↘	.162		↘	.791		↑	.019*		↘
Q7.2	2.建物の倒壊	.124		↘	.264)	.772		↑	.563		↘
Q7.3	3.倒壊した建物などによる閉じ込め	.162		↑	.007**)	.432		(.802		↑
Q7.4	4.通信・電気・ガス・水道などのライフラインが停止	.012**		↘	.528		↘	.163		↗	.939		↑
Q7.5	5.避難場所への行き方が分からない	.650		↑	.548)	.128)	.006**		(
Q7.6	6.けが人が多数発生し、救急車や病院の対応が間に合わなく	.688		↑	.085		↘	.198		(.968		↑
Q7.7	7.自宅内で家具が転倒したり、ガラスが割れ飛び散る	.175		↘	.353		↘	.517		↗	.812		↑
Q7.8	8.電話網が輻輳して、119番通報が繋がらないこと	.732		↑	.346)	.067		↗	.848		↑

- ※ ↗ : 該当するほど訓練参加割合が高い
- ↘ : 該当するほど訓練参加割合が低い
- ↑ : 全て同じ程度の訓練参加割合
- ↘ : 差がバラバラである
-) : 中間程度 の参加が高い
- (: すごく該当すると該当しない の参加が高い
- ↑ : 該当すると中間程度は参加が高いが、該当しないは参加が低い 以後も同じ。

Q7-3 大きな地震が発生し、倒壊した建物などによる閉じ込められた場合の不安

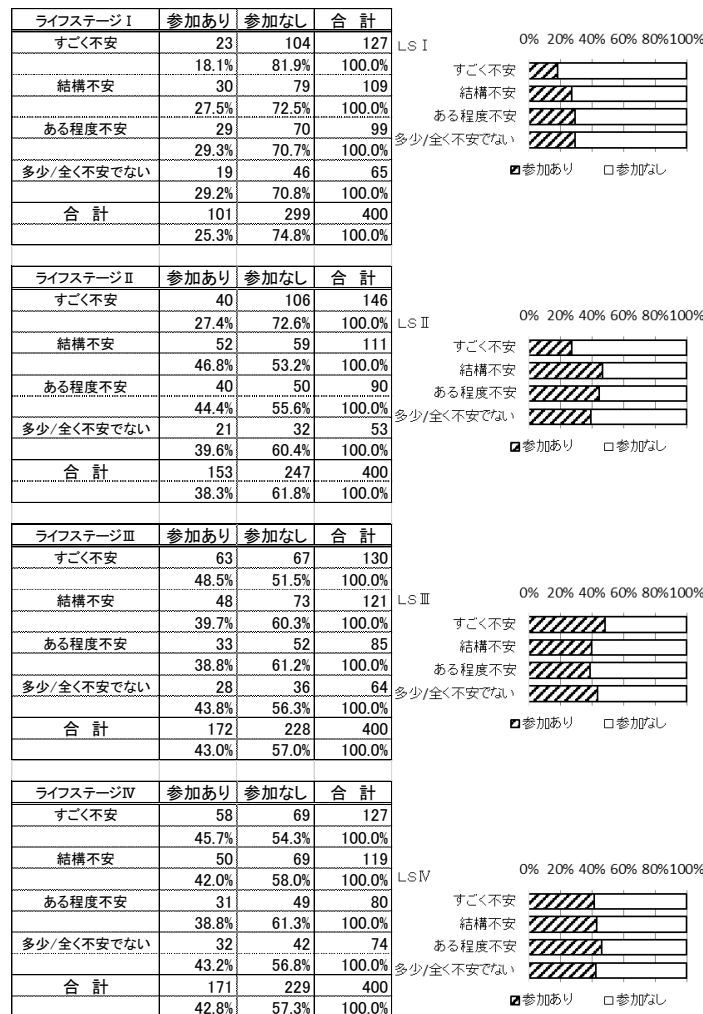


図 3-3-6 地震により建物が倒壊し閉じ込められた場合の不安感と訓練参加経験

Q7-8 大きな地震が発生し、119番通報が繋がらない場合の不安

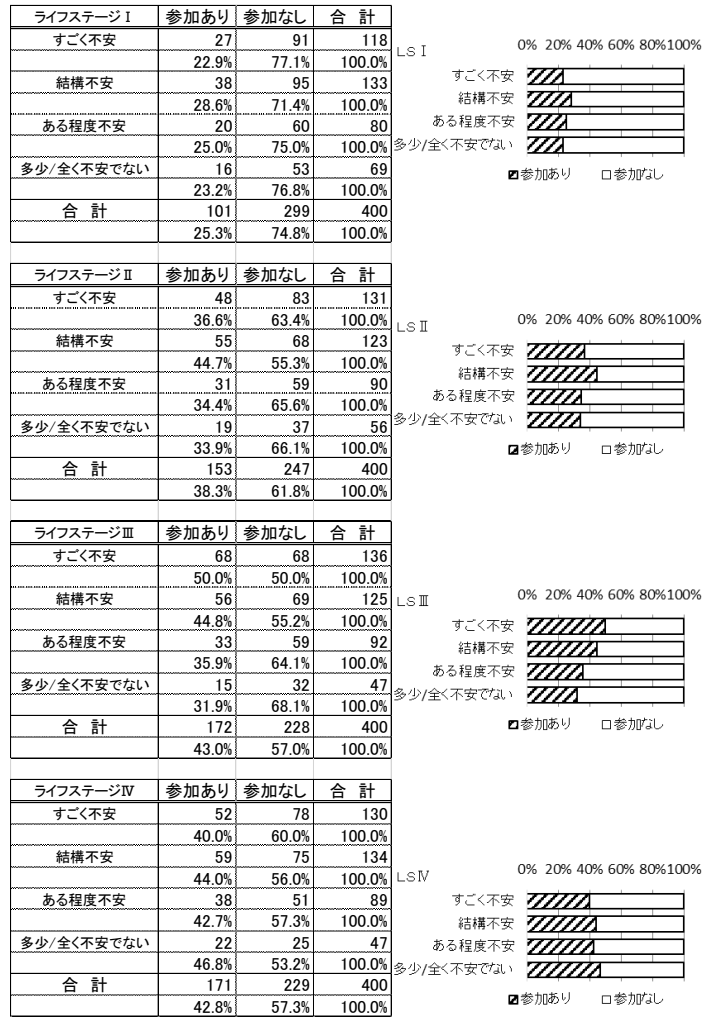


図 3-3-7 地震により 119 番通報への不通が発生した場合の不安感と訓練参加経験

(6) Q11 防火防災訓練のイメージと訓練参加経験

一覧表を表 3-3-6 に示す。

表 3-3-6 防火防災訓練のイメージと参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q11.1	1.自分や家族を守るために大切なものだ	.269		↗	.054		↘	.018*		↗	.002**		↗
Q11.2	2.地域を守るために大切なものだ	.244		↗	.026*		↘	.007**		↘	.003**		↗
Q11.3	3.住民にとっての義務だ	.065		↗	.005**		↘	.040*		↗	.000**		↗
Q11.4	4.楽しいものだ	.032*		↘	.001**		↗	.001**		↗	.007**		↗
Q11.5	5.面倒くさいものだ	.437		↘	.778		↓	.241		↘	.008**		↘
Q11.6	6.つまらないものだ	.214		↘	.773		↘	.005**		↘	.074		↘
Q11.7	7.意味のないものだ	.455		↘	.059		↘	.414		↘	.463		↘
Q11.8	8.疲れるものだ	.236		↘	.442		↗	.830		↘	.015*		↘
Q11.9	9.参加してもしょうがないものだ	.336		↘	.270		↘	.138		↘	.008**		↘
Q11.10	10.毎回同じようなことしかやっていない	.233		↘	.309		↘	.668		↘	.265		↘
Q11.11	11.「訓練」という名前が、厳しい気がする	.311		↗	.028*		↘	.814		↘	.161		↘
Q11.12	12.非常食や炊き出しが食べられる	.073		↗	.000**		↗	.015*		↗	.773		↘
Q11.13	13.防災用品などが貰える	.103		↘	.033*		↗	.164		↗	.382		↘
Q11.14	14.訓練を実施することで、災害時に役に立つと思う	.283		↗	.617		↗	.015*		↘	.227		↘

全てのライフスタイルにおいて、「地域を守るために大切なもの」であるイメージを持つほど参加している傾向にあり、ライフステージⅠ以外では差がある（図 3-3-8 参照）。「楽しいもの」というイメージも全てのライフステージにおいて同様の傾向である。

防火防災訓練を重要に感じるイメージと参加には概ね関連性が確認できる。

Q11-2 防火防災訓練が地域を守るために大切というイメージ

	参加あり	参加なし	合計
とても思う	26	53	79
	32.9%	67.1%	100.0%
結構そう思う	36	100	136
	26.5%	73.5%	100.0%
ある程度 そう思う	32	107	139
	23.0%	77.0%	100.0%
多少/思わない	7	39	46
	15.2%	84.8%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%

	参加あり	参加なし	合計
とても思う	46	58	104
	44.2%	55.8%	100.0%
結構そう思う	63	92	155
	40.6%	59.4%	100.0%
ある程度 そう思う	38	66	104
	36.5%	63.5%	100.0%
多少/思わない	5	29	34
	14.7%	85.3%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%

	参加あり	参加なし	合計
とても思う	49	39	88
	55.7%	44.3%	100.0%
結構そう思う	64	95	159
	40.3%	59.7%	100.0%
ある程度 そう思う	51	64	115
	44.3%	55.7%	100.0%
多少/思わない	8	30	38
	21.1%	78.9%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%

	参加あり	参加なし	合計
とても思う	52	40	92
	56.5%	43.5%	100.0%
結構そう思う	61	76	137
	44.5%	55.5%	100.0%
ある程度 そう思う	50	85	135
	37.0%	63.0%	100.0%
多少/思わない	8	28	36
	22.2%	77.8%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

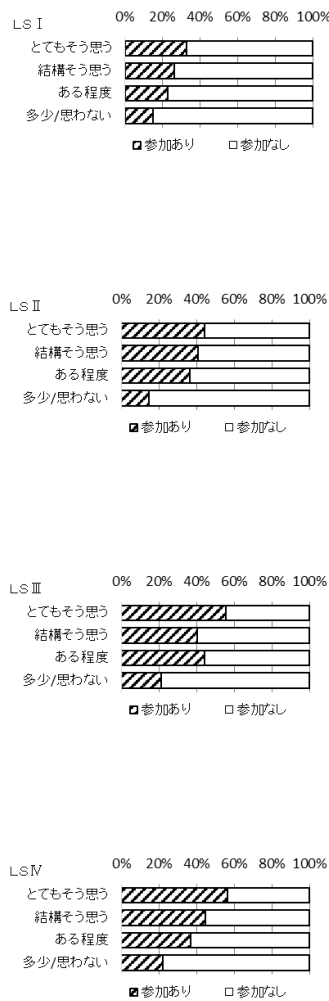


図 3-3-8 訓練のイメージ地域を守るために大切と参加経験の有無

一方、訓練イメージは、参加したことによってイメージ付いているとも考えられるため、訓練参加経験から訓練イメージを確認した。訓練参加経験ある方が、自分や家族を守るため、地域を守るため、義務である、楽しい、役に立つというイメージは全てのライフステージに共通して、参加経験がある方が肯定的なイメージを持っていることが確認できた（図 3-3-9 参照）。反対に、面倒というイメージは、全てのライフステージに共通して参加経験がない方が持っていた。

Q11-2 防火防災訓練が地域を守るために大切というイメージ

ライフステージI	とてもそう思う	結構思う	ある程度	多少	思わない	合計
参加あり	26	36	32	5	2	101
	25.7%	35.6%	31.7%	5.0%	2.0%	100.0%
参加なし	53	100	107	30	9	299
	17.7%	33.4%	35.8%	10.0%	3.0%	100.0%
合計	79	136	139	35	11	400
	19.8%	34.0%	34.8%	8.8%	2.8%	100.0%

ライフステージII	とてもそう思う	結構思う	ある程度	多少	思わない	合計
参加あり	46	63	38	4	2	153
	30.1%	41.2%	24.8%	2.6%	1.3%	100.0%
参加なし	58	92	66	28	3	247
	23.5%	37.2%	26.7%	11.3%	1.2%	100.0%
合計	104	155	104	32	5	400
	26.0%	38.8%	26.0%	8.0%	1.3%	100.0%

ライフステージIII	とてもそう思う	結構思う	ある程度	多少	思わない	合計
参加あり	49	64	51	7	1	172
	28.5%	37.2%	29.7%	4.1%	0.6%	100.0%
参加なし	39	95	64	28	2	228
	17.1%	41.7%	28.1%	12.3%	0.9%	100.0%
合計	88	159	115	35	3	400
	22.0%	39.8%	28.8%	8.8%	0.8%	100.0%

ライフステージIV	とてもそう思う	結構思う	ある程度	多少	思わない	合計
参加あり	52	61	50	7	1	171
	30.4%	35.7%	29.2%	4.1%	0.6%	100.0%
参加なし	40	76	85	27	1	229
	17.5%	33.2%	37.1%	11.8%	0.4%	100.0%
合計	92	137	135	34	2	400
	23.0%	34.3%	33.8%	8.5%	0.5%	100.0%

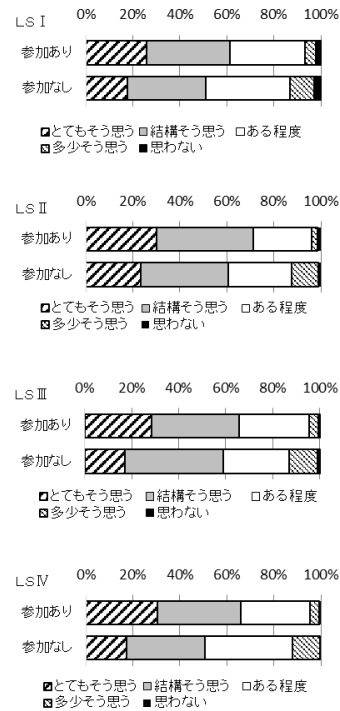


図 3-3-9 訓練参加経験と訓練の地域を守るために大切というイメージ

(7) Q12 訓練参加経験と自己効力感

消火器を使った消火活動ができると思う等の訓練で学ぶ内容が実際にできると思うかという内容であるため、ここでは、訓練参加経験の有無を軸にしてクロス集計を行った。一覧表は表 3-3-7 に示す。

表 3-3-7 訓練参加経験と自己効力感一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q12.1	1.地震の揺れを感じた時に身の安全を図ること	.001**	↗		.000**	↗		.056		↗	.017*	↗	
Q12.2	2.地震時の出火を防止(火の元を確認)すること	.072		↗	.020*		↗	.008**		↗	.052		↗
Q12.3	3.消火器を使った消火活動	.000**	↗		.000**	↗		.001**	↗		.000**	↗	
Q12.4	4.スタンドパイプを使用した消火活動	.000**	↗		.000**	↗		.000**	↗		.015*	↗	
Q12.5	5.消防用軽可搬ポンプを使用した消火活動	.000**	↗		.000**	↗		.015*		↗	.022*		↗
Q12.6	6.倒壊した家や倒れた家具等により閉じ込められた人や下敷きになった人を救助する活動	.000**	↗		.000**	↗		.145		↗	.003**	↗	
Q12.7	7.避難場所まで安全に避難すること	.003**	↗		.000**	↗		.100		↗	.000**	↗	
Q12.8	8.AEDを使った心肺蘇生法(人工呼吸と心臓マッサージ)	.000**	↗		.000**	↗		.001**	↗		.000**	↗	
Q12.9	9.けがややけどの応急手当	.000**	↗		.000**	↗		.000**	↗		.000**	↗	
Q12.10	10.消防や警察に通報すること	.100		↗	.026*		↗	.050		↗	.082		↗

全てのライフステージ、全ての項目において、防火防災訓練に参加した経験がある方が、実際にできると思っている結果であった(表 3-3-7、図 3-3-10 参照)。これは、訓練に参加した結果、防災行動が出来るようになったという効果が明らかであるとも言える。

Q12-3 地震発生時に消火器を使った消火活動ができると思うか

ライフステージⅠ	絶対できる	結構できる	ある程度	多少	できない	合計
参加あり	9	33	32	21	6	101
	8.9%	32.7%	31.7%	20.8%	5.9%	100.0%
参加なし	5	53	90	96	55	299
	1.7%	17.7%	30.1%	32.1%	18.4%	100.0%
合計	14	86	122	117	61	400
	3.5%	21.5%	30.5%	29.3%	15.3%	100.0%

ライフステージⅡ	絶対できる	結構できる	ある程度	多少	できない	合計
参加あり	11	32	67	36	7	153
	7.2%	20.9%	43.8%	23.5%	4.6%	100.0%
参加なし	10	28	79	85	45	247
	4.0%	11.3%	32.0%	34.4%	18.2%	100.0%
合計	21	60	146	121	52	400
	5.3%	15.0%	36.5%	30.3%	13.0%	100.0%

ライフステージⅢ	絶対できる	結構できる	ある程度	多少	できない	合計
参加あり	22	41	57	40	12	172
	12.8%	23.8%	33.1%	23.3%	7.0%	100.0%
参加なし	9	37	83	66	33	228
	3.9%	16.2%	36.4%	28.9%	14.5%	100.0%
合計	31	78	140	106	45	400
	7.8%	19.5%	35.0%	26.5%	11.3%	100.0%

ライフステージⅣ	絶対できる	結構できる	ある程度	多少	できない	合計
参加あり	13	56	67	31	4	171
	7.6%	32.7%	39.2%	18.1%	2.3%	100.0%
参加なし	10	31	90	64	34	229
	4.4%	13.5%	39.3%	27.9%	14.8%	100.0%
合計	23	87	157	95	38	400
	5.8%	21.8%	39.3%	23.8%	9.5%	100.0%

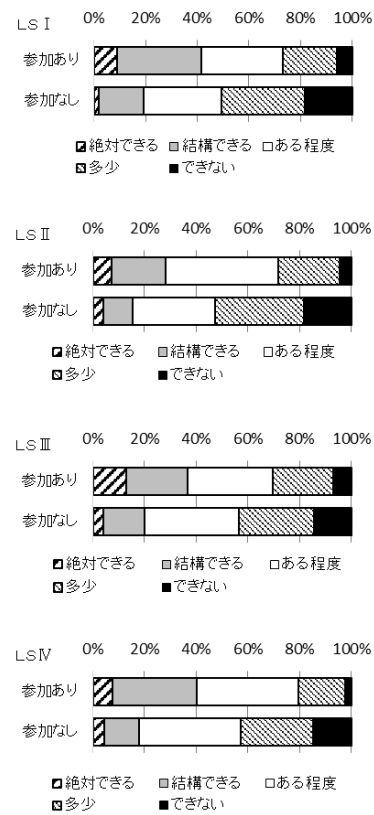


図 3-3-10 訓練参加経験有無と消火器を使えると思うかでのクロス集計

(8) Q14 訓練の開催を知った端緒と訓練参加経験

一覧表を表 3-3-8 に示す。

表 3-3-8 訓練の開催を知った端緒と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q14-1	1.どの様に知ったか覚えていない	.442		↗	.108		↘	.005 *		↘	.992		↑
Q14-2	2.回覧板を見て知った	.000 **		↗	.000 **		↗	.000 **		↗	.001 **		↗
Q14-3	3.町内またはマンションの掲示板を見て知った	.013 *		↗	.000 **		↗	.000 **		↗	.000 **		↗
Q14-4	4.市区町村の広報紙を見て知った	.505		↘	.016 *		↗	.555		↗	.875		↑
Q14-5	5.地域の会合で聞いて知った	.442		↗	.000 **		↗	.000 **		↗	.000 **		↗
Q14-6	6.知人・友人に教えてもらった	.014		↗	.146		↘	.012		↗	.010		↗
Q14-7	7.市区役所の掲示板を見て知った	.068		↗	.068		↗	.023 *		↗	.275		↘
Q14-8	8.インターネットで知った	.118		↗	.122		↗	.734		↘	.221		↘
Q14-9	9.マンション管理組合からのお知らせで知った	.000 **		↗	.002 **		↗	.000 **		↗	.000 **		↗
Q14-11	11.幼稚園、保育園や学童保育のお知らせで知った	-		-	.445		↗	.249		↗	.221		↘
Q14-12	12.学校からのお知らせで知った	.072		-	.000 **		↗	.002 **		↗	.768		-
Q14-16	16.情報が手に入らない	.000 **		↘	.000 **		↘	.000 **		↘	.000 **		↘

当然であるが防火防災訓練の開催について情報が手に入らない場合、参加経験有無には非常に大きな差がある（図 3-3-11 参照）。したがって、防火防災訓練の開催についての情報をどのように確実に伝えるか方策を考える必要がある。

Q14-16 防火防災訓練の開催情報が手に入らない

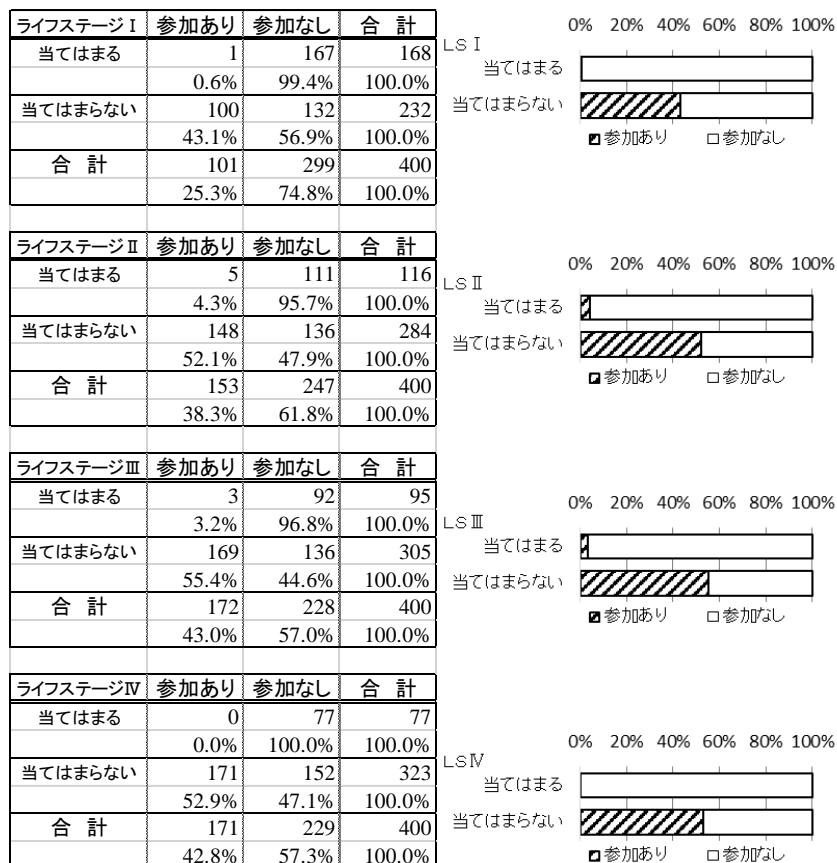


図 3-3-11 訓練開催に関する情報が手に入らないと参加経験有無

また、「町内またはマンションの掲示板を見て知った」、「マンション管理組合からのお知らせで知った」という回答をした場合の参加経験有無にも差があった(図 3-3-12 参照)。管理組合があるマンションに居住していることなどの条件は加わるが、そこを通じた働きかけも効果が高いと考えられる。

Q14-8 防火防災訓練の開催をマンション管理組合からのお知らせで知った

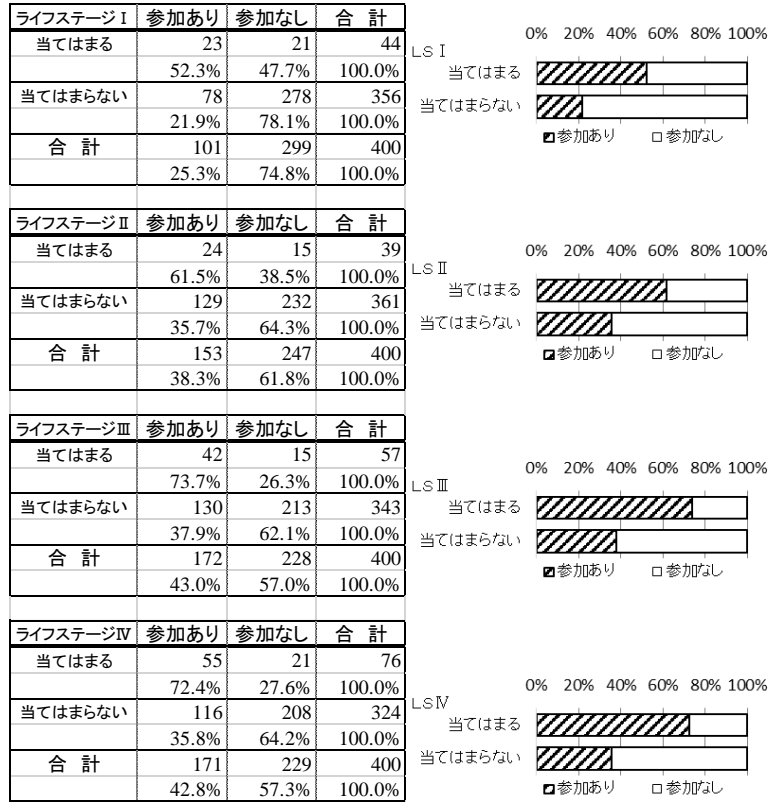


図 3-3-12 訓練を知った端緒がマンション管理組合と参加経験有無

「回覧板を見て訓練を知った」という回答も、参加経験有無と関連が高く差があった（図 3-3-13 参照）。回覧板の活用は、防火防災訓練の参加を働きかける手法として有効であると考えられる。ただし、町会・自治会に加入していない人は、そもそも回覧板を見る機会が無く、また共同住宅単位での加入者には、回覧板を全戸回覧しない町会・自治会がある。町会・自治会への未加入者、共同住宅居住者への働きかけについては、異なる手法が求められる。

Q14-2 防火防災訓練の開催を回覧板で知った

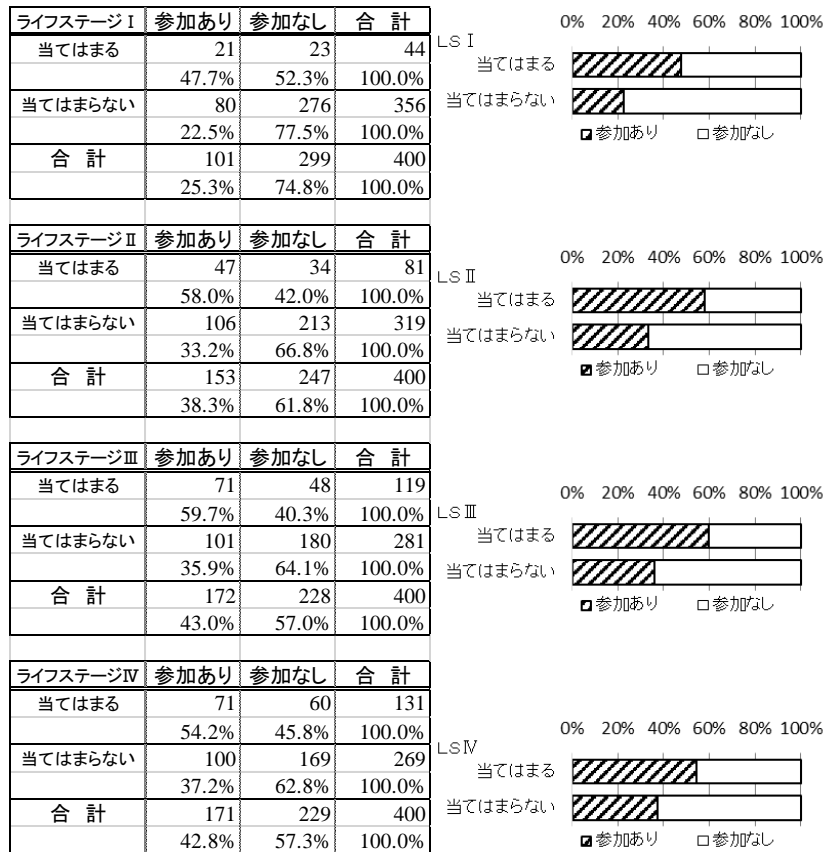


図 3-3-13 訓練開催を知った端緒が回覧板と参加経験有無

一方、「市区町村の広報紙で訓練を知った」という回答はライフステージⅡにおいて差があった（表 3-3-7、図 3-3-14 参照）。ライフステージⅡをターゲットにする場合、市区町村の広報紙に防火防災訓練開催情報を掲載していくことは有効であると考えられる。

Q14-4 防火防災訓練の開催を市区町村の広報紙で知った

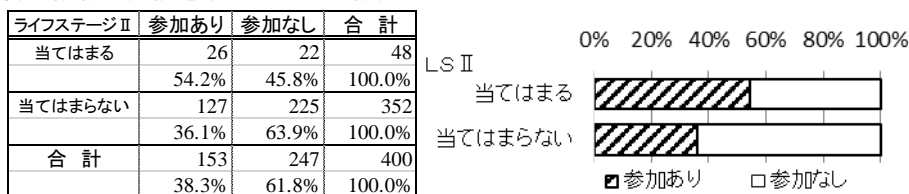


図 3-3-14 ライフステージⅡで訓練を知った端緒が市区町村の広報紙と参加経験有無

また、防火防災訓練の開催をどのような手段で知ったかについては、ライフステージⅡやⅢで、学校からのお知らせで知ったという回答をした場合の、参加経験有無に差があった（図 3-3-15 参照）。ライフステージⅡやⅢは同居する子供がいるセグメントであるため、学校からのお知らせで知るということは当然考えられる。学校からのお知らせで訓練参加へのアプローチを行うことは、効果的と考えられる。

Q14-12 防火防災訓練の開催を学校からのお知らせで知った

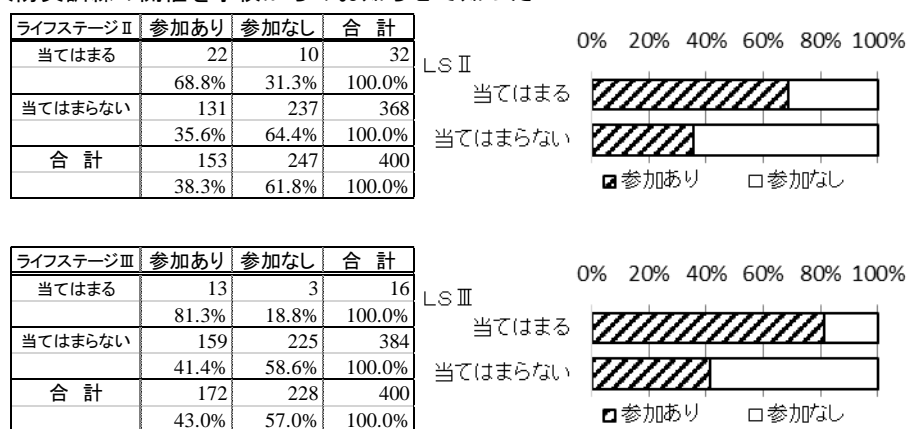


図 3-3-15 訓練開催を知った端緒が学校からのお知らせと参加経験有無

(9) Q22 参加している地域コミュニティと訓練参加経験

一覧表を表 3-3-9 に示す。

表 3-3-9 参加している地域コミュニティと参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q22-1	1.子育て支援サークル等	.005	*	↗	.013	*	↗	.033	*	↗	.471		↘
Q22-2	2.幼稚園・学校の保護者同士のグループなど(PTA、おやじの会など)	.279		↗	.000	**	↗	.000	**	↗	.233		↘
Q22-3	3.あなたが参加しているスポーツスクール(サークル)	.000	**	↗	.000	**	↗	.602		↗	.001	**	↗
Q22-4	4.あなたが参加しているカルチャースクール(サークル)	.104		↗	.041	*	↗	.271		↗	.108		↗
Q22-5	5.子供が参加しているスポーツスクール(サークル)	.019	*	↗	.001	**	↗	.446		↗	.401		↗
Q22-8	8.参加していない	.000	**	↘	.000	**	↘	.001	**	↘	.000	**	↘

全てのライフステージにおいて、子供に関係する地域のコミュニティ、スポーツ、カルチャーといった何らかの地域コミュニティに参加していると、防火防災訓練に参加している割合が高い結果であった。何らかの地域コミュニティに参加しているということが、防火防災訓練などの様々なイベントに対して積極的である可能性も考えられる。

また、Q23 において、何らかの地域コミュニティに参加している人に、参加コミュニティの中で防災について学ぶ機会があった場合、学びたい、または学んでもよいという回答が多数を占めたため、地域コミュニティへの働きかけは非常に有効であると考えられる(図 3-3-16 参照)。

Q23 参加している地域コミュニティの場で防災について学ぶ機会があったらどう思うか

ライフステージ	参加あり	参加なし	合計
ライフステージⅠ			
学びたい	9	3	12
	75.0%	25.0%	100.0%
学んでもよい	11	10	21
	52.4%	47.6%	100.0%
思わない/学びたくない	0	4	4
	0.0%	100.0%	100.0%
合計	20	17	37
	54.1%	45.9%	100.0%
ライフステージⅡ			
学びたい	35	27	62
	56.5%	43.5%	100.0%
学んでもよい	51	42	93
	54.8%	45.2%	100.0%
思わない/学びたくない	3	6	9
	33.3%	66.7%	100.0%
合計	89	75	164
	54.3%	45.7%	100.0%
ライフステージⅢ			
学びたい	16	2	18
	88.9%	11.1%	100.0%
学んでもよい	26	23	49
	53.1%	46.9%	100.0%
思わない/学びたくない	1	3	4
	25.0%	75.0%	100.0%
合計	43	28	71
	60.6%	39.4%	100.0%
ライフステージⅣ			
学びたい	24	12	36
	66.7%	33.3%	100.0%
学んでもよい	33	16	49
	67.3%	32.7%	100.0%
思わない/学びたくない	2	4	6
	33.3%	66.7%	100.0%
合計	59	32	91
	64.8%	35.2%	100.0%

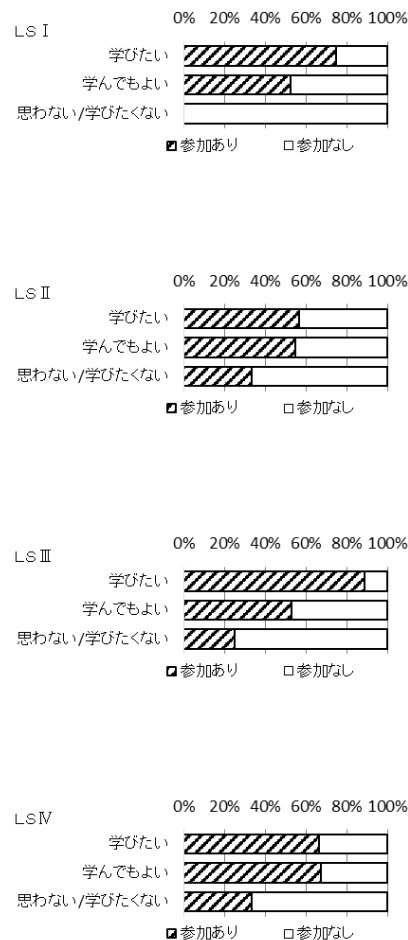


図 3-3-16 参加しているコミュニティで防災についての学習意向と参加経験有無

(10) Q32 基本属性と訓練参加経験

一覧表を表 3-3-10 に示す。持ち家に住んでいたり、長期間その地域に居住する意思があるほど防火防災訓練に参加した割合が高い。

表 3-3-10 基本属性と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q32.1	1.あなたは、現在結婚されていますか	.687		↑	.252		↑	.008**		↑	.001**		↑
Q32.2	2.あなた自身に子供はいらっしゃいますか	.000**		↑							.323		↑
Q32.3	3.あなたがお住まいの家は持ち家ですか	.008**		↑	.183		↑	.031*		↑	.022*		↑
Q32.4	4.あなたがお住まいの家は一戸建てですか	.331		↓	.539		↑	.508		↑	.036*		↓
Q32.5	5.あなたがお住まいの家は共同住宅ですか	.469		↑	.351		↑	.605		↑	.039*		↑
Q32.6	6.現在の地域に10年以上住み続ける予定はありますか	.062		↑	.135		↑	.280		↑	.015*		↑
Q32.7	7.近所に親戚の中学生以下の子供または孫などが住んでいますか	.164		↑	.325		↑	.835		↑	.396		↑

(11) Q34 同居する家族に災害時に支援が必要な人の有無と訓練参加経験

ライフステージ別に、同居家族の要配慮者の有無と訓練参加経験をクロス集計したところ、ライフステージⅠでは期待度数が5を下回ったものの図 3-3-17のように違いがあった。一方、他のライフステージでは差がみられなかった。同居家族に要配慮者がいても、訓練参加へは関係しない。

Q34 同居している家族に災害時に安全な場所へ避難するなどの行動に支援が必要な人はいるか

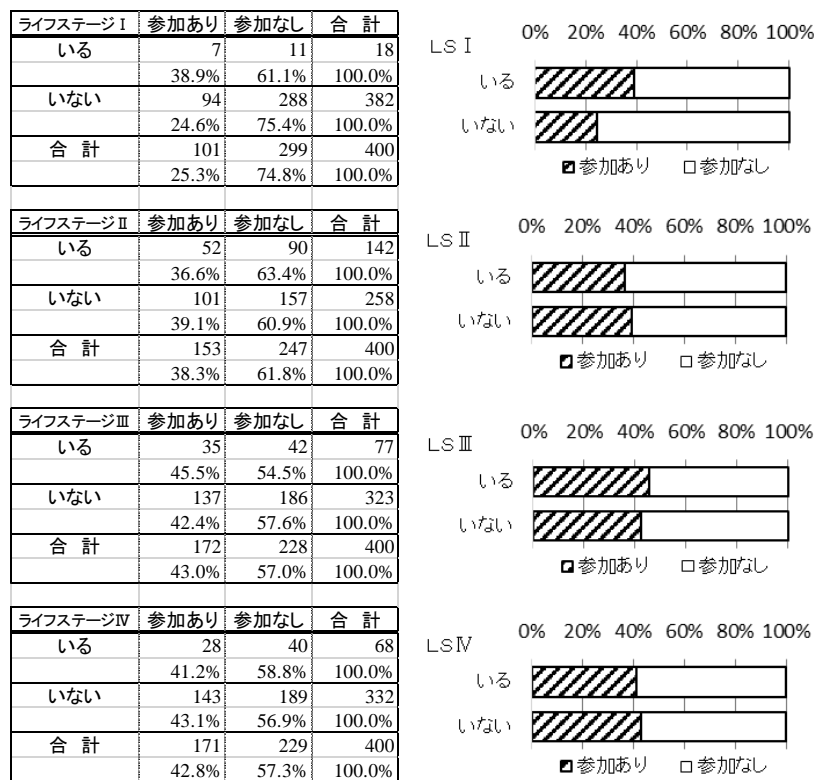


図 3-3-17 同居する家族に災害時に支援が必要な人の有無と訓練参加

(12) Q35 町会・自治会への加入と訓練参加経験

全てのライフステージにおいて、町会や自治会へ加入している方が防火防災訓練に参加しているという差があった（図 3-3-18 参照）。

現在、町会や自治会へ防火防災訓練の働きかけを実施していることの効果が現れていると考えられる一方で、町会・自治会の未加入者への働きかけの必要性が明らかになった。

Q35 町会・自治会に加入しているか

ライフステージⅠ	参加あり	参加なし	合計
加入	46	55	101
	45.5%	54.5%	100.0%
未加入	55	244	299
	18.4%	81.6%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%

ライフステージⅡ	参加あり	参加なし	合計
加入	97	102	199
	48.7%	51.3%	100.0%
未加入	56	145	201
	27.9%	72.1%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%

ライフステージⅢ	参加あり	参加なし	合計
加入	119	117	236
	50.4%	49.6%	100.0%
未加入	53	111	164
	32.3%	67.7%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%

ライフステージⅣ	参加あり	参加なし	合計
加入	131	134	265
	49.4%	50.6%	100.0%
未加入	40	95	135
	29.6%	70.4%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

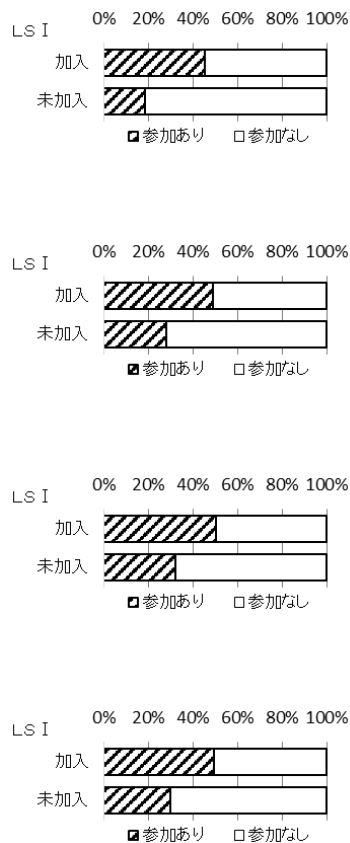


図 3-3-18 町会・自治会加入と参加経験有無

(13) Q36 普段、地域のイベント情報等を手に入れる手段と訓練参加経験一覧表を表 3-3-11 に示す。

表 3-3-11 地域のイベント情報等を手に入れる手段と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q36-1	1.街なかの掲示板・ポスター	.052		↗	1.000		↓	.919		↓	.231		↗
Q36-2	2.マンションの掲示板・ポスター	.111		↗	.069		↗	.001**		↗	.000**		↗
Q36-3	3.地域のチラシ	.579		↓	.023*		↗	.407		↗	.405		↗
Q36-4	4.市区町村の広報紙	.415		↘	.600		↓	.578		↓	.026*		↗
Q36-5	5.市区町村のメールマガジン	.572		↗	.131		↗	.652		↘	.755		↓
Q36-6	6.知人友人の口コミ	.037*		↗	.119		↗	.158		↗	.108		↗
Q36-7	7.回覧板	.014*		↗	.132		↗	.058		↗	.026*		↗
Q36-8	8.マンション管理組合	.185		↗	.182		↗	.014*		↗	.000**		↗
Q36-9	9.町会・自治会の会合	.000**		↗	.012*		↗	.076		↗	.000**		↗
Q36-10	10.学校(PTA含む)	.561		↗	.000**		↗	.043*		↗	.835		
Q36-11	11.幼稚園、保育所、学童保育	.015*		↗	.412		↗	-		-	-		
Q36-12	12.公民館、児童館	.279		↗	.888		↓	.727		↗	.437		↗
Q36-13	13.TV、ラジオ、新聞などのマスメディア	.122		↗	.123		↘	.260		↗	.968		↓
Q36-14	14.インターネット、SNS	.962		↓	.879		↓	.575		↗	.316		↗
Q36-18	18.情報が手に入らない	.001**		↘	.002**		↘	.005**		↘	.008**		↘

地域で行われる防火防災訓練について尋ねたので当然ではあるが、全てのライフステージにおいて、地域のイベント情報等が手に入らないと回答する人ほど訓練参加経験がないことが確認できた。

全てのライフステージに共通する地域のイベント情報等を手に入れる手段と訓練参加への関係性はなかった。したがって、それぞれのライフステージに対して、有効な働きかけの手段が異なるとも言える。例として、ライフステージⅡに働きかけるならば、学校やPTAを利用することが有効である（図 3-3-19 参照）。

Q36-10 学校から地域のイベント等の情報を手に入れる



図 3-3-19 ライフステージⅡにおける地域のイベント情報等を学校から手に入れると訓練参加有無

逆に、訓練参加経験の有無別に各項目を確認したところ、ライフステージⅡで地域のイベント情報を学校から手に入れているほど訓練参加経験の割合も高い、ライフステージⅢやⅣでマンションの掲示板、マンション管理組合から地域のイベント情報を手に入れているほど訓練参加経験の割合が高いといった差がみられた（図 3-3-20 参照）。

Q36-2 マンションの掲示板・ポスターから地域のイベント等の情報を手に入れる

ライフステージⅠ	当てはまる	当てはまらない	合計
参加あり	43	58	101
	42.6%	57.4%	100.0%
参加なし	101	198	299
	33.8%	66.2%	100.0%
合計	144	256	400
	36.0%	64.0%	100.0%

ライフステージⅡ	当てはまる	当てはまらない	合計
参加あり	56	97	153
	36.6%	63.4%	100.0%
参加なし	69	178	247
	27.9%	72.1%	100.0%
合計	125	275	400
	31.3%	68.8%	100.0%

ライフステージⅢ	当てはまる	当てはまらない	合計
参加あり	74	98	172
	43.0%	57.0%	100.0%
参加なし	61	167	228
	26.8%	73.2%	100.0%
合計	135	265	400
	33.8%	66.3%	100.0%

ライフステージⅣ	当てはまる	当てはまらない	合計
参加あり	69	102	171
	40.4%	59.6%	100.0%
参加なし	55	174	229
	24.0%	76.0%	100.0%
合計	124	276	400
	31.0%	69.0%	100.0%

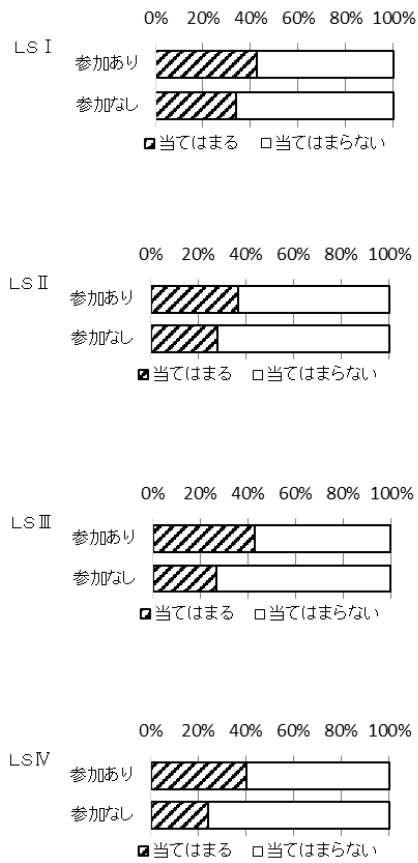


図 3-3-20 訓練参加有無と地域のイベント情報をマンション掲示板から手に入れる割合のクロス集計

(14) Q37 日常の現況と訓練参加経験

日常の現況についての設問を設定したので、それと訓練参加経験の一覧を表 3-3-12 に示す。

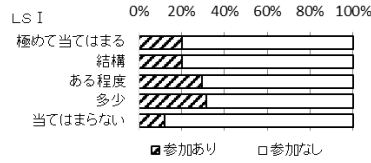
表 3-3-12 日常の現況と参加経験一覧

		ライフステージⅠ			ライフステージⅡ			ライフステージⅢ			ライフステージⅣ		
		P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向	P値	有意性	傾向
Q37.1	1.子育てで忙しい	-		-	.006**	↘		.015*	↘		-		-
Q37.2	2.介護をしていて忙しい	.011*)	.105	↗		.539	↘		.536		(
Q37.3	3.体の調子が悪く、病気がちである	.960		↑	.049*	↓		.338		(.314		↗
Q37.4	4.災害があっても我が家は大丈夫だと思う	.027*		↗	.111)		.069		↗	.498		↗
Q37.5	5.近所の付き合いでイベントに参加することがある	.000**		↗	.000**	↗		.000**		↗	.000**		↗
Q37.6	6.家族を守りたいという意識が強い	.398)	.316	↘		.006**)	.091)
Q37.7	7.非常時には地域や他人のために役に立ちたいと思う	.024*)	.409	↗		.000**		↗	.000**		↗
Q37.8	8.いま住んでいる地域に知人、友人が多い	.000**)	.007**	↗		.017*		↗	.000**		↗
Q37.9	9.防災への関心は高い方だと思う	.006**		↗	.000**	↗		.000**		↗	.001**		↗
Q37.10	10.災害への不安は高い方だと思う	.030*)	.019*	↗		.009**		↘	.197		↗
Q37.11	11.共働きなので普段ゆっくりする時間がない	.039*)	.311)		.664)	.917		↘
Q37.12	12.何かあった時に家族には迷惑をかけたくない	.069)	.265	↘		.881		↑	.522		↘
Q37.13	13.すぐ助けに来てくれる人が近くに住んでいる	.002**		↗	.057)		.002**)	.008**		↗
Q37.14	14.何かあっても自分一人ならどうにかなると思う	.004**		↗	.042*)		.528		↘	.602		↘
Q37.15	15.中学生以下の親戚の子供や孫の面倒をよく見ることがある	.044*		↗	.001**	↗		.001**)	.624)
Q37.16	16.地域において、災害時に親が帰宅できない子供を預かるといった、災害時に「助ける、助けられる(助け合いを自然にする)関係」にある人がいる	.000**		↘	.001**)		.011**)	.052		↗
Q37.17	17.隣近所の家とは仲がいいと思う	.000**		↗	.018*	↗		.014*		↗	.000**		↗
Q37.18	18.近所の人と関わるのはわずらわしい	.184		↘	.028*	↘		.072		↘	.000**		↘
Q37.19	19.周りの人に支えられて生きていると思う	.460		↘	.029*	↘		.018*		↗	.000**		↗
Q37.20	20.ボランティアなど社会貢献に興味がある	.015*		↗	.000**	↗		.000**		↗	.000**		↗

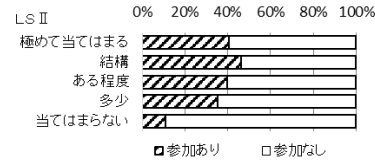
(5)では、不安感と訓練参加経験の関連性はみられないと分析できたが、Q37.10での災害への不安は高い方だと思うと訓練参加経験の関連性は、ライフステージⅡで差があった。ライフステージⅣでは、差があるほどではないが、不安が高いほど訓練参加経験がある傾向であった(図 3-3-21 参照)。近所の付き合いでイベントに参加する人や、隣近所の家と仲が良いと思っているほど、防火防災訓練に参加している。ボランティアなど社会貢献に興味があるほど、防火防災訓練に参加している。

Q37-10 災害への不安は高い方だと思う

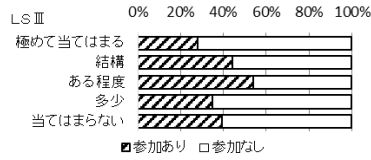
ライフステージⅠ	参加あり	参加なし	合計
極めて当てはまる	5	20	25
	20.0%	80.0%	100.0%
結構	14	56	70
	20.0%	80.0%	100.0%
ある程度	33	79	112
	29.5%	70.5%	100.0%
多少	42	92	134
	31.3%	68.7%	100.0%
当てはまらない	7	52	59
	11.9%	88.1%	100.0%
合計	101	299	400
	25.3%	74.8%	100.0%



ライフステージⅡ	参加あり	参加なし	合計
極めて当てはまる	17	25	42
	40.5%	59.5%	100.0%
結構	45	52	97
	46.4%	53.6%	100.0%
ある程度	49	74	123
	39.8%	60.2%	100.0%
多少	39	72	111
	35.1%	64.9%	100.0%
当てはまらない	3	24	27
	11.1%	88.9%	100.0%
合計	153	247	400
	38.3%	61.8%	100.0%



ライフステージⅢ	参加あり	参加なし	合計
極めて当てはまる	10	26	36
	27.8%	72.2%	100.0%
結構	39	49	88
	44.3%	55.7%	100.0%
ある程度	72	61	133
	54.1%	45.9%	100.0%
多少	40	75	115
	34.8%	65.2%	100.0%
当てはまらない	11	17	28
	39.3%	60.7%	100.0%
合計	172	228	400
	43.0%	57.0%	100.0%



ライフステージⅣ	参加あり	参加なし	合計
極めて当てはまる	17	19	36
	47.2%	52.8%	100.0%
結構	41	46	87
	47.1%	52.9%	100.0%
ある程度	65	77	142
	45.8%	54.2%	100.0%
多少	42	68	110
	38.2%	61.8%	100.0%
当てはまらない	6	19	25
	24.0%	76.0%	100.0%
合計	171	229	400
	42.8%	57.3%	100.0%

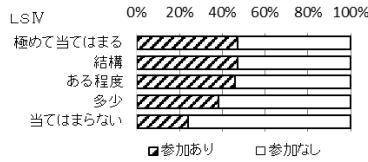


図 3-3-21 災害への不安が高いと思うと訓練参加経験

2 第3節のまとめ

デプスインタビューの結果、ライフステージによって、参加理由や不参加理由、災害への備え、防災に関する意識等が異なるのではないかという仮説を立て、アンケートの際にライフステージを分けて票数を確保した。

結果、単独世帯または夫婦のみの世帯であるライフステージⅠでは、町会・自治会に加入している割合が低い、中学生以下の子供と同居しているライフステージⅡでは、過去に被災経験があるほど防火防災訓練参加経験があることや子供と一緒に参加できる防火防災訓練を意向することや、高齢者であるライフステージⅣでは町会・自治会に加入している割合が高いといったいくつかの差異は見られた。

ライフステージⅡでは子供を通じた学校からの情報の入手が高いことなどから、ライフステージによって情報を知る端緒が異なることが明らかになった。このことは、訓練対象者をライフステージに分けて参加を促すことによる効果を示唆すると考えられる。

本節ではライフステージによる差異を確認していった。一方、地域や居住場所に分けてクロス集計等を試みたが、ライフステージほどの差異は見られなかった。したがって、地域特性よりもライフステージにより不参加理由や防災に関する意識が異なることが示唆された。

第4節 参加有無別及び参加意向有無別の意識構造

ここで、防火防災訓練に参加した経験の有無や参加意向の有無で、防災や防火防災訓練に関する意識の違いを明らかにすることを目的として分析を実施した。

1 防火防災訓練参加有無別の意識構造

訓練参加経験の有無によって何が異なるのか、どのような特徴があるのかを明らかにすることを目的に分析した。

手法としては、いくつかの設問において因子分析を実施し、いくつかの因子を取り出した。さらに、その因子得点等を用いて参加意向有無への二項ロジスティック回帰分析を行い、その分析で他の要素よりも強く訓練参加意向有無に影響を与える要素と他要素との関係を重回帰分析で整理した。用いた設問と分析方法について表 3-4-1 にまとめた。

なお、全ての因子分析はエクセル統計 2012 を用いて、因子の推定法は最尤法、因子の回転は直交回転バリマックス法で行った。

表 3-4-1 分析に用いた設問と分析方法

設問番号	設問内容
Q7	災害への不安感
Q9	自宅周辺災害発生リスク
Q11	訓練のイメージ
Q37	生活に関する意識

(1) 災害への不安感

Q7.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が発生し以下のことが身の回りで発生したとします。以下のことはそれぞれ不安または心配に感じますか。それぞれもともと当てはまると思う番号一つ選択してください。

	すごく不安である	結構不安である	ある程度不安である	多少不安である	全く不安ではない
1.大規模な火災	5	4	3	2	1
2.建物の倒壊	5	4	3	2	1
3.倒壊した建物などによる閉じ込め	5	4	3	2	1
4.通信・電気・ガス・水道などのライフラインが停止	5	4	3	2	1
5.避難場所への行き方が分からない	5	4	3	2	1
6.けが人が多数発生し、救急車や病院の対応が間に合わない	5	4	3	2	1
7.自宅内で家具が転倒したり、ガラスが割れ飛び散る	5	4	3	2	1
8.電話網が輻輳(回線がパンクすること)して、119番通報が繋がらないこと	5	4	3	2	1

Q7「東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が発生し、身の回りで災害が発生したと仮定した場合の不安」についての設問について確認した。

各項目で、「すごく不安である」、「結構不安である」、「ある程度不安である」、「多少不安である」、「全く不安でない」という5段階の順序尺度で回答しているので、順に5、4、3、2、1とした。

Q7の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子は1つであった(表3-4-2)。

そのため、全8項目の回答の平均値を合成変数として用いることとした。

表 3-4-2 Q7における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列(回転後)	
1	5.0285	62.86%	62.86%	変数	因子1
2	0.7341	9.18%	72.03%	Q7.3建物倒壊脱出不能	0.8558
3	0.6746	8.43%	80.47%	Q7.2建物倒壊	0.8413
4	0.4608	5.76%	86.23%	Q7.6医療の混乱	0.8365
5	0.3838	4.80%	91.02%	Q7.1大規模火災	0.7715
6	0.2996	3.75%	94.77%	Q7.7自宅内で家具が転倒	0.7485
7	0.2799	3.50%	98.27%	Q7.8 119番通報がパンク	0.7317
8	0.1386	1.73%	100.00%	Q7.4ライフライン停止	0.6795
				Q7.5避難場所への行き方	0.5829

(2) 自宅周辺での災害発生リスク認知

Q9.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きた時、あなたは、ご自宅やご近所で次のことが起こる可能性があると思いますか。下記の項目について最も近いと思う一つ番号を選んでください。

	必ず起きると思う	起きる可能性が結構高いと思う	起きる可能性が ある程度高いと思う	起きる可能性が 低いと思う	起きないと思う
1.あなた自身がけがをする	5	4	3	2	1
2.家族がけがをする	5	4	3	2	1
3.友人や知人がけがをする	5	4	3	2	1
4.たぐさんのけが人が発生する	5	4	3	2	1
5.救急車を呼んだがいつまで待っても来ない	5	4	3	2	1
6.近所の病院が被災している	5	4	3	2	1
7.ご自宅が倒壊する	5	4	3	2	1
8.自宅内の家具が倒れたり、物が落ちてきたりする	5	4	3	2	1
9.倒れた家具などによりけがをする	5	4	3	2	1
10.家屋の倒壊が発生する	5	4	3	2	1
11.建物などの倒壊により道路がふさがれる	5	4	3	2	1
12.家屋の倒壊により脱出できない人が発生する	5	4	3	2	1
13.いたる所で建物が倒壊し脱出できない人が複数いる	5	4	3	2	1
14.ご自宅が火事になる	5	4	3	2	1
15.近所で火事が発生する	5	4	3	2	1
16.火災が複数発生する	5	4	3	2	1
17.10棟以上燃えるような大火災が発生する	5	4	3	2	1
18.消防隊を呼んだがいつまで待っても来ない	5	4	3	2	1
19.119番通報が繋がらない	5	4	3	2	1
20.避難所での生活を余儀なくされる	5	4	3	2	1

Q9「東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きたとき、自宅周辺でどのようなことが発生すると思うか」という設問に対して確認した。

各項目で、「必ず起きると思う」、「起きる可能性が結構高いと思う」、「ある程度高いと思う」、「起きる可能性が低いと思う」、「起きないと思う」という5段階の順序尺

度で回答しているなので、順に5、4、3、2、1とした。

Q9の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子が3つ抽出された(表3-4-3、図3-4-1)。

第一因子を、「消防力を超える災害が起きる」・・・消防隊が来ない、複数の火災、建物倒壊で脱出不能、大規模火災

第二因子を、「自宅が被災」・・・家具転によるけが、自宅が倒壊、自宅が火災、自宅で家具が転倒

第三因子を、「負傷する」・・・友人のけが、家族のけが、自身のけが、複数の怪我人

というように分類した。

表 3-4-3 Q9 における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)
1	10.7905	53.95%	53.95%	変数
2	2.0005	10.00%	63.95%	Q9.18消防隊が来ない
3	1.1987	5.99%	69.95%	Q9.16複数の火災
4	0.8008	4.00%	73.95%	Q9.12建物倒壊脱出不能
5	0.7394	3.70%	77.65%	Q9.13脱出不能多数
6	0.6025	3.01%	80.66%	Q9.17大規模火災
7	0.5012	2.51%	83.17%	Q9.19 1 1 9 番通報が不通
8	0.4152	2.08%	85.24%	Q9.11道路閉塞
9	0.3915	1.96%	87.20%	Q9.5救急来ない
10	0.3851	1.93%	89.13%	Q9.4複数のけが人
11	0.3229	1.61%	90.74%	Q9.15近所で火災
12	0.2911	1.46%	92.20%	Q9.6病院が被災
13	0.2689	1.34%	93.54%	Q9.20避難所生活
14	0.2612	1.31%	94.85%	Q9.10家屋倒壊
15	0.2337	1.17%	96.02%	Q9.3友人のけが
16	0.2042	1.02%	97.04%	Q9.8自宅で家具が転倒
17	0.1730	0.87%	97.90%	Q9.14自宅が火災
18	0.1583	0.79%	98.69%	Q9.9家具転によるけが
19	0.1464	0.73%	99.43%	Q9.1自身のけが
20	0.1148	0.57%	100.00%	Q9.7自宅が倒壊
				Q9.2家族のけが

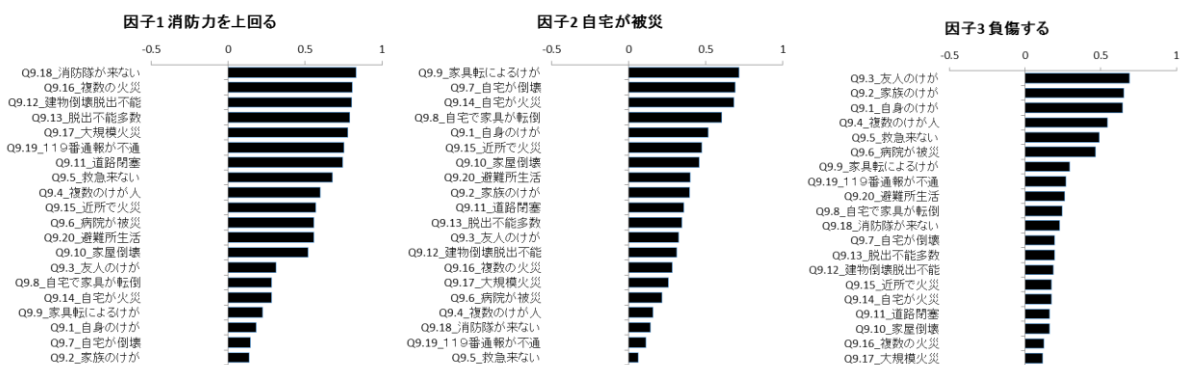


図 3-4-1 Q9 における因子負荷量行列

(3) 防火防災訓練のイメージ

Q11. 防火防災訓練についてお伺いします。(学校が実施する避難訓練や、職場が実施する火災を想定した自衛消防訓練は除きます。)
あなたは地域で行われる防火防災訓練に対しどのようなイメージをお持ちですか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。

	とてもそう思う	結構そう思う	ある程度そう思う	多少そう思う	全くそう思わない
1.自分や家族を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
2.地域を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
3.住民にとっての義務だ	5	4	3	2	1
4.楽しいものだ	5	4	3	2	1
5.面倒くさいものだ	5	4	3	2	1
6.つまらないものだ	5	4	3	2	1
7.意味のないものだ	5	4	3	2	1
8.疲れるものだ	5	4	3	2	1
9.参加してもしょうがないものだ	5	4	3	2	1
10.毎回同じようなことしかやっていない	5	4	3	2	1
11.「訓練」という名前が、厳しい気がする	5	4	3	2	1
12.非常食や炊き出しが食べられる	5	4	3	2	1
13.防災用品などが買える	5	4	3	2	1
14.防火防災訓練を実施することで、実際の災害時に役に立つと思う	5	4	3	2	1

Q11「防火防災訓練のイメージ」の設問に対して確認した。

各項目で、「とてもそう思う」、「結構」、「ある程度」、「多少」、「全くそう思わない」という5段階の順序尺度で回答しているのので、順に5、4、3、2、1とした。

Q11の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子は3つであった(表3-4-4、図3-4-2)。

第一因子を、「訓練は退屈」・・・つまらない、面倒、疲れる、しょうがない、同じことをやっている

第二因子を、「訓練は重要」・・・地域を守るために大切、自分や家族を守るために大切、住民の義務、役に立つ

第三因子を、「エンターテインメント性」・・・非常食が食べられる、防災品がもらえる、楽しい

というように分類した。

表3-4-4 Q11における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)			
				変数	因子1	因子2	因子3
1	4.4046	31.46%	31.46%	Q11.6つまらない	0.8132	-0.1248	0.0603
2	3.1507	22.50%	53.97%	Q11.5めんどくさい	0.8001	-0.0568	-0.0259
3	1.4430	10.31%	64.27%	Q11.8疲れる	0.6904	0.0082	0.1412
4	0.8483	6.06%	70.33%	Q11.9しょうがない	0.5875	-0.3334	0.3984
5	0.7142	5.10%	75.43%	Q11.10同じこと	0.5668	-0.1594	0.1694
6	0.5869	4.19%	79.63%	Q11.7意味がない	0.4866	-0.3160	0.4531
7	0.5497	3.93%	83.55%	Q11.11厳しい	0.4255	-0.0965	0.4305
8	0.5409	3.86%	87.42%	Q11.12非常食が食べれる	0.1037	0.1401	0.7472
9	0.4389	3.14%	90.55%	Q11.4楽しい	0.1012	0.1725	0.5454
10	0.3365	2.40%	92.95%	Q11.13防災品がもらえる	0.0817	0.1900	0.7131
11	0.2914	2.08%	95.04%	Q11.2地域を守るため大切	-0.0982	0.9140	0.0651
12	0.2778	1.98%	97.02%	Q11.3住民の義務	-0.1102	0.7560	0.1728
13	0.2550	1.82%	98.84%	Q11.14役に立つ	-0.1132	0.5470	0.1202
14	0.1622	1.16%	100.00%	Q11.1自分や家族を守るため大切	-0.1279	0.8738	0.0528

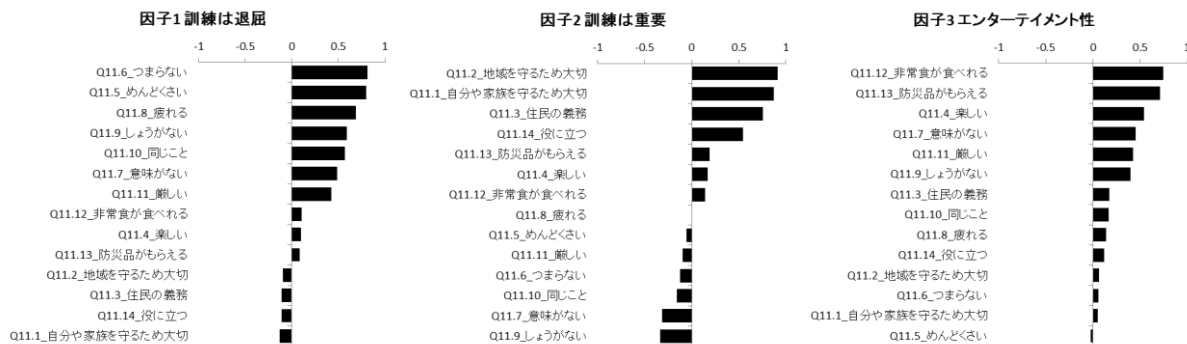


図 3-4-2 Q11 における因子負荷量行列

(4) 生活に関する意識

Q37. 以下のそれぞれの項目について、あなたが当てはまると思う項目の番号一つ選択してください。

	極めて当てはまる	結構当てはまる	ある程度当てはまる	多少当てはまる	全く当てはまらない
1. 子育てで忙しい	5	4	3	2	1
2. 介護をしていて忙しい	5	4	3	2	1
3. 体の調子が悪く、病気がちである	5	4	3	2	1
4. 災害があっても我が家は大丈夫だと思う	5	4	3	2	1
5. 近所の付き合いでイベントに参加することがある	5	4	3	2	1
6. 家族を守りたいという意識が強い	5	4	3	2	1
7. 非常時には地域や他人のために役に立ちたいと思う	5	4	3	2	1
8. いま住んでいる地域に知人、友人が多い	5	4	3	2	1
9. 防災への関心は高い方だと思う	5	4	3	2	1
10. 災害への不安は高い方だと思う	5	4	3	2	1
11. 共働きなので普段ゆっくりする時間がない	5	4	3	2	1
12. 何かあった時に家族には迷惑をかけたくない	5	4	3	2	1
13. すぐ助けに来てくれる人が近くに住んでいる	5	4	3	2	1
14. 何かあっても自分一人ならどうにかなると思う	5	4	3	2	1
15. 中学生以下の親戚の子供や孫の面倒をよく見ることがある	5	4	3	2	1
16. 地域において、災害時に親が帰宅できない子供を預かるといった、災害時に「助ける、助けられる(助け合いを自然にする)関係」にある人がある	5	4	3	2	1
17. 隣近所の家とは仲が良いと思う	5	4	3	2	1
18. 近所の人と関わるのはわずらわしい	5	4	3	2	1
19. 周りの人に支えられて生きていると思う	5	4	3	2	1
20. ボランティアなど社会貢献に興味がある	5	4	3	2	1

Q37 の設問について確認した。

各項目で、「極めて当てはまる」、「結構」、「ある程度」、「多少」、「全く当てはまらない」という 5 段階の順序尺度で回答しているもので、順に 5、4、3、2、1 とした。

Q37 の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が 1 以上の因子は 5 つ発生した (表 3-4-5、図 3-4-3)。

第一因子を「地域密着」・・・隣近所と仲が良い、子供の支援者が近居、近くに知人が多い

第二因子を「防災活動」・・・他人の役に立ちたい、防災への関心が高い、災害不安が高い

第三因子を「家族志向」・・・子育てで多忙、家族に迷惑をかけたくない、共働きで多忙、家族を守りたい

第四因子を「災害時に自信」・・・自分はどうにかなる、我が家は大丈夫

第五因子を「孤立要配慮者」・・・体が悪い、災害不安高い、地域とかかわりたくない

と分類した。

表 3-4-5 Q37 における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)					
				変数	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
1	5.2450	26.22%	26.22%	Q37.17_隣近所と仲がいい	0.7021	0.3087	0.0443	0.0992	-0.1044
2	1.6612	8.31%	34.53%	Q37.16_子供の支援者が近居	0.6926	0.0455	0.2850	0.0809	0.0891
3	1.5858	7.93%	42.46%	Q37.8_知人が多い	0.6898	0.2989	0.0487	0.0299	0.0342
4	1.3797	6.90%	49.36%	Q37.13_支援者が近居	0.6627	0.1261	0.1159	0.1223	0.0618
5	1.2292	6.15%	55.50%	Q37.5_近所づきあい	0.5614	0.2650	0.0119	0.1531	0.0804
6	0.9488	4.74%	60.25%	Q37.15_子供の面倒を見る	0.4350	0.0325	0.1995	0.0909	0.1090
7	0.8541	4.27%	64.52%	Q37.19_周囲に支えられている	0.3728	0.3860	0.2384	-0.0400	-0.1194
8	0.8126	4.06%	68.58%	Q37.20_社会貢献に興味	0.3192	0.5499	0.0332	0.1257	-0.0226
9	0.7914	3.96%	72.54%	Q37.9_防災関心高い	0.2814	0.6842	-0.0624	0.1528	0.2128
10	0.7187	3.59%	76.13%	Q37.7_他人の役に立ちたい	0.2404	0.6973	0.2026	0.1385	-0.1830
11	0.6794	3.40%	79.53%	Q37.1_子育てで多忙	0.2221	0.0245	0.4382	-0.0684	0.1304
12	0.6632	3.32%	82.85%	Q37.4_我が家は大丈夫	0.1658	0.0519	-0.0591	0.5600	0.0145
13	0.5915	2.96%	85.80%	Q37.2_介護で多忙	0.1471	0.0826	0.0614	0.0930	0.2213
14	0.5447	2.72%	88.53%	Q37.6_家族を守りたい	0.1235	0.4963	0.3999	0.0327	-0.0645
15	0.4702	2.35%	90.88%	Q37.14_自分はどうにかなる	0.1185	0.0760	0.1274	0.5938	0.0054
16	0.4336	2.17%	93.05%	Q37.11_共働きで多忙	0.1110	0.0631	0.4260	0.0451	0.0914
17	0.3856	1.93%	94.97%	Q37.10_災害不安高い	0.0588	0.6184	0.1046	-0.1616	0.3427
18	0.3613	1.81%	96.78%	Q37.3_体が悪い	0.0206	0.0003	0.0478	-0.0348	0.3818
19	0.3298	1.65%	98.43%	Q37.12_家族に迷惑かけたくない	-0.0310	0.3032	0.4273	0.2636	-0.0104
20	0.3142	1.57%	100.00%	Q37.18_地域とかわかりたくない	-0.3169	-0.1875	0.1794	0.2850	0.3347

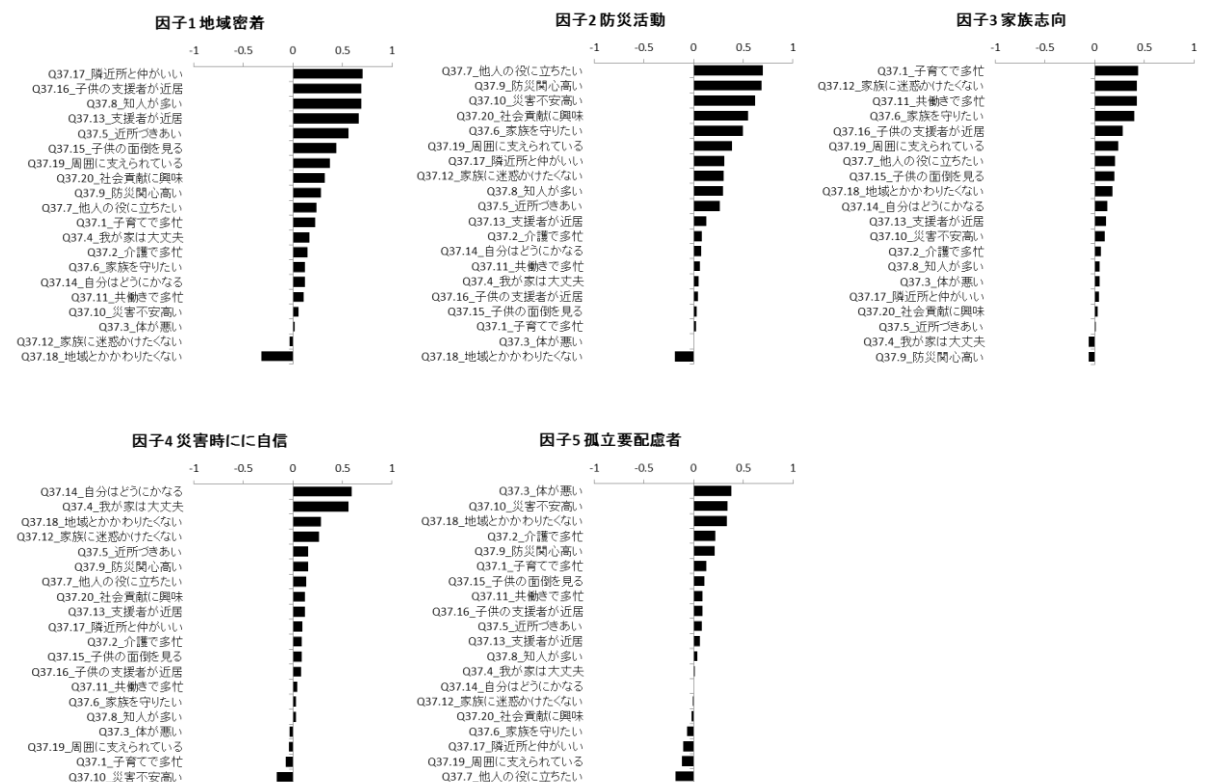


図 3-4-3 Q37 における因子負荷量行列

(5) 意識構造図作成のための回帰分析

ア 訓練参加経験有無を目的変数とした二項ロジスティック回帰

ここまでに分析した因子を用いて二項ロジスティック回帰分析を行った。用いた変数とその設定について表 3-4-6 に示す。

分析の結果、標準偏回帰係数の絶対値が大きいものから順に、地域密着、家族志向、防災活動、災害に自信、訓練は重要なイメージであった（表 3-4-7）。それぞれの相関行列は表 3-4-8 に示す。これらが、他の要素よりも強く訓練参加経験有無に影響を与えることが示唆された。

表 3-4-6 二項ロジスティック回帰分析等に用いた変数とその設定

目的変数		
訓練参加経験有無	経験ありを 1、なしを 0 とした	
説明変数		
不安感(大規模火災)	Q7	Q7-1 の値を用いた (最大値 5、最小値 1)
消防力を超える災害	Q9	Q9-12 (建物倒壊脱出不能)、Q9-16 (複数の火災)、Q9-18 (消防隊が来ない) の 3 つの値の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
自宅被災	Q9	Q9-7 (自宅が倒壊)、Q9-14 (自宅が火災) の 2 つの値の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
負傷する	Q9	Q9-1 (自身のけが)、Q9-2 (家族のけが)、Q9-3 (友人のけが) の 3 つの値の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
重要なもの	Q11	Q11-1 (自分や家族を守るために大切)、Q11-2 (地域を守るために大切)、Q11-3 (住民の義務) の 3 つの値の平均値 (最大値 5、最小値 1)
つまらなさ	Q11	Q11-5 (めんどくさい)、Q11-6 (つまらない)、Q11-8 (疲れる) の 3 つの値の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
エンターテイメント	Q11	Q11-4 (楽しい)、Q11-12 (非常食が食べられる)、Q11-13 (防災品が貰える) の 3 つの値の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
地域密着	Q37	因子 1 の因子得点を用いた (最大値 3.0、最小値-1.8)
防災活動	Q37	因子 2 の因子得点を用いた (最大値 2.8、最小値-2.1)
家族志向	Q37	因子 3 の因子得点を用いた (最大値 2.7、最小値-2.2)
災害時に自信	Q37	因子 4 の因子得点を用いた (最大値 2.6、最小値-2.0)

表 3-4-7 参加経験有無を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析結果

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性検定				偏回帰係数の95%信頼区間			オッズ比の95%信頼区間	
				Wald	自由度	P 値	判定	下限値	上限値	オッズ比	下限値	上限値
地域密着	0.6043	0.0672	0.5432	80.9634	1	0.0000	**	0.4727	0.7360	1.8300	1.6043	2.0875
防災活動	0.2839	0.0743	0.2515	14.6112	1	0.0001	**	0.1383	0.4294	1.3283	1.1483	1.5364
災害に自信	0.2560	0.0809	0.1966	10.0007	1	0.0016	**	0.0973	0.4146	1.2917	1.1022	1.5138
重要なもの	0.2210	0.0835	0.1875	7.0075	1	0.0081	**	0.0574	0.3846	1.2473	1.0591	1.4691
エンターテイメント	0.1799	0.0903	0.1304	3.9674	1	0.0464	*	0.0029	0.3568	1.1970	1.0029	1.4288
負傷する	0.0990	0.1000	0.0746	0.9789	1	0.3225		-0.0971	0.2951	1.1040	0.9075	1.3432
消防力を超える	0.0200	0.0865	0.0168	0.0534	1	0.8173		-0.1496	0.1895	1.0202	0.8611	1.2087
災害不安・大規模火災	-0.0560	0.0644	-0.0558	0.7541	1	0.3852		-0.1823	0.0703	0.9456	0.8334	1.0729
自宅被災	-0.0886	0.0975	-0.0711	0.8270	1	0.3632		-0.2796	0.1024	0.9152	0.7561	1.1078
つまらなさ	-0.1649	0.0795	-0.1418	4.2983	1	0.0381	*	-0.3207	-0.0090	0.8480	0.7256	0.9910
家族志向	-0.3424	0.0797	-0.2567	18.4459	1	0.0000	**	-0.4987	-0.1862	0.7100	0.6073	0.8301
定数項	-1.2056	0.4360		7.6471	1	0.0057	**	-2.0601	-0.3511	0.2995	0.1274	0.7039

-2対数尤度	AIC	R2乗	Cox-Snell	Nagelkerke	相関係数	誤判率
1893.6088	1917.6088	0.1042	0.1286	0.1754	0.3679	30.63%

表 3-4-8 相関行列

	災害不安	消防力を超える	自宅被災	負傷する	重要なもの	つまらなさ	エンターテイメント	地域密着	防災活動	家族志向	災害時に自信	参加有無
災害不安	1											
消防力を超える	0.372	1										
自宅被災	0.309	0.533	1									
負傷する	0.339	0.509	0.620	1								
重要なもの	0.304	0.250	0.198	0.262	1							
つまらなさ	-0.067	0.045	0.033	0.018	-0.248	1						
エンターテイメント	-0.050	-0.037	0.091	0.090	0.141	0.362	1					
地域密着	-0.065	-0.077	-0.003	0.028	0.143	-0.001	0.305	1				
防災活動	0.242	0.224	0.116	0.197	0.494	-0.206	0.071	0.108	1			
家族志向	0.135	0.122	0.133	0.171	0.151	0.154	0.021	0.072	0.084	1		
災害時に自信	-0.186	-0.083	-0.300	-0.198	-0.058	0.223	0.161	0.061	0.033	0.068	1	
参加有無	-0.012	0.002	-0.021	0.028	0.167	-0.076	0.142	0.282	0.185	-0.071	0.095	1

イ 地域密着を目的変数とした重回帰分析

表 3-4-6 の変数を用いて、地域密着を目的変数として重回帰分析を行った。結果は、表 3-4-9 に示すとおりであった。エンターテイメント性、家族志向、重要なものの関係性が強く、つまらなさ、消防力を超える災害が発生する、災害不安が負の関係性がある。

表 3-4-9 地域密着を目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定			判定	偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値		下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
エンターテイメント	0.3918	0.0333	0.3160	138.0430	11.7492	0.0000	**	0.3264	0.4572	0.3055	0.2828	0.7558	1.3230
家族志向	0.0975	0.0295	0.0813	10.9413	3.3078	0.0010	**	0.0397	0.1554	0.0725	0.0827	0.9041	1.1060
重要なもの	0.0774	0.0312	0.0730	6.1614	2.4822	0.0132	*	0.0162	0.1386	0.1434	0.0622	0.6315	1.5836
防災活動	0.0530	0.0281	0.0522	3.5668	1.8886	0.0591		-0.0020	0.1081	0.1077	0.0473	0.7145	1.3995
負傷する	0.0410	0.0378	0.0343	1.1741	1.0836	0.2787		-0.0332	0.1151	0.0277	0.0272	0.5443	1.8373
災害時に自信	0.0145	0.0306	0.0124	0.2248	0.4741	0.6355		-0.0454	0.0744	0.0608	0.0119	0.8035	1.2446
自宅被災	-0.0103	0.0369	-0.0092	0.0786	-0.2804	0.7792		-0.0827	0.0620	-0.0031	-0.0070	0.5040	1.9840
災害不安・大規模火災	-0.0702	0.0241	-0.0778	8.4417	-2.9055	0.0037	**	-0.1175	-0.0228	-0.0650	-0.0727	0.7630	1.3107
消防力を超える	-0.0884	0.0326	-0.0825	7.3617	-2.7132	0.0067	**	-0.1523	-0.0245	-0.0766	-0.0679	0.5913	1.6910
つまらなさ	-0.1082	0.0294	-0.1035	13.5230	-3.6774	0.0002	**	-0.1659	-0.0505	-0.0010	-0.0919	0.6898	1.4497
定数項	-0.1840	0.1649		1.2451	-1.1158	0.2647		-0.5075	0.1395				

重相関係数		決定係数		F 値	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.3630	0.3553	0.1317	0.1263	2.0012	-544.3326

ウ 防災活動を目的変数とした重回帰分析

表 3-4-6 の変数を用いて、防災活動（防災への関心が強いなど）を目的変数とした重回帰分析を行った。結果は、表 3-4-10 に示すとおりであった。重要なもの、消防力を超える、災害に自信、災害への不安感の影響強く、つまらなさが負の関係性が強い結果であった。

表 3-4-10 防災活動を目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定			判定	偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値		下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
重要なもの	0.4054	0.0260	0.3880	243.3164	15.5986	0.0000	**	0.3544	0.4563	0.4941	0.3645	0.7254	1.3785
消防力を超える	0.1179	0.0290	0.1117	16.5144	4.0638	0.0001	**	0.0610	0.1748	0.2236	0.1015	0.5947	1.6814
災害に自信	0.1145	0.0271	0.0992	17.8135	4.2206	0.0000	**	0.0613	0.1678	0.0339	0.1053	0.8124	1.2310
災害不安・大規模火災	0.0830	0.0215	0.0934	14.8759	3.8569	0.0001	**	0.0408	0.1252	0.2425	0.0963	0.7660	1.3054
負傷する	0.0653	0.0337	0.0556	3.7515	1.9369	0.0529		-0.0008	0.1315	0.1964	0.0485	0.5452	1.8343
エンターテイメント	0.0609	0.0310	0.0499	3.8611	1.9650	0.0496	*	0.0001	0.1218	0.0708	0.0492	0.6971	1.4346
地域密着	0.0423	0.0224	0.0429	3.5668	1.8886	0.0591		-0.0016	0.0862	0.1077	0.0473	0.8702	1.1491
家族志向	0.0106	0.0264	0.0090	0.1617	0.4022	0.6876		-0.0412	0.0624	0.0840	0.0101	0.8980	1.1136
自宅被災	-0.0604	0.0329	-0.0547	3.3624	-1.8337	0.0669		-0.1250	0.0042	0.1158	-0.0460	0.5051	1.9799
つまらなさ	-0.1541	0.0261	-0.1496	34.8574	-5.9040	0.0000	**	-0.2053	-0.1029	-0.2064	-0.1466	0.6990	1.4306
定数項	-1.9998	0.1385		208.3402	-14.4340	0.0000	**	-2.2716	-1.7280				

重相関係数		決定係数		F 値	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.5358	0.5316	0.2871	0.2826	2.0322	-905.8463

エ 災害時に自信がある意識を目的変数とした重回帰分析

表 3-4-6 の変数を用いて、災害時に自信がある意識を目的変数とした重回帰分析を行った。結果は、表 3-4-11 に示すとおりであった。つまらなさ、消防力を超える、エンターテイメント、防災活動、家族志向が影響強く、自宅が被災するイメージや災害への不安感が負の関係性が強い結果であった。

表 3-4-11 災害時に自信がある意識を目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
つまらなさ	0.1657	0.0239	0.1857	48.0533	6.9320	0.0000	**	0.1188	0.2126	0.2234	0.1714	0.7047	1.4191
消防力を超える	0.1302	0.0266	0.1424	23.9412	4.8930	0.0000	**	0.0780	0.1824	-0.0816	0.1219	0.5975	1.6737
エンターテイメント	0.1248	0.0284	0.1179	19.3315	4.3968	0.0000	**	0.0691	0.1804	0.1619	0.1097	0.7038	1.4208
防災活動	0.0968	0.0229	0.1118	17.8135	4.2206	0.0000	**	0.0518	0.1418	0.0339	0.1053	0.7209	1.3871
家族志向	0.0864	0.0242	0.0844	12.7438	3.5698	0.0004	**	0.0389	0.1338	0.0682	0.0892	0.9051	1.1048
地域密着	0.0098	0.0206	0.0114	0.2248	0.4741	0.6355		-0.0306	0.0502	0.0608	0.0119	0.8684	1.1516
重要なもの	-0.0085	0.0257	-0.0094	0.1097	-0.3313	0.7405		-0.0588	0.0418	-0.0567	-0.0083	0.6291	1.5896
負傷する	-0.0693	0.0310	-0.0681	4.9944	-2.2348	0.0256	*	-0.1301	-0.0085	-0.1972	-0.0560	0.5456	1.8328
災害不安・大規模火災	-0.1005	0.0197	-0.1305	25.9574	-5.0948	0.0000	**	-0.1392	-0.0618	-0.1865	-0.1268	0.7713	1.2965
自宅被災	-0.3172	0.0292	-0.3316	117.6727	-10.8477	0.0000	**	-0.3746	-0.2599	-0.2990	-0.2627	0.5414	1.8472
定数項	0.5126	0.1349		14.4439	3.8005	0.0001	**	0.2480	0.7772				

重相関係数		決定係数			
R	修正R	R2乗	修正R2乗	ガベントツク比	AIC
0.4435	0.4377	0.1967	0.1916	2.1072	-1174.325

オ 重要なものを目的変数とした重回帰分析

表 3-4-6 の変数を用いて重要なものであるというイメージを目的変数とした重回帰分析を行った。結果は、表 3-4-12 に示すとおりであった。自宅が被災する、災害時に自信がある以外の因子との関連性があった。

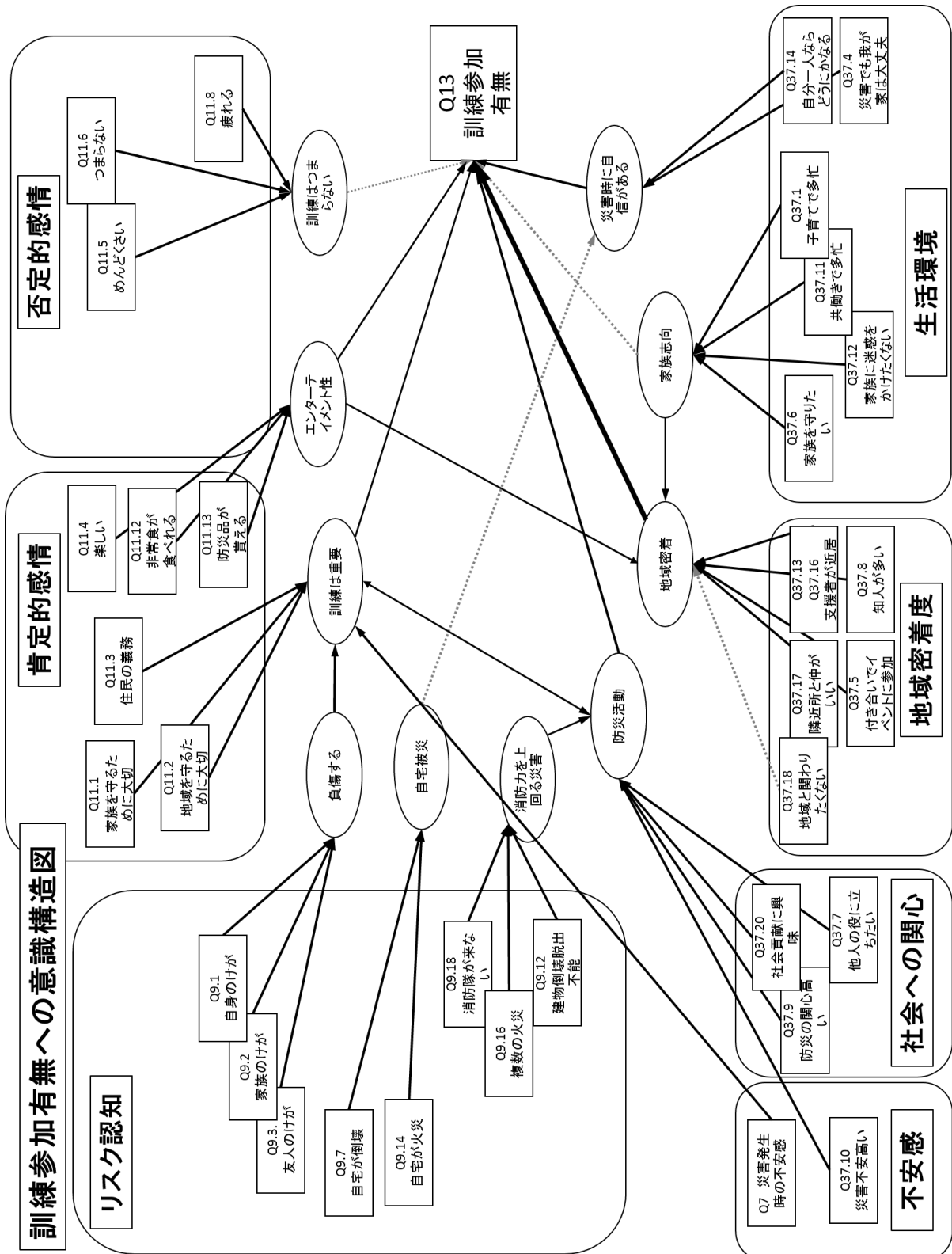
表 3-4-12 重要なものを目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
防災活動	0.3278	0.0210	0.3424	243.3164	15.5986	0.0000	**	0.2865	0.3690	0.4941	0.3645	0.8222	1.2163
エンターテイメント	0.2327	0.0273	0.1989	72.6313	8.5224	0.0000	**	0.1791	0.2862	0.1405	0.2091	0.7272	1.3752
災害不安・大規模火災	0.1227	0.0192	0.1441	40.8141	6.3886	0.0000	**	0.0850	0.1603	0.3045	0.1583	0.7784	1.2846
家族志向	0.1285	0.0235	0.1136	29.8238	5.4611	0.0000	**	0.0824	0.1747	0.1513	0.1358	0.9148	1.0931
消防力を超える	0.1000	0.0261	0.0990	14.6950	3.8334	0.0001	**	0.0489	0.1512	0.2497	0.0958	0.5941	1.6833
負傷する	0.0698	0.0303	0.0621	5.3052	2.3033	0.0214	*	0.0104	0.1293	0.2613	0.0577	0.5457	1.8325
地域密着	0.0499	0.0201	0.0529	6.1614	2.4822	0.0132	*	0.0105	0.0894	0.1434	0.0622	0.8716	1.1473
自宅被災	-0.0046	0.0296	-0.0043	0.0237	-0.1539	0.8777		-0.0627	0.0536	0.1976	-0.0039	0.5040	1.9840
災害に自信	-0.0081	0.0245	-0.0074	0.1097	-0.3313	0.7405		-0.0563	0.0400	-0.0567	-0.0083	0.8034	1.2447
つまらなさ	-0.2572	0.0228	-0.2608	126.8246	-11.2616	0.0000	**	-0.3019	-0.2124	-0.2480	-0.2720	0.7386	1.3539
定数項	2.6810	0.1142		551.6214	23.4866	0.0000	**	2.4571	2.9049				

重相関係数		決定係数			
R	修正R	R2乗	修正R2乗	ガベントツク比	AIC
0.6091	0.6058	0.3709	0.3670	2.0210	-1245.663

(6) 訓練参加経験有無への意識構造図

これまでの回帰分析をもとに訓練参加有無への意識構造図を図 3-4-4 のように作成した。参加有無へは、地域密着が一番強く関係し、防災活動（防災の関心が高いなど）、災害時に自信がある、訓練は重要であるイメージが効いており、家族志向であることは負の関係性があった。



※ 線矢印はプラスに、点線矢印はマイナスに効いていることを示す。

図 3-4-4 訓練参加有無への意識構造図

2 防火防災訓練参加意向有無別による意識構造

訓練参加経験がない人のうち、参加意向がある人と参加意向がない人では何が異なるのか、どのような特徴があるのかを明らかにすることを目的に分析した。

手法としては前1と同様に、各設問において因子分析を実施し、いくつかの因子を取り出した。さらに、その因子得点等を用いて参加意向有無への二項ロジスティック回帰分析を行い、その分析で他の要素よりも強く訓練参加意向有無に影響を与える要素と他要素との関係を重回帰分析で整理した。用いた設問について表3-4-13にまとめた。

なお、全ての因子分析はエクセル統計2012を用いて、因子の推定法は最尤法、因子の回転は直交回転バリマックス法で行った。

表3-4-13 分析に用いた設問と分析方法

設問番号	設問内容
Q7	災害への不安感
Q9	自宅周辺災害発生リスク
Q10	身に着けたい技術・知識
Q11	訓練のイメージ
Q37	生活に関する意識

(1) 災害への不安感

Q7.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が発生し以下のことが身の回りで発生したとします。以下のことはそれぞれ不安または心配に感じますか。それぞれもっとも当てはまると思う番号を一つ選択してください。					
	5	4	3	2	1
1.大規模な火災	5	4	3	2	1
2.建物の倒壊	5	4	3	2	1
3.倒壊した建物などによる閉じ込め	5	4	3	2	1
4.通信・電気・ガス・水道などのライフラインが停止	5	4	3	2	1
5.避難場所への行き方が分からない	5	4	3	2	1
6.けが人が多数発生し、救急車や病院の対応が間に合わない	5	4	3	2	1
7.自宅内で家具が転倒したり、ガラスが割れ飛び散る	5	4	3	2	1
8.電話網が輻輳(回線がパンクすること)して、119番通報が繋がらないこと	5	4	3	2	1

Q7「東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が発生し、身の回りで災害が発生したと仮定した場合の不安」についての設問について確認した。

各項目で、「すごく不安である」、「結構不安である」、「ある程度不安である」、「多少不安である」、「全く不安でない」という5段階の順序尺度で回答しているので、順に5、4、3、2、1とした。

訓練未経験者だけを対象にQ7の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子は1つであった(表3-4-14)。

そのため、全8項目の回答の平均値を合成変数として用いることとした。

表 3-4-14 訓練未経験者を対象とした Q7 における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)	
				変数	因子1
1	5.0382	62.98%	62.98%	Q7.3_建物倒壊脱出不能	0.8845
2	0.7740	9.68%	72.65%	Q7.2_建物倒壊	0.8756
3	0.6584	8.23%	80.88%	Q7.1_大規模火災	0.8035
4	0.4620	5.77%	86.66%	Q7.6_医療の混乱	0.7975
5	0.3771	4.71%	91.37%	Q7.7_自宅内で家具が転倒	0.7304
6	0.2802	3.50%	94.87%	Q7.8_119番通報がパニック	0.6921
7	0.2754	3.44%	98.32%	Q7.4_ライフライン停止	0.6615
8	0.1347	1.68%	100.00%	Q7.5_避難場所への行き方	0.5641

(2) 自宅周辺での災害発生リスク認知

Q9.東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きた時、あなたは、ご自宅やご近所で次のことが起こる可能性があると思いますか。下記の項目について最も近いと思う一つ番号を選んでください

	必ず起きると思う	起きる可能性が結構高いと思う	起きる可能性が ある程度高いと思う	起きる可能性が 低いと思う	起きないと思う
1.あなた自身がけがをする	5	4	3	2	1
2.家族がけがをする	5	4	3	2	1
3.友人や知人がけがをする	5	4	3	2	1
4.たくさんのけが人が発生する	5	4	3	2	1
5.救急車を呼んだがいつまで待っても来ない	5	4	3	2	1
6.近所の病院が被災している	5	4	3	2	1
7.ご自宅が倒壊する	5	4	3	2	1
8.自宅内の家具が倒れたり、物が落ちてきたりする	5	4	3	2	1
9.倒れた家具などによりけがをする	5	4	3	2	1
10.家屋の倒壊が発生する	5	4	3	2	1
11.建物などの倒壊により道路がふさがれる	5	4	3	2	1
12.家屋の倒壊により脱出できない人が発生する	5	4	3	2	1
13.いたる所で建物が倒壊し脱出できない人が複数いる	5	4	3	2	1
14.ご自宅が火事になる	5	4	3	2	1
15.近所で火事が発生する	5	4	3	2	1
16.火災が複数発生する	5	4	3	2	1
17.10棟以上燃えるような大火災が発生する	5	4	3	2	1
18.消防隊を呼んだがいつまで待っても来ない	5	4	3	2	1
19.119番通報が繋がらない	5	4	3	2	1
20.避難所での生活を余儀なくされる	5	4	3	2	1

Q9「東京のどこかで直下型地震等の大きな地震が起きたとき、自宅周辺でどのようなことが発生すると思うか」という設問に対して確認した。

各項目で、必ず起きると思う、起きる可能性が結構高いと思う、ある程度高いと思う、起きる可能性が低いと思う、起きないと思うという5段階の順序尺度で回答しているのので、順に5、4、3、2、1とした。

訓練未経験者だけを対象に Q9 の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子が3つ抽出された(表 3-4-15、図 3-4-5)。

第一因子を、「消防力を超える災害が起きる」・・・建物倒壊脱出不能、脱出不能多数、道路閉塞、複数の火災、大規模火災

第二因子を、「負傷する」・・・自身のけが、家具転倒によりけが、家族のけが、自宅が倒壊、友人のけが

第三因子を、「公共機関の喪失」・・・救急車が来ない、119番通報が不通、複数のけが人、病院が被災

というように分類した。

表 3-4-15 訓練未経験者だけを対象とした Q9 における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)			
				変数	因子1	因子2	因子3
1	10.8609	54.30%	54.30%	Q9.12_建物倒壊脱出不能	0.8064	0.2967	0.3367
2	1.9954	9.98%	64.28%	Q9.13_脱出不能多数	0.8014	0.3110	0.3243
3	1.1932	5.97%	70.25%	Q9.11_道路閉塞	0.8002	0.2938	0.2846
4	0.8052	4.03%	74.27%	Q9.16_複数の火災	0.7135	0.2302	0.3872
5	0.7487	3.74%	78.02%	Q9.17_大規模火災	0.6867	0.2130	0.3800
6	0.6038	3.02%	81.04%	Q9.18_消防隊が来ない	0.6181	0.1396	0.5972
7	0.4797	2.40%	83.43%	Q9.10_家屋倒壊	0.5744	0.3875	0.1830
8	0.4225	2.11%	85.55%	Q9.15_近所で火災	0.5507	0.4272	0.2747
9	0.3881	1.94%	87.49%	Q9.19_119番通報が不通	0.4904	0.1549	0.6407
10	0.3698	1.85%	89.34%	Q9.20_避難所生活	0.4812	0.4030	0.3972
11	0.3133	1.57%	90.90%	Q9.4_複数のけが人	0.4127	0.3454	0.6229
12	0.2961	1.48%	92.38%	Q9.6_病院が被災	0.3692	0.3455	0.5998
13	0.2829	1.41%	93.80%	Q9.5_救急来ない	0.3612	0.2094	0.7858
14	0.2532	1.27%	95.06%	Q9.14_自宅が火災	0.3408	0.6208	0.0670
15	0.2299	1.15%	96.21%	Q9.8_自宅で家具が転倒	0.3201	0.5819	0.1672
16	0.1979	0.99%	97.20%	Q9.9_家具転によるけが	0.2793	0.6998	0.1255
17	0.1603	0.80%	98.00%	Q9.7_自宅が倒壊	0.2327	0.6386	0.0381
18	0.1515	0.76%	98.76%	Q9.3_友人のけが	0.1749	0.6209	0.4261
19	0.1440	0.72%	99.48%	Q9.1_自身のけが	0.1571	0.7591	0.2946
20	0.1038	0.52%	100.00%	Q9.2_家族のけが	0.0649	0.6765	0.2558

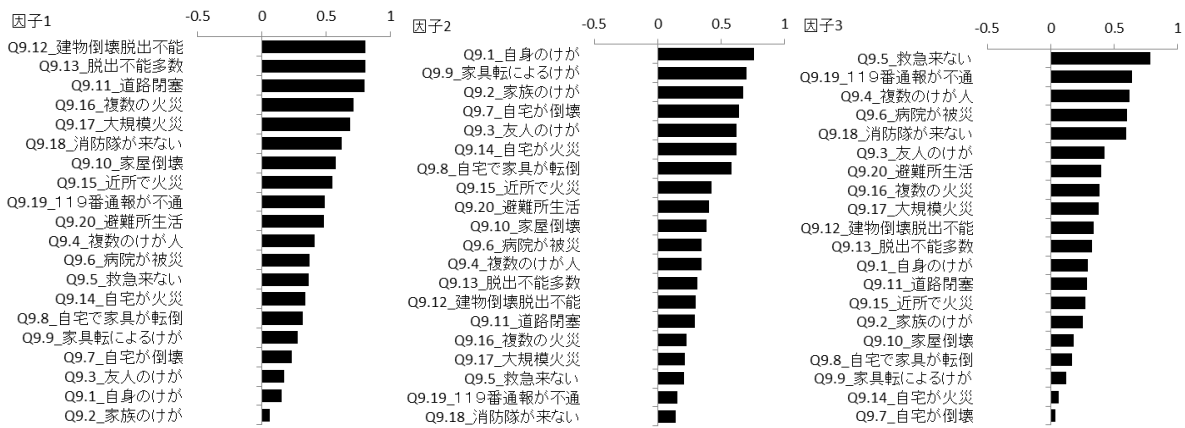


図 3-4-5 訓練未経験者だけを対象とした Q9 における因子負荷量行列

(3) 習得意向防災知識

Q10.あなたが身に付けておきたいと思う防災に関する技術・知識は次のうちどれですか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。	必ず身に付けておきたい					できれば身に付けておきたい					ある程度身に付けておきたい					多少身に付けておきたい					身に付けておきたいとは思わない				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1.必要な備蓄品についての知識	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2.地震により火災が起きた時の対応	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3.閉じ込められたり、下敷きになった人の救出方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4.けがや、やけどの応急手当の具体的な方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5.心肺蘇生の方法やAEDの使い方	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6.家具の転倒・落下・移動防止対策の具体的な方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7.緊急地震速報を受けた時や、地震の揺れを感じた時の身の安全の回り方	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8.避難場所までの安全な避難の方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9.119番通報の具体的なやり取りの方法	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10.地震発生から時間の流れに沿って何が起こるか分かる知識	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Q10「身に付けておきたい防災に関する技術・知識」についての設問について確認した。

各項目で、「必ず身に付けておきたい」、「できれば」、「ある程度」、「多少」、「身に付けておきたいとは思わない」という5段階の順序尺度で回答しているため、順に5、4、3、2、1とした。

訓練未経験者だけを対象に Q10 の全項目を用いて因子分析を実施した結果、

固有値が1以上の因子は1つであった（表3-4-16）。

そのため、全10項目の回答の平均値を合成変数として分析を行った。

表3-4-16 訓練未経験者だけを対象としたQ10における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率
1	6.6460	66.46%	66.46%
2	0.7528	7.53%	73.99%
3	0.6754	6.75%	80.74%
4	0.4115	4.12%	84.86%
5	0.3377	3.38%	88.23%
6	0.3092	3.09%	91.33%
7	0.2701	2.70%	94.03%
8	0.2170	2.17%	96.20%
9	0.2064	0.0206	98.26%
10	0.1739	0.0174	100.00%

因子負荷量行列（回転後）	
変数	因子1
Q10.7_身体防護訓練	0.8708
Q10.9_通報訓練	0.8105
Q10.6_家具転の方法	0.8095
Q10.8_安全な避難方法	0.7994
Q10.10_何が起こるかわかる	0.7974
Q10.2_火災発生時の対応	0.7964
Q10.3_建物からの救助	0.7906
Q10.4_けがの手当て	0.7895
Q10.5_心肺蘇生	0.7371
Q10.1_必要な備蓄品の知識	0.7115

(4) 防火防災訓練のイメージ

Q11.防火防災訓練についてお伺いします。(学校が実施する避難訓練や、職場が実施する火災を想定した自衛消防訓練は除きます。)
あなたは地域で行われる防火防災訓練に対しどのようなイメージをお持ちですか。下記の項目についてそれぞれ最も近いと思う番号を一つ選んでください。

	とてもそう思う	結構そう思う	ある程度そう思う	多少そう思う	全くそう思わない
1.自分や家族を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
2.地域を守るために大切なものだ	5	4	3	2	1
3.住民にとっての義務だ	5	4	3	2	1
4.楽しいものだ	5	4	3	2	1
5.面倒くさいものだ	5	4	3	2	1
6.つまらないものだ	5	4	3	2	1
7.意味のないものだ	5	4	3	2	1
8.疲れるものだ	5	4	3	2	1
9.参加してもしょうがないものだ	5	4	3	2	1
10.毎回同じようなことしかやっていない	5	4	3	2	1
11.「訓練」という名前が、厳しい気がする	5	4	3	2	1
12.非常食や炊き出しが食べられる	5	4	3	2	1
13.防災用品などが買える	5	4	3	2	1
14.防火防災訓練を実施することで、実際の災害時に役に立つと思う	5	4	3	2	1

Q11「防火防災訓練のイメージ」の設問に対して確認した。

各項目で、「とてもそう思う」、「結構」、「ある程度」、「多少」、「全くそう思わない」という5段階の順序尺度で回答しているので、順に5、4、3、2、1とした。

訓練未経験者だけを対象にQ11の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子は3つであった(表3-4-17、図3-4-6)。

第一因子を、「重要なもの」・・・地域を守るために大切、自分や家族を守るために大切、住民の義務、役に立つ、しょうがい(-)、意味がない(-)

第二因子を、「つまらなさ」・・・つまらない、面倒、疲れる、同じことをやっている、しょうがない

第三因子を、「エンターテイメント性」・・・非常食が食べられる、防災品がもらえる、楽しい

というように分類した。

表3-4-17 訓練未経験者だけを対象としたQ11における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列(回転後)			
				変数	因子1	因子2	因子3
1	4.3019	30.73%	30.73%	Q11.2地域を守るため大切	0.9314	-0.0914	0.0326
2	3.0270	21.62%	52.35%	Q11.1 自分や家族を守るため大切	0.8784	-0.1176	0.0303
3	1.5606	11.15%	63.50%	Q11.3 住民の義務	0.7685	-0.1089	0.1418
4	0.9029	6.45%	69.95%	Q11.14 役に立つ	0.5361	-0.0825	0.0797
5	0.7129	5.09%	75.04%	Q11.13 防災品がもらえる	0.1716	0.0598	0.6910
6	0.6016	4.30%	79.33%	Q11.4 楽しい	0.1415	0.0863	0.5619
7	0.5746	4.10%	83.44%	Q11.12 非常食が食べれる	0.1266	0.0616	0.7119
8	0.5409	3.86%	87.30%	Q11.8 疲れる	0.0110	0.6871	0.1461
9	0.4451	3.18%	90.48%	Q11.5 めんどくさい	-0.0684	0.8299	-0.0089
10	0.3490	2.49%	92.97%	Q11.11 厳しい	-0.0964	0.3488	0.4403
11	0.3042	2.17%	95.15%	Q11.6 つまらない	-0.1231	0.8318	0.0761
12	0.2753	1.97%	97.11%	Q11.10 同じこと	-0.1448	0.5226	0.1879
13	0.2459	1.76%	98.87%	Q11.7 意味がない	-0.3142	0.4294	0.4984
14	0.1582	1.13%	100.00%	Q11.9 しょうがない	-0.3194	0.5210	

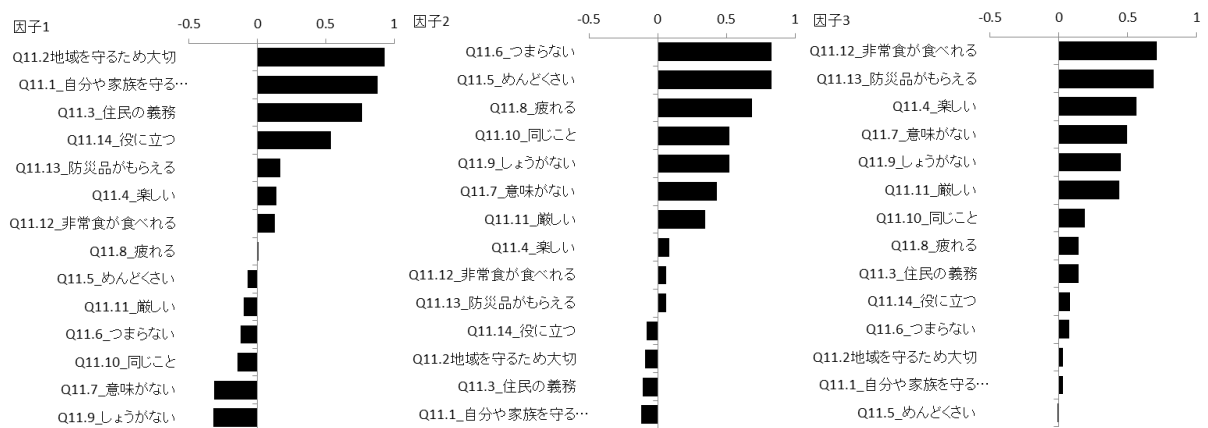


図 3-4-6 訓練未経験者だけを対象とした Q11 における因子負荷量行列

(5) 生活に関する意識

Q37. 以下のそれぞれの項目について、あなたが当てはまると思う項目の番号一つ選択してください。

	極めて当てはまる	結構当てはまる	ある程度当てはまる	多少当てはまる	全く当てはまらない
1. 子育てで忙しい	5	4	3	2	1
2. 介護をしていて忙しい	5	4	3	2	1
3. 体の調子が悪く、病気がちである	5	4	3	2	1
4. 災害があっても我が家は大丈夫だと思う	5	4	3	2	1
5. 近所の付き合いでイベントに参加することがある	5	4	3	2	1
6. 家族を守りたいという意識が強い	5	4	3	2	1
7. 非常時には地域や他人のために役に立ちたいと思う	5	4	3	2	1
8. いま住んでいる地域に知人、友人が多い	5	4	3	2	1
9. 防災への関心は高い方だと思う	5	4	3	2	1
10. 災害への不安は高い方だと思う	5	4	3	2	1
11. 共働きなので普段ゆっくりする時間がない	5	4	3	2	1
12. 何かあった時に家族には迷惑をかけたくない	5	4	3	2	1
13. すぐ助けに来てくれる人が近くに住んでいる	5	4	3	2	1
14. 何かあっても自分一人ならどうにかなると思う	5	4	3	2	1
15. 中学生以下の親戚の子供や孫の面倒をよく見ることがある	5	4	3	2	1
16. 地域において、災害時に親が帰宅できない子供を預かるといった、災害時に「助ける、助けられる(助け合いを自然にする)関係」にある人がいる	5	4	3	2	1
17. 隣近所の家とは仲が良いと思う	5	4	3	2	1
18. 近所の人と関わるのはわずらわしい	5	4	3	2	1
19. 周りの人に支えられて生きていると思う	5	4	3	2	1
20. ボランティアなど社会貢献に興味がある	5	4	3	2	1

Q37 の設問について確認した。

各項目で、「極めて当てはまる」、「結構」、「ある程度」、「多少」、「全く当てはまらない」という 5 段階の順序尺度で回答しているので、順に 5、4、3、2、1 とした。

訓練未経験者だけを対象に Q37 の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が 1 以上の因子は 6 つ発生した (表 3-4-18、図 3-4-7)。

第一因子を「地域密着」・・・子供の支援者が近居、近所に助けてもらえる、近くに知人が多い、隣近所と仲が良い

第二因子を「防災活動」・・・災害への不安が高い、防災への関心が高い

第三因子を「社会貢献」・・・他人の役に立ちたい、地域とかかわりたくない (一)

第四因子を「家族優先」・・・家族を守りたい、家族に迷惑をかけたくない、共働きで多忙、子育てで多忙

第五因子を「災害時に自信がある」・・・自分一人ならどうにかなる、災害でも我が家は大丈夫

第六因子を「体が悪い」・・・体が悪い
と分類した。

表 3-4-18 訓練未経験者だけを対象とした Q37 における因子の固有値と因子負荷量行列

因子	固有値	寄与率	累積寄与率	因子負荷量行列 (回転後)						
				変数	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
1	4.8897	24.45%	24.45%	Q37.16_子供の支援者が近居	0.7249	0.0303	0.0781	0.1968	0.0736	0.0347
2	1.7647	8.82%	33.27%	Q37.13_支援者が近居	0.6806	0.1095	0.1251	0.0813	0.0875	0.0167
3	1.5699	7.85%	41.12%	Q37.8_知人が多い	0.6237	0.1712	0.2827	0.1082	0.0473	0.1182
4	1.2982	6.49%	47.61%	Q37.17_隣近所と仲がいい	0.5410	0.1257	0.4607	0.0840	0.1360	0.1333
5	1.2695	6.35%	53.96%	Q37.5_近所づきあい	0.4633	0.0631	0.2601	0.1125	0.1712	0.2419
6	1.0231	5.12%	59.07%	Q37.15_子供の面倒を見る	0.4592	0.0686	-0.0182	0.1194	0.0647	0.0334
7	0.8634	4.32%	63.39%	Q37.1_子育てで多忙	0.2632	-0.0100	0.0173	0.4157	-0.0832	0.0200
8	0.8353	4.18%	67.57%	Q37.19_周囲に支えられている	0.2347	0.1796	0.4120	0.2905	-0.0367	0.0616
9	0.8092	4.05%	71.61%	Q37.9_防災関心高い	0.2207	0.6894	0.1696	0.0576	0.1867	0.0565
10	0.7339	3.67%	75.28%	Q37.20_社会貢献に興味	0.1570	0.3823	0.4342	0.1215	0.1675	0.0628
11	0.7084	3.54%	78.83%	Q37.11_共働きで多忙	0.1318	0.0158	-0.0094	0.4369	0.0295	0.0217
12	0.6536	3.27%	82.09%	Q37.4_我が家は大丈夫	0.1251	-0.0200	0.0243	-0.0111	0.5208	0.1131
13	0.6259	3.13%	85.22%	Q37.14_自分はどうにかなる	0.1221	0.0794	-0.0804	0.1324	0.6786	-0.0867
14	0.5471	2.74%	87.96%	Q37.2_介護で多忙	0.1202	0.0311	0.0620	0.0617	0.1339	0.4190
15	0.4853	2.43%	90.39%	Q37.6_家族を守りたい	0.1063	0.3101	0.2231	0.4915	0.0490	-0.0077
16	0.4490	2.25%	92.63%	Q37.10_災害不安高い	0.0838	0.7609	0.0140	0.1937	-0.1781	0.1590
17	0.4170	2.08%	94.72%	Q37.7_他人の役に立ちたい	0.0721	0.4249	0.5095	0.3953	0.2141	-0.0462
18	0.4049	2.02%	96.74%	Q37.3_体が悪い	0.0322	0.0802	-0.0721	-0.0083	-0.0742	0.4998
19	0.3407	1.70%	98.44%	Q37.12_家族に迷惑かけたくない	0.0106	0.1992	0.0794	0.4857	0.2419	0.0671
20	0.3114	1.56%	100.00%	Q37.18_地域とかかわりたくない	-0.1446	0.0187	-0.5111	0.0635	0.2204	0.1050

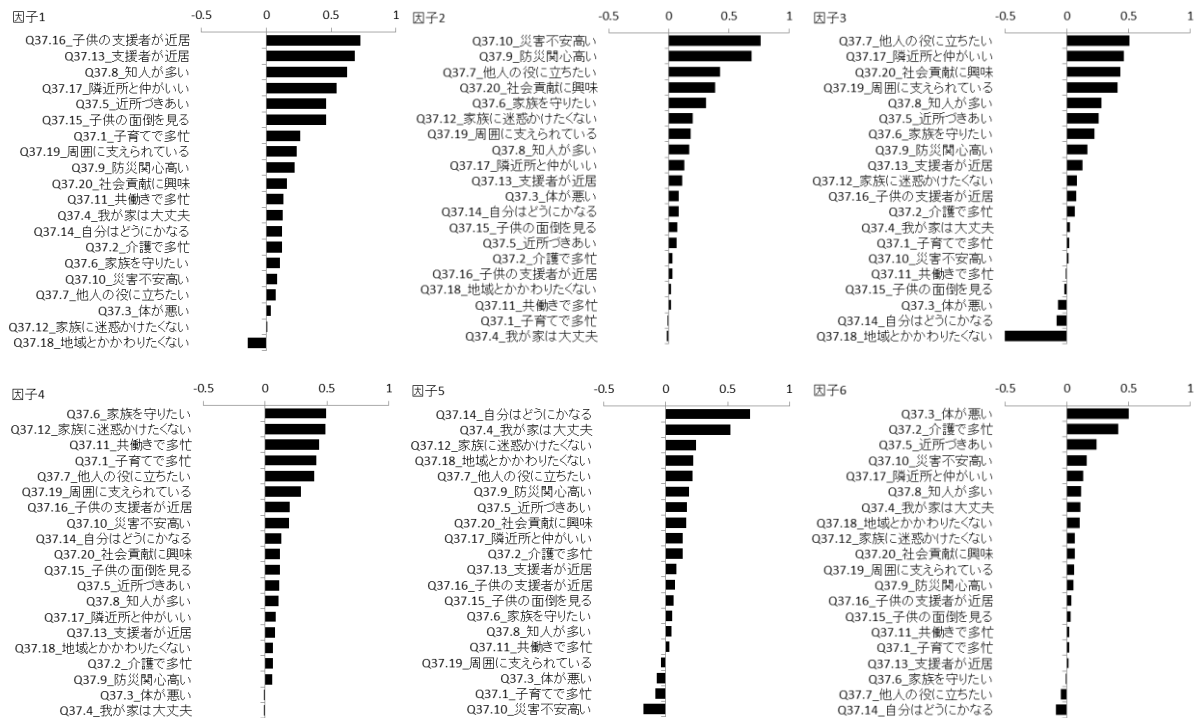


図 3-4-7 訓練未経験者だけを対象とした Q37 における因子負荷量行列

(6) 意識構造図作成のための回帰分析

ア 訓練参加意向を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析

ここまでに分析した因子を説明変数とし、訓練参加意向を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析を行った。用いた変数とその設定について表 3-4-19 に示す。

分析の結果、標準偏回帰係数の絶対値が大きいものから順に、訓練は重要なイメージ、訓練はつまらないイメージ、身に着けておきたい防災技術・知識がある、社会貢献であった（表 3-4-20）。それぞれの相関行列は表 3-4-21 に示す。これらが、他の要素よりも強く訓練参加意向有り、無しに影響を与えることが示唆された。

表 3-4-19 二項ロジスティック回帰分析に用いた変数とその設定

目的変数		
訓練参加意向	意向ありを 1、なしを 0 とした	
説明変数		
不安感	Q7	全 8 項目の平均値を用いた（最大値 5、最小値 1 の連続値）
負傷するリスク認知	Q9	因子 2 の因子得点を用いた（最大値 2.4、最小値-3.3 の連続値）
身に着けておきたい	Q10	全 10 項目の平均値を用いた（最大値 5、最小値 1.1 の連続値）
重要なもの	Q11	因子 1 の因子得点を用いた（最大値 1.9、最小値-3.1 の連続値）
つまらなさ	Q11	因子 2 の因子得点を用いた（最大値 2.6、最小値-1.8 の連続値）
地域密着	Q37	因子 1 の因子得点を用いた（最大値 3.3、最小値-1.5 の連続値）
防災活動	Q37	因子 2 の因子得点を用いた（最大値 2.4、最小値-1.9 の連続値）
社会貢献	Q37	因子 3 の因子得点を用いた（最大値 2.7、最小値-2.6 の連続値）
家族志向	Q37	因子 4 の因子得点を用いた（最大値 2.5、最小値-1.7 の連続値）
災害時に自信	Q37	因子 5 の因子得点を用いた（最大値 2.3、最小値-1.9 の連続値）

表 3-4-20 参加意向有無を目的変数とした二項ロジスティック回帰分析結果

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性検定			偏回帰係数の95%信頼区間			オッズ比の95%信頼区間		
				Wald	自由度	P 値	判定	下限値	上限値	オッズ比	下限値	上限値
重要なもの	0.7638	0.1273	0.7338	36.0198	1	0.0000	**	0.5144	1.0133	2.1465	1.6726	2.7546
身に着けておきたい	0.5897	0.1579	0.4511	13.9522	1	0.0002	**	0.2803	0.8991	1.8034	1.3235	2.4574
社会貢献	0.3388	0.1351	0.2666	6.2896	1	0.0121	*	0.0740	0.6036	1.4033	1.0768	1.8287
地域密着	0.1657	0.1237	0.1446	1.7944	1	0.1804		-0.0767	0.4081	1.1802	0.9261	1.5039
防災活動	0.1244	0.1318	0.1066	0.8906	1	0.3453		-0.1339	0.3826	1.1324	0.8747	1.4661
負傷	0.0282	0.1201	0.0259	0.0550	1	0.8146		-0.2072	0.2635	1.0286	0.8129	1.3015
家族優先	-0.0058	0.1403	-0.0043	0.0017	1	0.9672		-0.2808	0.2693	0.9942	0.7551	1.3090
災害時に自信	-0.0875	0.1358	-0.0701	0.4147	1	0.5196		-0.3536	0.1787	0.9163	0.7021	1.1957
不安感	-0.1582	0.1426	-0.1333	1.2305	1	0.2673		-0.4377	0.1213	0.8537	0.6455	1.1290
つまらなさ	-0.6872	0.1120	-0.6362	37.6223	1	0.0000	**	-0.9067	-0.4676	0.5030	0.4038	0.6265
定数項	0.4580	0.6712		0.4655	1	0.4951		-0.8576	1.7735	1.5809	0.4242	5.8917

-2対数尤度	AIC	R2乗	Cox-Snell	Nagelkerke	相関係数	誤判別率
714.0486	736.0486	0.2258	0.1875	0.3119	0.4887	14.46%

表 3-4-21 相関行列

	不安感	負傷	身に着けておきたい	重要なもの	つまらなさ	地域密着	防災活動	社会貢献	家族優先	防災に自信	参加希望
不安感	1										
負傷	0.402	1									
身に着けておきたい	0.491	0.290	1								
重要なもの	0.375	0.231	0.561	1							
つまらなさ	-0.008	-0.012	-0.012	-0.033	1						
地域密着	-0.063	0.056	0.020	0.041	0.027	1					
防災活動	0.349	0.167	0.417	0.384	-0.090	0.012	1				
社会貢献	0.040	0.041	0.191	0.262	-0.249	0.140	0.114	1			
家族優先	0.254	0.130	0.294	0.331	0.066	0.076	0.159	0.118	1		
防災に自信	-0.240	-0.293	-0.098	-0.053	0.152	0.064	0.007	0.014	0.087	1	
参加希望	0.130	0.109	0.291	0.347	-0.245	0.054	0.178	0.227	0.107	-0.077	1

イ 訓練は重要なものというイメージを目的変数とした重回帰分析

訓練が重要なもの、訓練はつまらない、身に着けておきたい防災技術・知識がある、社会貢献という参加意向有無に強く影響を与える要素を目的変数とした重回帰分析を行った。変数の設定は表 3-4-22 に示すとおりである。

表 3-4-22 重回帰分析に用いた変数とその設定

目的変数及び説明変数		
重要なもの	Q11	因子 1 の因子得点を用いた (最大値 1.9、最小値-3.1)
つまらなさ	Q11	因子 2 の因子得点を用いた (最大値 2.6、最小値-1.8)
身に着けておきたい	Q10	全 10 項目の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1.1)
社会貢献	Q37	因子 3 の因子得点を用いた (最大値 2.7、最小値-2.6)
説明変数		
不安感	Q7	全 8 項目の平均値を用いた (最大値 5、最小値 1)
消防力を超える	Q9	因子 1 の因子得点を用いた (最大値 2.2、最小値-3.0)
負傷する	Q9	因子 2 の因子得点を用いた (最大値 2.4、最小値-3.3)
公共機関の喪失	Q9	因子 3 の因子得点を用いた (最大値 2.6、最小値-2.9)
エンターテイメント	Q11	因子 3 の因子得点を用いた (最大値 4.1、最小値-1.5)
地域密着	Q37	因子 1 の因子得点を用いた (最大値 3.3、最小値-1.5)
防災活動	Q37	因子 2 の因子得点を用いた (最大値 2.4、最小値-1.9)
家族志向	Q37	因子 4 の因子得点を用いた (最大値 2.5、最小値-1.7)
災害時に自信	Q37	因子 5 の因子得点を用いた (最大値 2.3、最小値-1.9)

訓練は重要なものという因子を目的変数とした場合の重回帰分析結果は、表 3-4-23 に示すとおりであった。身に着けておきたい防災技術・知識がある、防災活動、社会貢献、家族志向、不安感という要素が重要なものに影響を強く与えることが示唆された。

表 3-4-23 訓練が重要なものを目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
身に着けておきたい	0.4706	0.0398	0.3748	139.8944	11.8277	0.0000	**	0.3926	0.5487	0.5609	0.3519	0.6055	1.6515
家族志向	0.2000	0.0341	0.1567	34.3074	5.8572	0.0000	**	0.1330	0.2670	0.3307	0.1850	0.8494	1.1772
防災活動	0.1737	0.0316	0.1551	30.2854	5.5032	0.0000	**	0.1118	0.2357	0.3845	0.1723	0.7656	1.3062
社会貢献	0.1870	0.0323	0.1532	33.4447	5.7831	0.0000	**	0.1236	0.2505	0.2623	0.1808	0.8665	1.1541
不安感	0.0837	0.0363	0.0734	5.3079	2.3039	0.0214	*	0.0124	0.1550	0.3755	-0.0730	0.5982	1.6718
負傷	0.0364	0.0298	0.0349	1.4938	1.2222	0.2219		-0.0220	0.0949	0.2313	0.0388	0.7474	1.3379
エンターテイメント	0.0274	0.0291	0.0251	0.8890	0.9429	0.3460		-0.0296	0.0845	0.0219	0.0300	0.8558	1.1684
消防力を超える	0.0158	0.0268	0.0154	0.3463	0.5884	0.5564		-0.0369	0.0685	0.1698	0.0187	0.8878	1.1264
つまらなさ	0.0141	0.0272	0.0136	0.2699	0.5195	0.6035		-0.0392	0.0675	-0.0330	0.0165	0.8848	1.1302
地域密着	-0.0065	0.0287	-0.0059	0.0521	-0.2282	0.8195		-0.0629	0.0498	0.0405	-0.0073	0.8945	1.1179
災害時に自信	-0.0119	0.0330	-0.0099	0.1296	-0.3600	0.7189		-0.0767	0.0529	-0.0529	-0.0114	0.8016	1.2476
公共機関の喪失	-0.0154	0.0282	-0.0144	0.2993	-0.5471	0.5845		-0.0708	0.0399	0.1609	-0.0174	0.8790	1.1377
定数項	-2.0778	0.1746		141.6229	-11.9005	0.0000	**	-2.4205	-1.7352				

重相関係数		決定係数		F	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.6310	0.6252	0.3981	0.3908	1.9194	-563.6386

ウ 訓練はつまらないものというイメージを目的変数とした重回帰分析

訓練はつまらないものという要素を目的変数とした場合の重回帰分析結果は、表 3-4-24 に示すとおりであった。災害時に自信がある、消防力を超える災害が発生する、家族志向である、社会貢献でない、防災活動でない（関心がないなど）が訓練はつまらないものというイメージに影響を強く与えていることが示唆された。

表 3-4-24 訓練はつまらないというイメージを目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
災害時に自信	0.1738	0.0382	0.1504	20.7201	4.5519	0.0000	**	0.0989	0.2488	0.1516	0.1432	0.8182	1.2221
消防力を超える	0.0736	0.0313	0.0744	5.5353	2.3527	0.0188	*	0.0122	0.1350	0.0716	0.0746	0.8924	1.1205
家族志向	0.0887	0.0405	0.0721	4.7994	2.1907	0.0287	*	0.0092	0.1681	0.0661	0.0695	0.8250	1.2122
エンターテイメント	0.0654	0.0339	0.0622	3.7126	1.9268	0.0543		-0.0012	0.1319	0.0705	0.0611	0.8583	1.1651
身に着けておきたい	0.0468	0.0496	0.0387	0.8905	0.9437	0.3456		-0.0506	0.1443	-0.0118	0.0300	0.5310	1.8832
地域密着	0.0408	0.0335	0.0385	1.4848	1.2185	0.2233		-0.0249	0.1066	0.0271	0.0387	0.8958	1.1163
公共機関の喪失	0.0331	0.0329	0.0320	1.0083	1.0041	0.3156		-0.0316	0.0977	0.0428	0.0319	0.8796	1.1369
負傷	0.0216	0.0348	0.0214	0.3839	0.6196	0.5356		-0.0468	0.0899	-0.0119	0.0197	0.7466	1.3394
重要なもの	0.0193	0.0371	0.0200	0.2699	0.5195	0.6035		-0.0536	0.0921	-0.0330	0.0165	0.6020	1.6611
不安感	0.0025	0.0426	0.0023	0.0034	0.0585	0.9533		-0.0810	0.0860	-0.0084	0.0019	0.5950	1.6807
防災活動	-0.1333	0.0372	-0.1234	12.8300	-3.5819	0.0004	**	-0.2063	-0.0603	-0.0904	-0.1131	0.7525	1.3290
社会貢献	-0.3124	0.0371	-0.2655	70.8629	-8.4180	0.0000	**	-0.3852	-0.2396	-0.2486	-0.2585	0.8981	1.1134
定数項	-0.1850	0.2180		0.7202	-0.8486	0.3963		-0.6129	0.2428				

重相関係数		決定係数		F	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.3398	0.3236	0.1155	0.1047	1.8529	-251.4924

エ 身に着けておきたい防災の技術・知識の度合を目的変数とした重回帰分析

身に着けておきたい防災技術・知識の度合を目的変数とした場合の重回帰分析結果は表 3-4-25 に示すとおりであった。地域密着、つまらなさ、災害時に自信がある以外の要素がすべて影響を強く与えていることが示唆された。

表 3-4-25 身に着けておきたい防災の技術・知識の度合を目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
重要なもの	0.2631	0.0222	0.3304	139.8944	11.8277	0.0000	**	0.2194	0.3067	0.5609	0.3519	0.6869	1.4558
不安感	0.1906	0.0266	0.2100	51.4973	7.1762	0.0000	**	0.1385	0.2427	0.4914	0.2224	0.6259	1.5976
防災活動	0.1332	0.0236	0.1493	31.8889	5.6470	0.0000	**	0.0869	0.1795	0.4170	0.1767	0.7668	1.3042
公共機関の喪失	0.1011	0.0208	0.1183	23.5040	4.8481	0.0000	**	0.0602	0.1420	0.2763	0.1523	0.8996	1.1116
消防力を超える	0.0821	0.0199	0.1005	17.0140	4.1248	0.0000	**	0.0430	0.1211	0.2620	0.1300	0.9027	1.1077
負傷	0.0712	0.0222	0.0857	10.3259	3.2134	0.0014	**	0.0277	0.1147	0.2896	0.1016	0.7541	1.3261
社会貢献	0.0741	0.0245	0.0762	9.1662	3.0276	0.0025	**	0.0261	0.1221	0.1912	0.0958	0.8459	1.1822
家族志向	0.0580	0.0259	0.0571	5.0141	2.2392	0.0254	*	0.0072	0.1088	0.2944	0.0710	0.8252	1.2119
地域密着	0.0253	0.0214	0.0288	1.3886	1.1784	0.2389		-0.0168	0.0673	0.0199	0.0374	0.8957	1.1164
つまらなさ	0.0192	0.0203	0.0232	0.8905	0.9437	0.3456		-0.0207	0.0591	-0.0118	0.0300	0.8853	1.1295
災害時に自信	-0.0082	0.0247	-0.0086	0.1106	-0.3325	0.7395		-0.0567	0.0402	-0.0984	-0.0106	0.8015	1.2476
エンターテイメント	-0.0544	0.0217	-0.0626	6.2982	-2.5096	0.0122	*	-0.0970	-0.0119	-0.0379	-0.0795	0.8605	1.1621
定数項	3.0390	0.1007		909.9714	30.1657	0.0000	**	2.8413	3.2367				

重相関係数		決定係数		F	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.6852	0.6805	0.4695	0.4630	2.0233	-1147.061

オ 社会貢献を目的変数とした重回帰分析

社会貢献を目的変数とした場合の重回帰分析結果は表 3-4-26 に示すとおりであった。重要なもの、身に着けておきたい、地域密着、つまらないものという要素が影響を強く与えていることが示唆された。

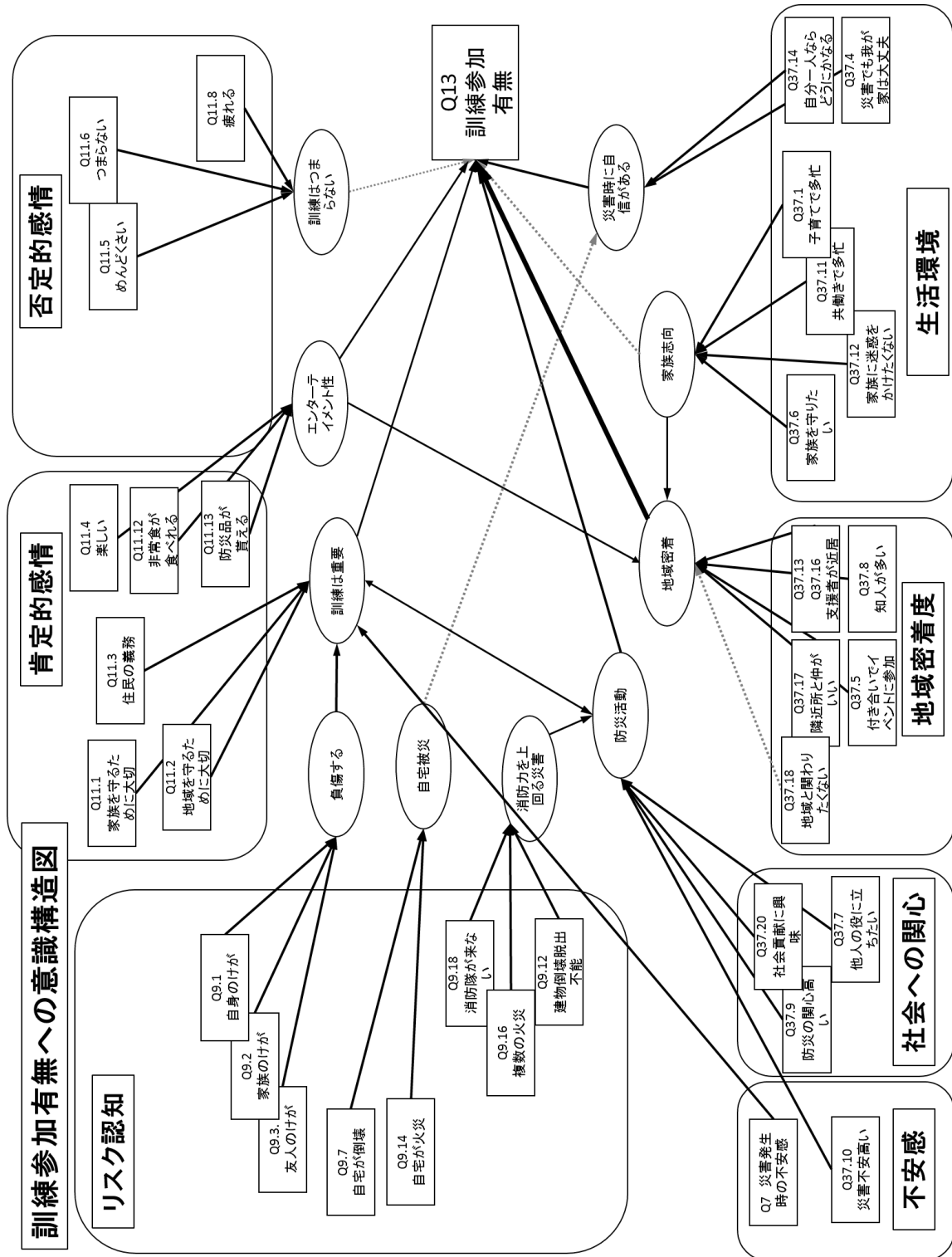
表 3-4-26 社会貢献を目的変数とした重回帰分析

変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の有意性の検定				偏回帰係数の95%信頼区間		目的変数との相関		多重共線性の統計量	
				F 値	t 値	P 値	判定	下限値	上限値	単相関	偏相関	トレランス	VIF
重要なもの	0.1747	0.0302	0.2133	33.4447	5.7831	0.0000	**	0.1154	0.2340	0.2623	0.1808	0.6222	1.6072
身に着けておきたい	0.1238	0.0409	0.1204	9.1662	3.0276	0.0025	**	0.0436	0.2041	0.1912	0.0958	0.5354	1.8676
地域密着	0.1044	0.0275	0.1158	14.3719	3.7910	0.0002	**	0.0504	0.1585	0.1400	0.1196	0.9074	1.1020
家族志向	0.0499	0.0355	0.0477	2.2140	1.4879	0.1371		-0.0159	0.1157	0.1179	0.0472	0.8228	1.2153
災害時に自信	0.0406	0.0319	0.0413	1.6183	1.2721	0.2036		-0.0220	0.1032	0.0141	0.0404	0.8028	1.2457
エンターテイメント	0.0162	0.0281	0.0181	0.3325	0.5766	0.5643		-0.0390	0.0714	0.0363	0.0183	0.8554	1.1691
防災活動	-0.0078	0.0310	-0.0085	0.0640	-0.2530	0.8004		-0.0686	0.0530	0.1139	-0.0080	0.7429	1.3461
負傷	-0.0131	0.0288	-0.0153	0.2070	-0.4550	0.6492		-0.0696	0.0434	0.0414	-0.0145	0.7465	1.3397
消防力を超える	-0.0152	0.0259	-0.0181	0.3447	-0.5871	0.5573		-0.0661	0.0357	-0.0007	-0.0187	0.8878	1.1264
公共機関の喪失	-0.0537	0.0272	-0.0611	3.8904	-1.9724	0.0488	*	-0.1071	-0.0003	-0.0264	-0.0626	0.8822	1.1336
不安感	-0.0642	0.0352	-0.0688	3.3350	-1.8262	0.0681	*	-0.1332	0.0048	0.0399	-0.0579	0.5970	1.6751
つまらなさ	-0.2138	0.0254	-0.2516	70.8629	-8.4180	0.0000	**	-0.2637	-0.1640	-0.2486	-0.2585	0.9479	1.0550
定数項	-0.2247	0.1803		1.5531	-1.2462	0.2130		-0.5785	0.1291				

重相関係数		決定係数		F	AIC
R	修正R	R2乗	修正R2乗		
0.4023	0.3895	0.1618	0.1517	1.9436	-631.8619

(7) 訓練参加意向有無への意識構造図

ここまでの分析の結果で意識構造図を作成すると図 3-4-8 のようになった。訓練参加への動機付けを行うには、訓練の重要性のイメージ付与や、訓練がつまらないというイメージの払拭、防災の知識を身に着けておきたい意識にさせる働きかけが重要であることが示唆された。



※青色矢印はマイナスに効いていることを示す

図 3-4-8 訓練参加意向有無への意識構造図

(8) 訓練不参加理由

Q17.あなたが防火防災訓練しなかったのはどのような理由ですか。以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。(複数選択可)			
	当てはまる	当てはまらない	
1.都合(時間)が合わなかったから	1	0	
2.都合(曜日)が合わなかったから	1	0	
3.一緒に行ってくれる人がいなかったから	1	0	
4.災害の対応は消防や自衛隊などのプロに任せるべきだと思うから	1	0	
5.目の離せない小さな子がいたから	1	0	
6.実施場所が遠いので、参加しようと思わなかったから	1	0	
7.自分には関係ないと思うから	1	0	
8.訓練していても意味がないと思うから	1	0	
9.できることをできる範囲でやればよいと思うから	1	0	
10.ほかの人たちがやっているので大丈夫だと思うから	1	0	
11.訓練にわざわざ出かけるのが面倒だから	1	0	
12.訓練の内容は十分知っており、必要ないと思うから	1	0	
13.体を動かすのが面倒だから	1	0	
14.普段親しくない人と一緒に何かをするのが嫌だから	1	0	
15.世代の違う人たちと何かを一緒にするのは嫌だから	1	0	
16.地域の人たちの集まりに、入っていくのは嫌だから	1	0	
17.防火防災訓練があることを知らなかった	1	0	
18.病気等で体が悪く参加できないから	1	0	
19.屋外で行われる行事には参加したくないから	1	0	
20.参加する理由がなかったから(参加する気にならなかったから)	1	0	

意識構造とは異なるが、防火防災訓練参加意向有無で不参加理由について整理した。Q17 「訓練に参加しなかった理由」の設問について確認した。

各項目で、「当てはまる」、「当てはまらない」の二択で回答しているので、「当てはまる」を1、「当てはまらない」を0とした。

訓練未経験者だけを対象に Q17 の全項目を用いて因子分析を実施した結果、固有値が1以上の因子が8つ発生したため、因子分析で分類することを止め、一つ一つの項目を確認することにした。

参加意向有無を軸にクロス集計し、カイ二乗検定を行った。

参加意向有無共に多い理由としては、時間が合わない、曜日が合わない、知らなかった、参加する理由がないである(表3-4-27、図3-4-9)。

参加意向有無で差がある項目として、参加意向がある人は、時間や曜日が合わない、知らなかったという「機会の喪失」といった理由に対し、参加意向がない人は、参加する理由がない、面倒、できる範囲でやればよい、親しくない人が嫌、地域の集まりが嫌、体を動かすのが面倒といった「訓練否定的」な理由であった。

表 3-4-27 Q17 における訓練参加意向有無別集計及びカイ二乗検定結果

番号	1	2	17	20	11	9	14	3	16	5	6	18	15	13	8	4	10	19	7	12
項目	時間 が 合 わ な い	曜 日 が 合 わ な い	知 ら な か っ た	参 加 す る 理 由 が な い	面 倒	で き る 範 圍 で や る	親 し く な い 人 が い や	同 行 者 な し	地 域 の 集 ま り が い や	子 供 が い る	実 施 場 所 が 遠 い	体 が 悪 い	世 代 が 違 う の が い や	体 を 動 か す の が 面 倒	意 味 が な い	プ ロ に 任 せ る べ き	他 人 任 せ	屋 外 が い や	関 係 な い	知 っ て い る
未希望 (173人中)	35 20.2%	37 21.4%	29 16.8%	77 44.5%	29 16.8%	22 12.7%	22 12.7%	8 4.6%	18 10.4%	2 1.2%	4 2.3%	8 4.6%	9 5.2%	8 4.6%	11 6.4%	4 2.3%	5 2.9%	6 3.5%	5 2.9%	3 1.7%
参加希望 (830人中)	276 33.3%	245 29.5%	239 28.8%	145 17.5%	61 7.3%	39 4.7%	36 4.3%	47 5.7%	36 4.3%	32 3.9%	29 3.5%	23 2.8%	13 1.6%	9 1.1%	3 0.4%	8 1.0%	7 0.8%	5 0.6%	3 0.4%	4 0.5%
カイ二乗値	14.348	4.683	10.585	60.729	15.532	16.113	18.450	0.298	10.346	3.185	0.628	1.641	8.823	10.767	37.408	2.202	5.074	10.840	11.570	3.239
P 値	0.001	0.030	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.585	0.001	0.074	0.428	0.200	0.003	0.001	0.000	0.138	0.024	0.001	0.001	0.072
判定	**	*	**	**	**	**	**		**				**	**	**		*	**	**	

※斜線網掛けは機会の喪失、塗りつぶしは防火防災訓練否定的な理由を示す。

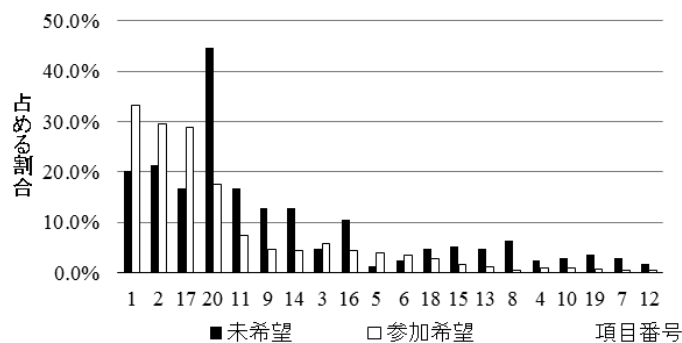


図 3-4-9 Q17 における訓練参加意向有無別集計

(9) 地域のイベント情報等の入手

Q36.あなたが普段地域のイベント等の情報を手に入れる手段を以下の項目から当てはまる番号を全て選択してください。また、選択肢に該当がなければ、その他()内に内容を具体的にご記入ください。(複数回答可)

	当てはまる	当てはまらない
1.街なかの掲示版・ポスター	1	0
2.マンションの掲示版・ポスター	1	0
3.地域のチラシ	1	0
4.市区町村の広報紙	1	0
5.市区町村のメールマガジン	1	0
6.知人友人の口コミ	1	0
7.回覧板	1	0
8.マンション管理組合	1	0
9.町会・自治会の会合	1	0
10.学校(PTA含む)	1	0
11.幼稚園、保育所、学童保育	1	0
12.公民館、児童館	1	0
13.TV、ラジオ、新聞などのマスメディア	1	0
14.インターネット、SNS	1	0
15.地域協議会や商店会組合等の町会・自治会を除く地域の集まり	1	0
16.NPO団体、生涯学習団体、地域ボランティア団体	1	0
17.その他	1	0
18.情報が手に入らない	1	0

前(8)と同様に意識構造とは異なるが、防火防災訓練参加意向有無で地域のイベント情報等の入手方法について整理した。Q36「地域のイベント情報等の入手方法」について確認した。本設問の項目は、内容の意図がそれぞれ異なるので、参加意向有無を軸に項目ごとにクロス集計し、カイ二乗検定を行った。差がある項目としては、市区町村の広報紙や地域のチラシによる地域イベント情報等の入手で、参加意向がない人は地域のイベント情報等が手に入らない結果であった(表 3-4-28、図 3-4-10)。

表 3-4-28 Q36 における訓練参加意向有無別集計及びカイ二乗検定結果

番号	4	1	2	7	3	14	8	6	10	13	11	9	12	5	16	15	17	18
項目	市区町村の広報紙	街なかの掲示板	マンションの掲示板	回覧板	地域のチラシ	インターネット	マンション管理組合	知人友人のロコミ	学校（PTAを含む）	マスメディア	幼稚園等	町会・自治会の会合	公民館、児童館	市区町村のメールマガジン	NPO団体等	地域協議会等	その他	情報が手に入らない
未希望 (173人中)	54 31%	53 31%	38 22%	38 22%	28 16%	13 8%	17 10%	7 4%	4 2%	7 4%	1 1%	6 3%	2 1%	6 3%	0 0%	0 0%	0 0%	32 18%
参加希望 (830人中)	367 44%	294 35%	248 30%	221 27%	223 27%	111 13%	94 11%	57 7%	54 7%	49 6%	35 4%	25 3%	28 3%	22 3%	2 0%	1 0%	0 0%	87 10%
カイ二乗値	9.9382	1.449	4.399	1.624	8.707	4.536	0.327	1.907	4.622	0.937	5.478	0.099	2.426	0.353	0.418	0.209		8.795
P 値	0.0016	0.229	0.036	0.203	0.003	0.033	0.568	0.167	0.032	0.333	0.019	0.752	0.119	0.553	0.518	0.648		0.003
判定	**		*		**	*			*		*							**

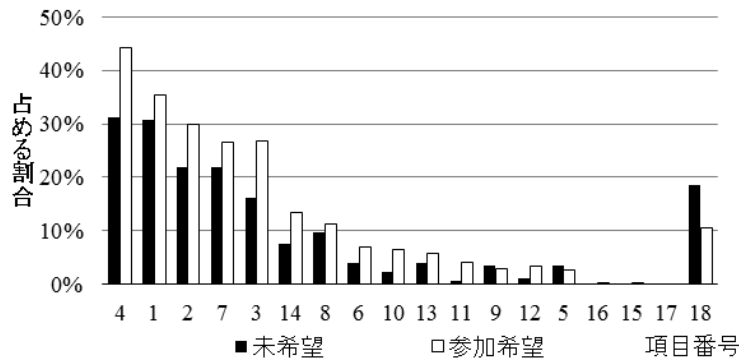


図 3-4-10 Q36 における訓練参加意向有無別集計

3 第4節のまとめ

防火防災訓練に参加するに至る意識構造としては、訓練が重要であるという意識よりも地域に密着しているという意識が最も強く関係していることが明らかになった。この意識構造での防火防災訓練参加は、今までの東京消防庁管内における防火防災訓練のスタイルとも言える。

今後、未参加者に参加してもらうためには、地域密着している意識がない人に対して、地域密着以外の意識の部分から防火防災訓練への参加を促していくことが必要である。

防火防災訓練の参加意向がある人は、防火防災訓練の重要性の理解や防災に関する知識・スキルを身に着けたいという意識構造があることが明らかになった。さらに、防火防災訓練の情報が手に入らないことなどの機会の喪失が阻害要因となることが明らかになった。

そのため、参加意向がある人に防火防災訓練の開催情報が確実に届くような働きかけについて配慮することが必要となる。

また、参加意向がない人を参加に導くためには、訓練の重要性の訴求や、つまらなさのイメージの部分の克服を主軸にして、推進することが必要である。

第5節 クラスタ分析を用いたセグメントの特徴の分析

アンケートのうち、「訓練参加意向あり（回答数：830票，回答割合：52%）以下、意向あり」を対象にクラスタ分析を行った。意向ありと回答した830人を意向の強弱等でグループに分類できる可能性を検討することを目的とした。

1 クラスタ分析に使用した因子

因子分析に用いた設問は、回帰分析の結果「訓練参加意向」に有意性のあった設問（表3-5-1）とし、各因子の因子得点を合成変数とし、クラスタ分析（非階層型：k-means法）を行った。

表3-5-1 クラスタ分析に用いた因子

設問番号	設問内容	分析結果及び因子得点
Q10	身に着きたい技術・知識	◎因子1：防災力を身に着きたい (最大1.5、最小-3.6の連続値)
Q11	訓練のイメージ	◎因子1：訓練は重要 (最大1.5、最小-3.0の連続値) ◎因子2：訓練はつまらない (最大2.5、最小-1.8の連続値) 因子3：エンターテイメント性 (最大4.4、最小-1.4の連続値)
Q37	生活に関する意識	◎因子1：地域密着 (最大3.2、最小-1.5の連続値) ◎因子2：防災活動 (最大2.3、最小-1.9の連続値) 因子3：社会貢献 (最大2.6、最小-2.4の連続値) 因子4：災害時に自信 (最大2.4、最小-1.9の連続値) 因子5：家族優先 (最大2.5、最小-1.6の連続値) 因子6：体が悪い (最大3.2、最小-1.1の連続値)

◎：クラスタ分析に用いた変数(因子得点)

2 クラスタ分析結果

訓練参加意向に有意性のあった因子（表3-5-1 防災力を身に着きたい、訓練は重要、訓練はつまらない、地域密着、防災活動）の因子得点を用いクラスタ分析（非階層型：k-means法）を行い3つのクラスタに分類した。

クラスタ分析により3つのクラスタに分類した結果を表3-5-2、図3-5-1に示す。

「意向あり（標本数：830）」のうちクラスタ1が313標本37.7%、クラスタ2が300標本36.1%、クラスタ3が217標本26.1%となった（表3-5-3）。

表3-5-2 3つのクラスタの中心の最終結果

変数	訓練は重要	防災力を身	防災活動	訓練はつま	地域密着
クラスタ1	0.701	0.620	0.579	-0.513	-0.063
クラスタ2	-0.892	-0.865	-0.531	-0.197	-0.047
クラスタ3	0.222	0.301	-0.101	1.012	0.156

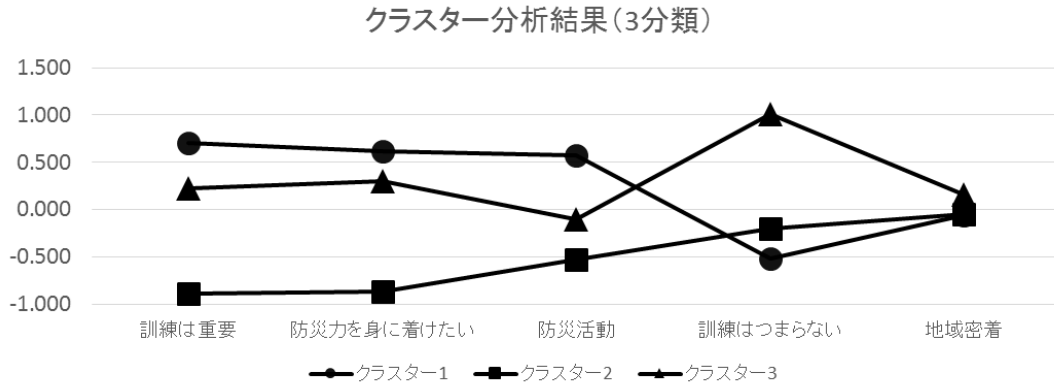


図 3-5-1 因子得点による 3 つのクラスター分析結果

表 3-5-3 3 つのクラスターの分類時のセグメント内の標本数及び標本割合

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	全 体
n	313	300	217	830
%	37.71%	36.14%	26.14%	100.00%

クラスター1は、「訓練は重要」、「防災力を身に着けたい」、「防災活動」の因子で中心が高く、「訓練はつまらない」という因子で中心が低い。このことから、訓練に参加する意思はあり、また、訓練に対するネガティブなイメージもないことから、他のクラスターに比べて訓練に参加しやすいクラスターだと考えられる。

しかし、クラスター1は訓練に参加していないため何らかの要因により訓練に参加できなかったと考えられる。そこでクラスター1には訓練に参加できる環境（季節、曜日、時間、場所等）を用意すること、すなわち訓練の参加コストを下げるのが重要だと考えられる。

クラスター2をみると、「訓練は重要」、「防災力を身に着けたい」、「防災活動」の因子で中心が低い。このことから訓練の参加意向はあると回答しているもののそれほど積極的に訓練に参加する意思のないクラスターであり、防災意識そのものを上げる取り組みが必要となるクラスターだと考えられる。

クラスター3をみると、「訓練は重要」、「防災力を身に着けたい」の中心はやや高く、「訓練はつまらない」の中心が最も高くなっている。このことからクラスター3は、防災に興味はあるものの「訓練はつまらない」と考えており、それが訓練参加の阻害要因になっていると考えられる。よって、訓練内容の工夫を行い、住民にとって魅力のある訓練にすることにより、参加を促進できると考えられる。

このことから、クラスター1は訓練に参加できる環境を、クラスター3には魅力のある訓練をそれぞれ提供することで訓練参加を促進できる可能性が示唆された。クラスター2は訓練に参加したいという意思が低く、訓練に参加する意向が低い可能性があることからクラスター1とクラスター3を対象とした訓練の工夫により訓練参加者を増やせると考えられる。

3 各クラスターの特徴

(1) 各クラスターの性別

各クラスターの男女別の票数を図 3-5-2 に示す。

クラスター1は女性の方が多いが、クラスター2とクラスター3では差がみられなかった。このことから女性の方が男性に比べ、訓練はつまらないという意識を持っている人が少なく、男性と比較して訓練に参加しやすいと考えられる。

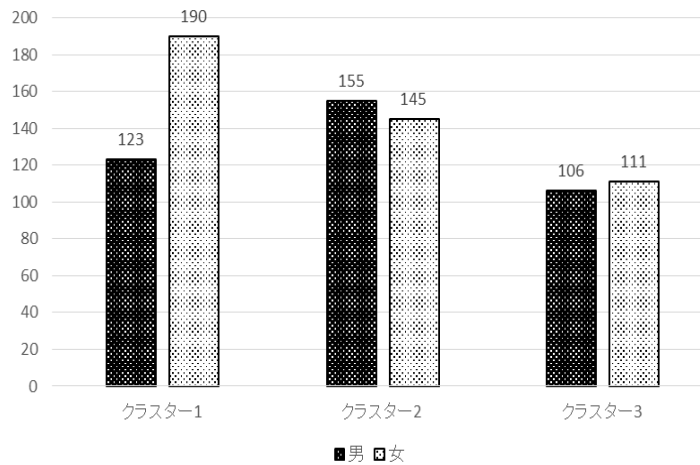


図 3-5-2 各クラスターの男女別票数

(2) 各クラスターの年代構成

各クラスターの年代別構成割合を図 3-5-3 に、平均年齢を表 3-5-4 に示す。

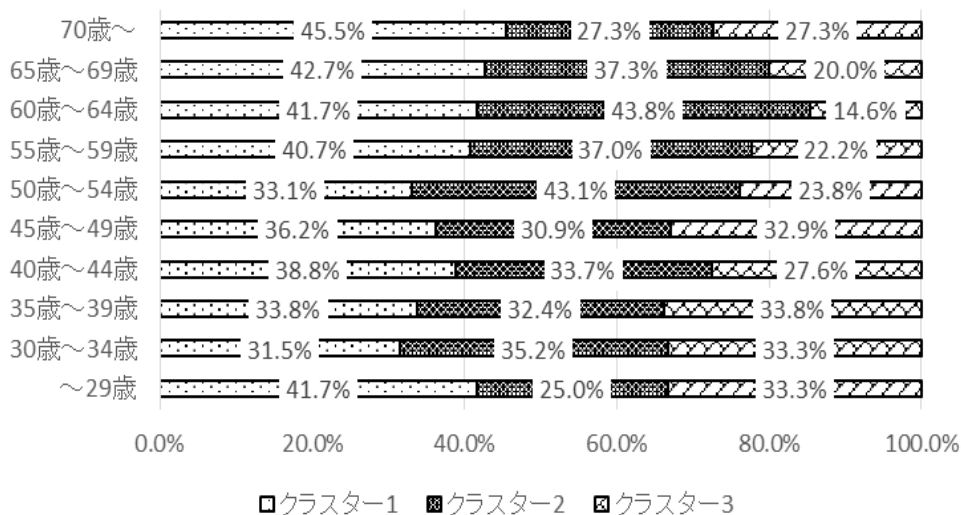


図 3-5-3 年代別のクラスター構成割合

表 3-5-4 各クラスターの平均年齢

	クラスター1	クラスター2	クラスター3
平均年齢	51.0	50.9	48.2

訓練に最も参加しやすいと考えられるクラスター1は、40歳台後半から50歳台で一度下がるが、年代が上がるにつれて増える傾向にある。最も割合の低い30～34歳でも31.5%いることから、訓練に参加しないといわれている比較的若い世代でも訓練に参加できる環境を用意することで多くの住民が訓練に参加する可能性があるといえる。

クラスター2は、アンケートで訓練に参加したいと回答していたものの防災への興味はやや低いと考えられるクラスターであるが、50～60歳代の割合が高く、年齢が上がれば防災への関心が高まるわけではないことが示唆される。

クラスター3は、防災には興味はあるが訓練はつまらないと考えているクラスターであるが、49歳以下のほとんどの年代で30%を超えており、比較的若い世代ほど訓練はつまらないという印象を持っていると考えられる。

(3) 各クラスターの世帯構成別割合

各クラスターの世帯構成別の割合を図3-5-4に示す。

60歳以上と同居している世帯では、クラスター1が多くクラスター3が少ないが、40歳未満の単身世帯ではクラスター3が多く、クラスター1が少ない。このことから、60歳以上と同居している世帯では、訓練を重要だと思っている人が多く、40歳未満の単身世帯は訓練をつまらないものだと思っている世帯が多いといえる。このことから、40歳未満の単身世帯は訓練に参加しにくいことがわかる。

子供と同居している子育て世帯をみると、各世帯構成で大きな差は見られない。しかし、子供の学習段階が上がるにつれクラスター1の割合が減り、クラスター2の割合が増えていることから、子供が大きくなるにつれて訓練に参加しにくくなる可能性があるといえる。

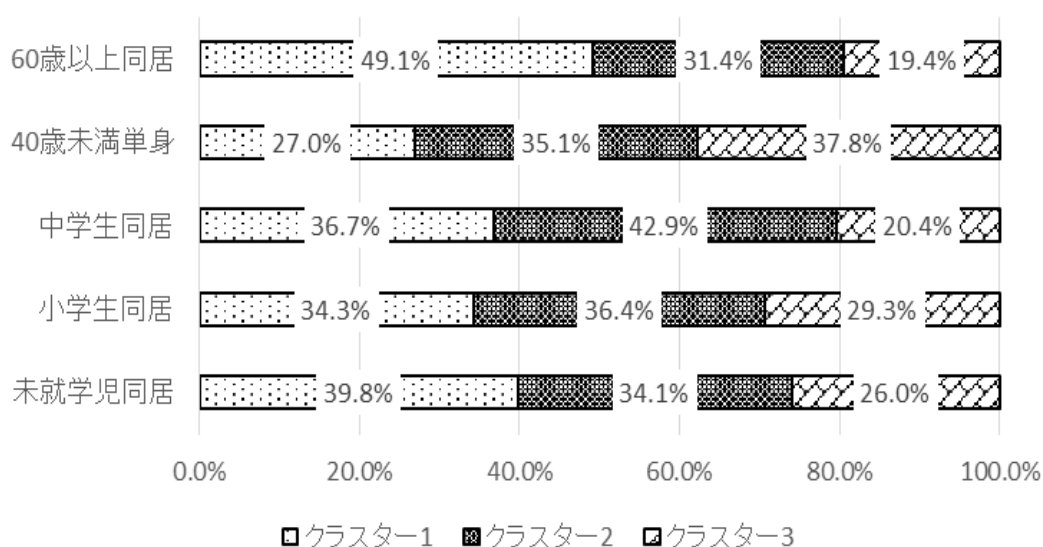


図3-5-4 世帯構成別のクラスター構成割合

(4) 各クラスターの共同住宅の階層別割合

クラスターの共同住宅の階層別の割合を図 3-5-5 に示す。

ここでは高層を 4 階以上、低層を 3 階以下とした。居住形態で比較すると、クラスターにほとんど差は見られない。

このことから居住形態の違いによる訓練の参加しやすさの差はそれほどないと考えられる。

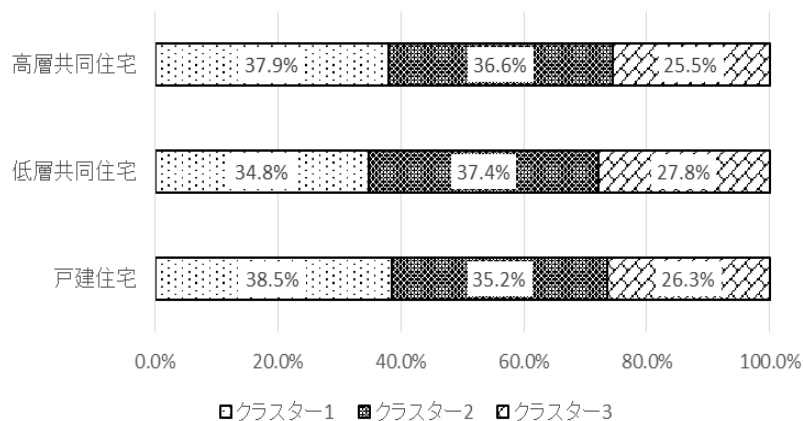


図 3-5-5 居住形態別のクラスター構成割合

4 第5節のまとめ

訓練参加意向のある人だけを対象とし、訓練参加意向に有意性のある因子を用いクラスター分析を行ったところ、次のような結果を得た。

(1) クラスターの分類

3つのクラスターに分類したところ

ア クラスター1 (37.7%)

訓練に参加したいと思っているが参加ができていないクラスター

イ クラスター2 (36.1%)

訓練に参加したいとアンケートには回答しているが、防災意識は低く実際には参加しない可能性の高いクラスター

ウ クラスター3 (26.1%)

訓練は重要だと理解しているが訓練はつまらないものと考えており、訓練に参加していないクラスター

の3つに分類されることがわかった。

(2) クラスターの分類から示唆される訓練の工夫

ア 訓練に参加したいと考えているが参加できていないクラスターがあったことから、「訓練に参加できる環境」を作ることが重要である。

イ 訓練はつまらないものと考えているクラスターがあったことから「住民にとって魅力的な訓練」にするための工夫を行うことが重要である。

上記2つはいずれも住民の訓練ニーズといえる内容である。訓練に参加しようとする住民は、地域や居住環境・年齢等によって訓練ニーズは違うと考え

られることから、住民のニーズを的確に収集しそれを満たした訓練を行うことが重要だと考えられる。

(3) クラスタ分析から得られた知見

- ア 男性に比べ女性の方が潜在的に訓練に参加する可能性が高い。
- イ 若い世代の方が訓練はつまらないものだと考えている。
- ウ 訓練を重要だと思うクラスター1の割合は年齢とともに増加するが、防災に興味のないクラスター2は年齢間の関連性が見いだせない。
- エ 子供の年齢が上がるほど訓練に参加しにくくなる可能性がある。
- オ 居住形態によるクラスターの割合の差はない。

第6節 アンケート分析結果による検討の方向性とターゲット

本節ではアンケートの分析結果から、訓練参加の有無と参加意向の有無に着目し、訓練参加に影響を与える意識の整理を行った。その上で防火防災訓練の推進方策を検討するにあたり方向性の設定を行った。

1 アンケートにおける意識構造分析等の結果

(1) アンケート調査における参加の有無と参加意向の有無別の標本数

アンケート調査における参加の有無別等の票数及び割合を表 3-6-1 に示す。

訓練参加経験者が 597 人 (37%)、訓練未経験者で参加の意向がある「参加意向あり」は 830 人 (52%)、「参加意向なし」は 173 人 (11%) であった。

「参加意向あり」が最も多く全体の半数以上を占めていた。次いで「訓練参加経験者」が約 3 割であった。「参加意向なし」は、最も少なく約 1 割であった。

表 3-6-1 アンケート調査における訓練参加経験・意向の有無別の標本数と標本割合

参加経験有無	参加意向有無	標本数 (標本割合)
訓練参加経験あり		597 標本 (37%)
訓練参加経験なし	参加意向あり	830 標本 (52%)
	参加意向なし	173 標本 (11%)
合 計		1,600 標本 (100%)

(2) 訓練参加経験の有無に影響を与える主な因子

アンケート調査結果における参加の有無に影響を与える主な因子を図 3-6-1 に示す。

訓練参加に影響を与える因子の意識構造を分析した結果、訓練参加経験者は、未参加者に比べて「町会に加入」「隣近所と仲がいい」「周囲に知人が多い」など「地域に溶けこんでいる」という特徴があった。

このことから町会に加入しており、地域に知り合いが多く、地域の情報を多く保有しやすい人の方がそうでない人に比べて訓練に参加していることが分かった。

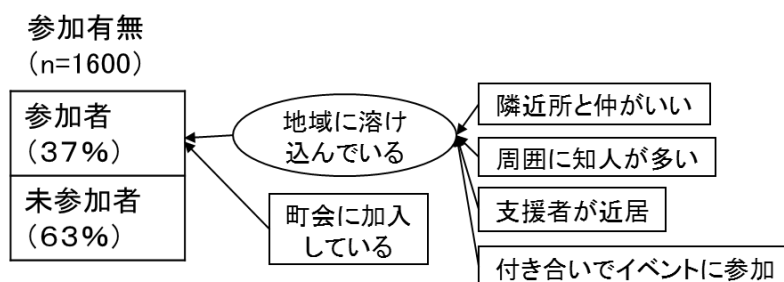


図 3-6-1 アンケート調査における訓練参加の有無に影響を与える主な因子

(3) 訓練参加意向に影響を与える主な因子

訓練に一度も参加したことの無いと回答した 1,003 人の訓練に参加してみたいという訓練参加意向の有無に影響を与える主な因子を図 3-6-2 に示す。

訓練未参加者における訓練参加意向の有無に着目すると、機会があれば参加したいと回答した「参加意向あり」の人は 830 標本であり、訓練未参加者 1,003 標本の 83%にあたる。参加するつもりのない「参加意向なし」の人は 173 標本で 17%であった。

「参加意向あり」の人に注目すると、「防災の知識を身に着けたい」、「防災訓練は重要」という意識がある一方「訓練の情報が手に入らない」と回答している傾向が見られた。このことから、訓練は重要だと思っており、防災の知識を身に着けるために訓練に参加したいと思っているが、訓練の開催情報が届いておらず訓練に参加できなかったことがわかる。現在の防火防災訓練は町会・自治会単位で開催されることが多く、未加入者に開催情報が届いていないと推察される。

「参加意向なし」の人からは、「訓練はつまらない」、「訓練に参加する理由がない」という意識が認められた。これは訓練に参加する必要性を感じておらず、つまらないものであるという先入観から参加意向がないと推察される。

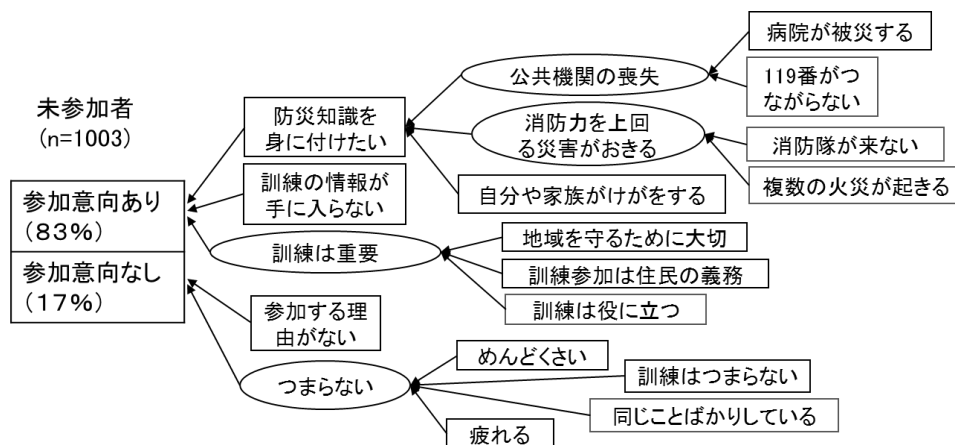


図 3-6-2 訓練未参加者における訓練参加意向の有無に影響を与える主な因子

2 参加経験の有無等からみた対象の整理

訓練参加経験の有無や意向の有無別に訓練対象者を分けた場合、「参加意向あり」は、全体の 52%であった。訓練参加に影響を与える因子からも、訓練に参加したいが訓練情報が手に入らないために参加できないという状況が示唆されていることから、参加意向がある人は訓練に参加する可能性が比較的高いと推測できる。参加意向がありの人は、人数が多く、訓練に参加する可能性も高いことから、優先して働きかけを行うべき対象者として考えられる。

次に「訓練参加経験者」は、全体の 37%であり、訓練未経験者が訓練に参加することでその割合はさらに増えていくと考えられる。防火防災訓練は一度参加すればその後必要がなくなるわけではないため、引き続いて訓練に参加してもら

うことが重要である。このことから参加を続けてもらう参加継続手法が必要になると考えられる。

また、「訓練参加経験者」の訓練参加に影響を与える因子をみると地域に密着し、知り合いが多いという特徴があることから、口コミによる広報効果も期待できる。このことから継続して参加してもらうための工夫が必要な対象者だと考えられる。

最後に、11%の訓練に参加する意思のない「参加意向なし」であるが、全体数は他に比べて少ない。また、訓練には参加したくないと考えているため、訓練へ参加するまでのハードルは比較的高いと考えられる。

しかし、訓練参加に影響を与える因子をみると訓練の重要性を知らない、または理解していないために参加の意向がないとも考えられるため、訓練の重要性を知らせることにより、訓練の参加意向が生まれる可能性も考えられる。このことから、優先順位は他に比べて低い訓練の必要性などの周知が必要な対象者だと考えられる。

3 訓練参加の有無等でみた検討の方向性

(1) 訓練参加意向ありの人に対する検討の方向性

訓練参加意向のある人は、参加したいという意思はあることから、参加できない阻害要因は開催情報が手に入らないことにあるといえる。そこで検討の方向性として、訓練の開催情報を知ってもらううえで、訓練に参加できる環境を整えて参加してもらうことが重要だと考えられる。

そこで参加意向のある訓練の未参加者に対しては、訓練の開催情報を「知ってもらうこと」と、訓練環境を整えて「訓練に参加してもらうこと」を検討の方向性とする。

訓練参加経験者と訓練参加意向ありでわかった訓練参加の有無に影響を与えている主な因子と検討性の方向性は、**図 3-6-3** のとおりである。

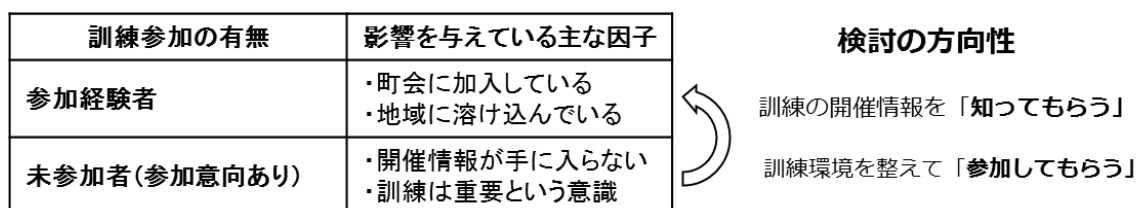


図 3-6-3 訓練参加の有無に影響を与えている主な因子と検討の方向性

(2) 参加意向なしの人に対する検討の方向性

訓練意向がない人は、訓練がつまらない、訓練に参加する理由がないと考えている。その反面参加意向のある人は、訓練を重要だと考えており、防災や訓練に対する認識の違いが参加意向の差に表れていると考えられる。

これまでの防火防災訓練の参加への働きかけは、防火防災訓練に参加しようという内容がほとんどであり、何のために必要なのか、何の役に立つのか

という働きかけはあまり行われてこなかった傾向にある。そこで参加意向がない人たちに対しては、訓練がなぜ必要なのかという必要性・重要性を知ってもらう必要がある。

参加意向の有無別に影響を与えている主な因子と検討の方向性を図 3-6-4 に示す。

訓練参加の有無	影響を与えている主な因子	検討の方向性
未参加者(参加意向あり)	・開催情報が手に入らない ・訓練は重要という意識	訓練の重要性を「知ってもらう」
未参加者(参加意向なし)	・訓練はつまらない ・参加する理由がない	

図 3-6-4 訓練意向の有無に影響を与えている主な因子と検討の方向性

(3) 訓練にすでに参加している人に対する検討の方向性

訓練参加経験者は、すでに訓練に参加しているため訓練参加を促す働きかけは効果が薄い。しかし、防災の知識技術を広く身に付けてもらうためには繰り返し訓練に参加してもらうための「続けてもらう」工夫が必要である（図 3-6-5 参照）。

訓練参加の有無	影響を与えている主な因子	検討の方向性
訓練参加経験者	・町会に加入している ・地域に溶け込んでいる	訓練経験者には「続けてもらう」

図 3-6-5 訓練参加者の主な因子と検討の方向性

(4) 訓練参加の段階別にみた検討の方向性のまとめ

訓練参加の段階別にみた検討の方向性をまとめたものを図 3-6-6 に示す。ここでの検討の方向性は大きく 3 つに分けられる。

- ① 第一に訓練未参加者に訓練の重要性と開催情報を「知ってもらう」こと
- ② 第二に訓練に参加できる環境を整えて「参加してもらう」こと
- ③ 第三に訓練参加経験者に訓練の参加を「続けてもらう」こと

この 3 つの方向性を基に訓練の推進方策を検討した。

訓練参加の有無	影響を与えている主な因子	検討の方向性
参加経験者	・町会に加入している ・地域に溶け込んでいる	訓練の参加を「続けてもらう」
未参加者(参加意向あり)	・開催情報が手に入らない ・訓練は重要という意識	訓練環境を整えて「参加してもらう」 訓練の開催情報を「知ってもらう」
未参加者(参加意向なし)	・訓練はつまらない ・参加する理由がない	訓練の重要性を「知ってもらう」

図 3-6-6 検討の方向性の整理

4 子育て世代の訓練参加経験及び参加意向の割合と検討の方向性

(1) 子育て世代の訓練参加経験及び参加意向の割合

子供の年齢等のライフステージセグメント毎に訓練参加経験及び参加意向の有無に着目し、その比率を比較したものを図 3-6-7 に示す。

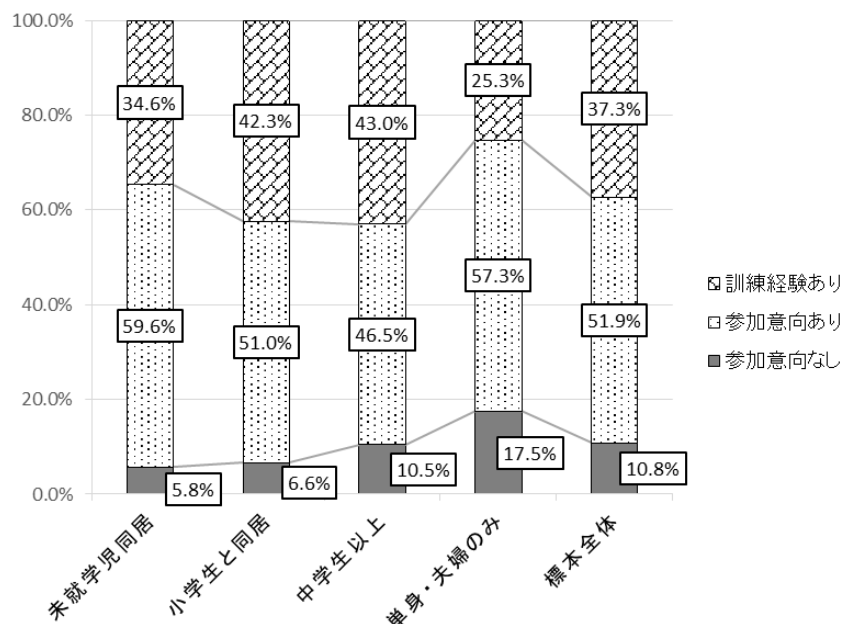


図 3-6-7 子育て世代に注目した訓練参加経験及び訓練参加意向の割合

未就学児と同居している世帯をみると、参加意向がある人の割合は 59.6%と他のセグメントに比べ最も高く、参加意向がない人の割合も 5.8%と最も低い。

子供の年齢が上がり小学生と同居になると、参加意向なしの割合は、やや増え 6.6%になり、参加意向のある人は 51.0%と大きく減る。参加意向のある人が減ったのは、訓練経験者が 34.6%から 42.3%と 7.7%増えたからであり、子供が小学生になる間に訓練に参加する保護者が多くいることがわかる。

訓練参加経験者と訓練参加意向のない人の割合が増える傾向は、子供が中学校以上も同様であった。これは子供の年齢が上がるにつれ、訓練に参加する機会があり訓練に参加する一方で、防災への関心が低くなる人が多いと考えられる。

単身または夫婦のみの世帯をみると、訓練参加意向のない人の割合が 17.5%と高く、訓練参加経験のある人の割合も 25.3%と低い。

これらのことから、若い子供と同居している世帯は防火防災訓練に参加する可能性が高いことが示唆された。

(2) 子育て世代の訓練の検討の方向性

どのような手段で防火防災訓練の開催を告知すると効果があるか、新規参加率はどれくらいであるか確認するため、子育て世代を実地検証における訓練対象者の一つとして検証を行う。